

平成16年度研修事業の概要

(各研修事業別個表)

① 各地域の基幹たる校長・教頭等の教職員に対する学校管理研修

1. 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修（教職員等中央研修講座）	
第1回 校長、教頭等	1
第2回 校長、教頭等	3
第3回 校長、教頭等	5
第4回 校長、教頭等	7
2. 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修（教職員等中央研修講座）	
第1回 中堅教員	9
第2回 中堅教員	11
第3回 中堅教員	13
第4回 中堅教員	15
3. 各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立高等学校）	
（公立高等学校幹部事務職員研修講座）	17
4. 各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立小・中学校）	
（公立小・中学校幹部事務職員研修講座）	19
5. 国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修（海外派遣）	
（16日）	21
（2ヶ月）	23
（3ヶ月）	25
（6ヶ月）	27
（12ヶ月）	29

② 喫緊の重要課題について、地方公共団体が行う研修等の先行段階としてセンターが行う研修

1. 児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の養成を目的とした研修（「学習の評価」に関する研修）	
小学校 北海道・東北ブロック	31
小学校 関東・甲信越ブロック	33
小学校 東海・北陸ブロック	35
小学校 近畿ブロック	37
小学校 中国・四国・九州ブロック	39
中学校 北海道・東北ブロック	41
中学校 関東・甲信越ブロック	43

中学校 東海・北陸ブロック	45
中学校 近畿ブロック	47
中学校 中国・四国・九州ブロック	49
2. 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修（道徳教育連携・推進講座）	
第1回中央研修講座	51
第2回中央研修講座	53
3. 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修（道徳教育連携・推進講座）	
地区別研修講座	55
4. 子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修（学校体育指導者中央講習会）	
東部地区	56
中部地区	58
西部地区	60
5. ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修（教育情報化推進指導者養成研修）	
指導主事ー全国	62
特殊教育諸学校ー全国	64
小学校ー北海道・東北	66
小学校ー関東・甲	68
小学校ー北陸・信越	70
小学校ー東海・近畿	72
小学校ー中国・四国	74
小学校ー九州・沖縄	76
中学校・高等学校ー北海道・東北	78
中学校・高等学校1ー関東・甲	80
中学校・高等学校2ー関東・甲	82
中学校・高等学校ー北陸・信越	84
中学校・高等学校1ー東海・近畿	86
中学校・高等学校2ー東海・近畿	88
中学校・高等学校ー中国・四国	90
中学校・高等学校ー九州・沖縄	92
6. 環境保全のための教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修（環境教育等担当教員講習会）	
東部地区	94
西部地区	96
7. 体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の養成を目的とした研修（体験活動担当教員講習会）	
東日本ブロック	98
西日本ブロック	101
8. 生徒指導上の諸課題に対応するための指導者の養成を目的とした研修（生徒指導総合研修講座）	104
9. キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導講座）	
東日本地区	108
西日本地区	111
10. 人権教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（人権教育セミナー）	114

11. 特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修	
中央	116
中央	118
東部（小学校英語活動研修講座）	120
中部（小学校英語活動研修講座）	122
西部（小学校英語活動研修講座）	124
12. 指導力不足教員に対応するための指導者の養成を目的とした研修	
東日本ブロック	126
西日本ブロック	128
13. 外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修	
中間期研修会	130
来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・第2次）	131
14. 外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修	
再契約予定者研修会（A日程・B日程）	135
15. 外国人児童生徒等に対する日本語指導のための指導者の養成を目的とした研修 （外国人児童生徒等日本語指導講習会）	
第1回、第2回	138
17. 児童生徒の心身の健康問題に対応するための指導者の養成を目的とした研修 （保健室相談活動研修会・養護教諭中央研修会）	141
18. 健康教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 （健康教育指導者中央研修会）	144
19. 健康教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 （エイズ・薬物乱用防止教育研修会）	146
20. 食の指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修（学校栄養職員等研修会）	148
21. 食の指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修（衛生管理研修会）	150
22. 各地域における学校安全の基盤となる指導者の養成を目的とした研修 （学校安全教育指導者研修会）	
第1回	152
第2回	154

③ 地方公共団体の共益的事業として委託等により例外的に実施する研修

1. 産業教育、理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修（産業教育）	156
2. 産業教育、理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修（理科教育）	159
3. 産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修	
【新産業技術コース】	
農業：A-1	162
農業：A-2	164
工業：B-1	166

工業：B-2	168
商業：C-1	170
商業：C-2	172
水産：D-1	174
水産：D-2	176
家庭：E-1	178
家庭：E-2	180
家庭：E-3	182
看護：F-1	184
看護：F-2-2	186
看護：F-2-1(1)(2)	188
福祉：L-1	190
福祉：L-2	192
技術：G-1-1	194
技術：G-1-2	196
技術：G-2-1	198
技術：G-2-2	200
技術：G-2-3	202
技術：G-2-4	204
家庭：H-1	206
4. 産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修	
【情報技術コース】	
工業・情報：I-1	208
工業・情報：I-2	210
商業・情報：J-1	212
商業・情報：J-2	214
5. 産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（先端技術体験プログラム）	
工業：K-1	216
6. 産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修 （高等学校産業教育実習助手講習）	
農業	218
工業	220

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第1回校長・教頭等研修)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第一係							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を習得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長等を育成する。							
受 講 対 象	小学校校長・小学校教頭							
開 催 期 日	平成16年 7月29日 (木) ~平成16年 8月19日 (木)				22日間			
受 講 人 数	計画人数	150	人	受講者数	130	人	参加率	86.7%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	91	33	0	0	3
		73.4	26.6	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校管理運営演習は、日常の学校運営の中であり得そうな課題の内容のものが多く、グループ討議や全体討議を通して、認識を確かなものにすることができた。事前学習も進めやすかった。 ・民間企業での考え方が全て学校に当てはまるわけではないが、考え方やその手法は大いに参考になった。 ・教育関係者以外の方のお話は大変新鮮で感動的であった。 ・「リーダーの危機管理」はとても具体的でわかりやすい内容だった。 ・特別支援教育が小・中学校でも大きなウェイトをしめてくると思う。特別支援教育に関する内容がもう少し多くてもよい。 ・全体的に演習は時間に追い立てられているようであった。演習の時間を増やしていただきたい。 ・学校管理運営演習において、事例をもとにしながら文科省の先生と同じ席で討議ができたことは大変有意義だった。 ・地方にはなかなか講義を受けることのできないすばらしい講師の話をもとめて聞くことができ、大変良かった。 ・演習形式を取り入れるのは良いと思うが、今回のような時間配分では、どうしても講話が速くなり、演習部分も時間切れのようになってしまうので、その点改善してほしい。 ・危機管理演習が大変勉強になった。 ・演習が多くあわただしかった。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第1回校長・教頭等研修講座(274回)

平成16年7月29日(木)～8月19日(金)

第1週				7月29日(木)	7月30日(金)	7月31日(土)	8月1日(日)
午前1 8:30～ 9:30				10:00～ 受付	16:15～17:45 班別協議会①	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15				10:40～ オリエンテーション①	10:45～12:15 リーダー論 逸見純昌		
午後1 13:30～ 15:00				13:20～15:20 開講式 教育改革の推進 (文部科学省職員)	13:30～16:00 ★教育と法規 若井彌一		
午後2 15:15～ 17:15				15:30～17:00 オリエンテーション②	16:15～17:45 班別協議会②		
第2週	8月2日(月)	8月3日(火)	8月4日(水)	8月5日(木)	8月6日(金)	8月7日(土)	8月8日(日)
午前1 8:30～ 10:30	8:30～ 9:20 実践研究①	8:30～ 9:20 実践研究②	8:30～9:20 実践研究③	8:30～ 9:20 実践研究④	8:30～8:55 実践研究⑤	自由研修	自由研修
午前2 10:45～ 12:15	9:30～ 12:15 教職員① 松崎 勝	9:30～ 15:00 教育課題演習 ①	9:30～ 15:00 教育課題演習 ③	9:30～ 17:30 組織マネジメント ①	9:00～ 17:30 組織マネジメント ④		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～16:00 教職員② 松崎 勝	13:30～15:00 教育課題演習 ②	13:30～15:00 教育課題演習 ④	13:30～15:00 組織マネジメント ②	13:30～15:00 組織マネジメント ⑤		
午後2 15:15～ 17:15	16:15～17:00 班別協議会③	15:15～17:00 危機管理① 尾木和英	15:15～17:00 危機管理② 田中正博	15:15～17:00 組織マネジメント ③	15:15～17:00 組織マネジメント ⑥		
第3週	8月9日(月)	8月10日(火)	8月11日(水)	8月12日(木)	8月13日(金)	8月14日(土)	8月15日(日)
午前1 8:30～ 10:30	8:30～ 9:30 学校管理運営演習 事前検討会①	8:30～ 9:30 学校管理運営演習 事前検討会②	8:30～ 9:30 学校管理運営演習 事前検討会③	8:30～ 9:20 実践研究⑥	8:30～ 9:20 実践研究⑦	自由研修	自由研修
午前2 10:45～ 12:15	9:40～12:00 学校管理運営演習 ①	9:40～12:00 学校管理運営演習 ④	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:30～12:15 組織マネジメント 木岡一明	9:30～12:15 教育課程 児島邦宏		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑤	13:15～14:45 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)	13:30～15:00 企業マネジメント 袖山雅弘	13:30～15:00 生徒指導 坂本昇一		
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑥	15:00～17:00 研修講師知識技術①	15:15～17:00 ★教職員のメンタルヘルス 夏目 誠	15:15～17:00 ★著作権 (文化庁職員)		
第4週	8月16日(月)	8月17日(火)	8月18日(水)	8月19日(木)			
午前1 8:30～ 10:30	8:30～ 9:20 実践研究⑧	8:30～ 9:20 実践研究⑨	8:30～9:15 班別協議会③	8:30～9:15 班別協議会④			
午前2 10:45～ 12:15	9:30～12:15 道徳教育 小寺正一	9:30～12:15 総合的な学習の時間 平野朝久	9:30～ 11:00 地方行財政 (文部科学省職員)	9:30～ 11:00 人生論・金子満雄			
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 人権尊重の教育 坪井節子	13:15～15:00 特別支援教育 飯田雅子	11:15～12:15 ★男女共同参画 (文部科学省職員)	11:30～12:00 閉講式			
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:00 世界と日本 持田直武	15:15～17:00 特別支援教育	13:15～15:30 ★不登校いじめ 大木みわ				
			15:45～17:00 研修講師知識技術②				

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第2回校長・教頭等研修)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第一係							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を習得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	中学校長・中学校教頭・高等学校長・高等学校教頭							
開 催 期 日	平成16年10月12日(火)～平成16年11月2日(火)				22日間			
受 講 人 数	計画人数	300	人	受講者数	250	人	参加率	83.3%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	184	56	1	0	0
		76.3	23.2	0.4	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校管理運営演習の文科省の講師は素晴らしい。バラバラだった知識がある程度体系立てることができた。 ・演習問題の分量が多く、討議の時間が短いと思う。 ・組織マネジメントでは、いろいろな分析方法を学ぶことができたが、効果ある導入事例を示して欲しい。 ・学校経営方針についてモヤモヤしたものがあつたが、今回の研修ですっきりした。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第2回校長・教頭等研修講座(276回)

平成16年10月12日(火)～平成16年11月2日(火)

第1週		10月12日(火)	10月13日(水)	10月14日(木)	10月15日(金)	10月16日(土)	10月17日(日)
午前1 8:30～ 9:30		10:00～受付 10:40～12:00 オリエンテーション①	8:30～10:20 班別協議会①	8:30～9:20 班別協議会②	8:30～9:15 実践研究① 9:30～12:15	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15		13:20～13:40 開講式 13:50～14:50 ★教育改革の推進(文) (文部科学省職員)	10:30～12:15 世界と日本 飯田健一	9:30～12:15 教職員 清水幹裕	★道德教育 藤永芳純 13:30～15:00		
午後1 13:30～ 17:00		15:00～17:00 オリエンテーション②	13:30～17:00 教育と法規 菱村幸彦	13:30～17:00 教職員 清水幹裕	人権教育の尊重・森実 15:15～17:00 著作権 (文部科学省職員)		
第2週	10月18日(月)	10月19日(火)	10月20日(水)	10月21日(木)	10月22日(金)	10月23日(土)	10月24日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:15 実践研究②	8:30～9:15 実践研究③	8:30～9:15 実践研究④ 9:30～12:15 教育課程 ★安彦忠彦/山極隆	8:30～9:15 学校管理運営演習②	8:30～9:15 学校管理運営演習③	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15	9:30～11:50 教育課題演習 ①	9:30～11:50 教育課題演習 ③	13:15～14:45 企業マネジメント 大竹美喜	9:30～12:00 学校組織マネジメント ①	9:30～12:00 学校組織マネジメント ④		
午後1 13:30～ 15:00	12:50～15:00 教育課題演習 ②	12:50～15:00 教育課題演習 ④	15:00～15:50 実践研究⑤	13:00～15:00 学校組織マネジメント ②	13:00～15:00 学校組織マネジメント ⑤		
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:00 危機管理 上地安昭	15:15～17:00 危機管理 伊原正俊	16:00～17:00 学校管理運営演習①	15:15～17:00 学校組織マネジメント ③	15:15～17:00 学校組織マネジメント ⑥		
第3週	10月25日(月)	10月26日(火)	10月27日(水)	10月28日(木)	10月29日(金)	10月30日(土)	10月31日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:15 実践研究⑥	8:30～9:15 実践研究⑦	8:30～9:15 実践研究⑧	8:30～9:15 実践研究⑨	8:30～9:15 実践研究⑩	自由研修	自由研修
午前 9:45～ 12:15	9:30～12:00 学校管理運営演習 ①	9:30～12:00 学校管理運営演習 ④	9:30～12:15 学校管理運営演習 ⑦	9:30～12:15 総合的な学習 平野朝久・工藤文三	9:30～12:15 組織マネジメント 木岡一明		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑤	13:30～15:00 ★地方教育行財政制度 (文部科学省職員)	13:30～15:30 ★進路指導 鹿島研之助	13:30～15:00 不登校いじめ 丸山 隆		
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑥	15:15～17:00 メンタルヘルス 町沢静夫	15:45～17:15 企業経営と学校 梶原 豊	15:15～17:00 不登校いじめ		
第3週	11月1日(月)	11月2日(火)					
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:15 実践研究⑪ 9:30～11:00	8:30～9:15 実践研究⑫ 9:30～11:00					
午前 9:45～ 12:15	情報教育・赤堀侃司 11:15～12:15 生涯教育 (文部科学省職員)	人生論:西田善夫 11:30～ 閉講式					
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 地方行財政制度 (文部科学省職員)						
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:00 研修講師となるた めの知識技術						

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第3回校長・教頭等研修)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第一係							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を習得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	中学校教頭・指導主事							
開 催 期 日	平成16年11月29日(月)～平成16年12月17日(金)				19日間			
受 講 人 数	計画人数	150	人	受講者数	142	人	参加率	94.7%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	71	64	1	0	2
		52.2	47.1	0.7	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習後の適切な指導助言をしていただきたい。 ・演習形式が多くなったのはよかった。 ・事前課題は大変だったが、演習で勉強になった。 ・演習と講義内容がかみ合っていなかったものもあった。 ・内容により演習よりも講義の方がいいものがあった。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第3回校長・教頭等研修講座(277回)

平成16年11月29日(月)～12月17日(金)

第1週	11月29日(月)	11月30日(火)	12月1日(水)	12月2日(木)	12月3日(金)	12月4日(土)	12月5日(日)
午前1 8:30～ 10:30		8:30～9:20 班別協議会①	8:30～9:20 班別協議会②	8:30～9:15 実践研究①	8:30～9:15 実践研究②	自由研修	自由研修
午前2 10:45～ 12:15	10:40～12:00 オリエンテーション①	9:30～12:15 学校経営の 課題と対応 金平敬之助	9:30～12:15 国際理解 (世界と日本) 森本 敏	9:30～12:15 道徳教育② 横山 利弘	9:30～12:15 学校教育を取り巻く 関係法令① 石津 廣司		
午後1 13:30～ 15:00	13:20～13:40 開講式 13:50～14:50 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)	13:30～15:00 地方行財政制度 (文部科学省職員)	13:30～16:00 教育と法規 菱村 幸彦	13:30～15:00 人権尊重の教育 横島 章	13:30～15:30 学校教育を取り巻く 関係法令② 石津 廣司		
午後2 15:15～ 17:15	15:00～17:00 オリエンテーション②	15:15～17:00 環境教育 岡島成行	16:15～17:15 道徳教育① 横山 利弘	15:15～17:00 生徒指導 (いじめの対応) 伊藤美奈子	15:45～17:00 総合的な学習 の時間①		
第2週	12月6日(月)	12月7日(火)	12月8日(水)	12月9日(木)	12月10日(金)	12月11日(土)	12月12日(日)
午前1 8:30～ 10:30	8:30～9:15 実践研究③	8:30～9:15 実践研究④	8:30～9:15 実践研究⑤	8:30～9:15 実践研究⑥	8:30～9:15 実践研究⑦	自由研修	自由研修
午前2 10:45～ 12:15	9:30～11:50 教育課題演習 (危機管理)	9:30～12:15 総合的な学習 の時間② 澁澤 文隆	9:30～12:15 カリキュラム開発と 経営戦略 谷川 彰英	9:30～12:15 学習指導と評価 梶田 正巳	9:30～12:15 学校組織 マネジメント ③		
午後1 13:30～ 15:00	12:50～15:00 教育課題演習 (危機管理)	13:30～15:00 生徒指導 (児童虐待) 宮本信也	13:30～15:00 カリキュラムの編成と 評価 谷川 彰英	13:30～15:00 学校組織 マネジメント ①	13:30～15:00 学校組織 マネジメント ④		
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:00 ★教育課題演習 (危機管理) 高階 玲治	15:15～17:00 学校の危機管理 田中 正博	15:15～17:00 カリキュラムの編成と 評価	15:15～17:00 学校組織 マネジメント ②	15:15～17:00 学校組織 マネジメント ⑤		
第3週	12月13日(月)	12月14日(火)	12月15日(水)	12月16日(木)	12月17日(金)	12月18日(土)	12月19日(日)
午前1 8:30～ 10:30	8:30～9:15 実践研究⑧	8:30～9:15 実践研究⑨	8:30～9:15 実践研究⑩	8:30～9:15 実践研究⑪	8:30～9:15 班別協議会③		
午前2 10:45～ 12:15	9:40～12:00 学校管理運営演習 ①	9:40～12:00 学校管理運営演習 ④	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:30～12:15 研修講師 知識技術②	9:30～12:15 学校における 組織マネジメント の実際 小島 弘道		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑤	13:15～14:45 地方教育行政 制度の改善 (文部科学省職員)	13:30～15:00 ★キャリア教育 の工夫改善 竹内登規夫	13:15～15:45 ★生徒指導 (不登校への対応) 菅野 純		
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑥	15:00～17:00 研修講師 知識技術①	15:15～17:00 ★特別支援教育 緒方 明子	16:00～ 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第4回校長・教頭等研修)					
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第一係					
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を習得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校教頭・幼稚園長・指導主事・センター主事					
開 催 期 日	平成17年 2月14日 (月) ~平成17年 3月 4日 (金)			19日間		
受 講 人 数	計画人数	200 人	受講者数	162 人	参加率	81.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	104 70.7	42 28.6	1 0.7	0 0.0	14

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の問題として考えることにより、主体的に研修に参加できた。 ・短時間での演習が多いので、各演習についての趣旨説明が大切になるかと思う。 ・演習が多く、日程がきつい。もう少し期間を長くしてほしい。 ・演習を多くするのはいいが、その中身、方法を吟味していく必要がある。 ・設定された課題によって演習の効果に大きく差が出る。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第4回校長・教頭等研修講座(279回)

平成17年2月14日(月)～3月4日(金)

第1週	2/14(月)	15(火)	16(水)	17(木)	18(金)	19(土)	20(日)
午前1 8:30～ 10:30		8:30～9:20 実践研究①	8:30～9:20 実践研究②	8:30～9:15 実践研究④	8:30～9:15 実践研究⑤	自由研修	自由研修
午前2 10:45～ 12:15	10:30～12:00 オリエンテーション①	9:30～12:15 国際理解教育 (世界と日本) 河野 健一	9:30～12:15 教育と法規 菱村 幸彦	9:30～12:30 学校教育を取り 巻く関係法令① 清水幹裕	9:30～12:15 カリキュラム開発と 経営戦略 ★(小・指)蛭田政弘 (幼)豊田一秀		
午後1 13:30～ 15:00	13:20～13:40 開講式 13:50～14:50 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)	13:30～15:00 地方行財政制度 (文部科学省職員)	13:30～16:10 教育課題演習 (危機管理①)	13:30～15:00 学校教育を取り 巻く関係法令② 清水幹裕	13:30～15:00 カリキュラム開発と 経営戦略 (小・指)蛭田政弘 (幼)豊田一秀		
午後2 15:15～ 17:15	15:50～17:00 オリエンテーション②	15:15～17:00 ★人権尊重の教育 福田 弘	16:20～17:00 実践研究③	15:15～17:00 環境教育 サガ・ソイ・カザ・デ	15:15～17:00カリキュラム 開発と経営戦略		
第2週	21(月)	22(火)	23(水)	24(木)	25(金)	26(土)	27(日)
午前1 8:30～ 10:30	8:30～9:15 実践研究⑥	8:30～9:15 実践研究⑦	8:30～9:15 実践研究⑧	8:30～9:15 実践研究⑨	8:30～9:15 実践研究⑩	自由研修	自由研修
午前2 10:45～ 12:15	9:30～12:15 教育課題演習 (危機管理②)	9:30～12:15 キャリア教育 の工夫改善 竹内 登規夫	9:30～12:15 生徒指導上の課題と対応 (児童虐待) 宮本信也	9:30～12:15 ★幼:小川博久 学習指導と評価 小・指:梶田正巳	9:30～17:00 学校組織 マネジメント ④		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 道徳教育 横山利弘	13:30～15:00 学校の危機管理 高階 玲治	13:30～15:00 生徒指導上の課題と対応 石隈 利紀	13:30～15:00 学校組織マネジメント ②	13:30～15:00 学校組織マネジメント ⑤		
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:00 道徳教育	15:15～17:00 学校の危機管理	15:15～17:00 生徒指導上の課題と対応	15:15～17:00 学校組織マネジメント ③	15:15～17:00 学校組織マネジメント ⑥		
第3週	28(月)	3/1(火)	2(水)	3(木)	4(金)	5(土)	6(日)
午前1 8:30～ 10:30	8:30～9:15 実践研究⑪	8:30～9:15 実践研究⑫	8:30～9:15 実践研究⑬	8:30～9:15 実践研究⑭	8:30～9:15 実践研究⑮		
午前2 10:45～ 12:15	9:30～12:00 学校管理運営演習 ①	9:30～12:00 学校管理運営演習 ④	9:30～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:30～12:15 特別支援教育 中井 滋	9:30～12:00 研修講師となる ための知識・技術 ②		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑤	13:15～14:45 ★地方教育行政 制度の改善 (文部科学省職員)	13:30～15:00 総合的な学習 の時間 澁澤 文隆	13:00～14:30 学校経営上の 課題と対応 米長邦雄		
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑥	15:00～17:00 研修講師となる ための知識・技術	15:15～17:00 総合的な学習 の時間	15:00～15:30 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第1回中堅教員研修)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第一係							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を習得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	高等学校教員（教務主任含む）							
開 催 期 日	平成16年 5月18日（火）～平成16年 6月18日（金）				32日間			
受 講 人 数	計画人数	250	人	受講者数	225	人	参加率	90.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	171	48	2	0	3
		77.4	21.7	0.9	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的事例をできるだけ豊富に紹介してほしい。 ・ 選択演習をもう少し増やしてほしい。 ・ 演習形式の研修は主体的に取り組むためにはとても有意義であるので、今後も続けてほしい。講義のレジュメは、前日までに配布していただくと、講義の理解がより深まると思う。 ・ 質問時間を多くしてほしい。 ・ 人権教育に関する講義と演習をもう少し増やしてほしい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第1回中堅教員研修講座(272回)

平成16年5月18日(火)～平成16年6月18日(金)

第1週		5月18日(火)	5月19日(水)	5月20日(木)	5月21日(金)	5月22日(土)	5月23日(日)
午前1 8:30～ 9:30		9:30～ 受付	8:30～ 10:30 班別協議会①	8:30～ 9:20 実践研究①	8:30～ 9:20 実践研究②	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15		10:40～ オリエンテーション①	10:45～12:15 世界と日本 河野健一	9:30～12:15 教育と法規 若井彌一	9:30～12:15 教職員① 清水幹裕		
午後1 13:30～ 15:00		13:30～16:00 開講式 ★教育改革の 推進(文部科学省職員)	13:30～15:00 企業経営と学校 梶原 豊	13:30～15:00 コミュニケーション	13:30～16:00 教職員② 清水幹裕		
午後2 15:15～ 17:15		16:10～17:00 オリエンテーション②	15:15～17:15 班別協議会②	15:15～17:15 班別協議会③	16:15～17:15 学管事前検討会①		
第2週	5月24日(月)	5月25日(火)	5月26日(水)	5月27日(木)	5月28日(金)	5月29日(土)	5月30日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 8:55 実践研究③	8:30～ 8:55 実践研究④	8:30～ 8:55 実践研究⑤	8:30～ 8:55 実践研究⑥	8:30～ 8:55 実践研究⑦	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15	9:00～11:35 教育課題演習 危機管理①	9:00～11:35 教育課題演習 道徳教育①	9:00～12:00 道徳教育 藤永芳純	9:30～12:15 学校経営 小島弘道	9:30～ 12:15 教育課程 蛭田政弘		
午後1 13:30～ 15:00	12:40～15:00 教育課題演習 危機管理②	12:40～15:00 教育課題演習 道徳教育②	13:30～15:00 不登校いじめへの対応① 石隈利紀	13:30～15:00 薬物乱用性非行問題① 石橋昭良	13:30～15:00 学管事前検討会②		
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:15 危機管理 尾木和英	15:15～17:15 教育課題演習 道徳教育③	15:15～17:15 不登校いじめへの対応② 石隈利紀	15:15～17:15 薬物乱用性非行問題② 石橋昭良	15:15～17:15 学管事前検討会③		
第3週	5月31日(月)	6月1日(火)	6月2日(水)	6月3日(木)	6月4日(金)	6月5日(土)	6月6日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 8:55 実践研究⑧	8:30～ 8:55 実践研究⑨	8:30～ 8:55 実践研究⑩	8:30～ 8:55 実践研究⑪	8:30～ 8:55 学管事前検討会⑤	自由研修	自由研修
午前 9:45～ 12:15	9:30～12:15 地方教育行財政制度 松井一麿	9:30～12:00 学習と評価① 梶田正己	9:30～12:00 総合的な学習の時間① 工藤文三	9:30～12:15 生徒指導 坂本昇一	9:30～12:15 特別活動 天笠 茂		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 リーダー論 村上和雄	13:00～15:00 学習と評価②	13:30～15:00 総合的な学習の時間②	13:30～15:00 著作権① (文化庁職員)	13:30～15:00 教育哲学 加藤尚武		
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:15 学管事前検討会④	15:15～17:15 学習と評価③	15:15～17:15 総合的な学習の時間③	15:15～17:15 著作権② (文化庁職員)	15:15～15:45 地方行財政制度 16:00～17:15 学管事前検討会⑥		
第4週	6月7日(月)	6月8日(火)	6月9日(水)	6月10日(木)	6月11日(金)	6月12日(土)	6月13日(日)
午前 8:30～ 12:15	8:30～12:00 学校管理運営演習 ①	8:30～12:00 学校管理運営演習 ④	8:30～12:00 学校管理運営演習 ⑦	8:30～12:00 学校管理運営演習 ⑩	8:30～ 9:15 実践研究⑫ 9:30～12:15	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑤	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑧	13:30～15:00 ★地方教育行政制度の 改善(文部科学省職員)	特別支援教育 大南英明		
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑥	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑨	15:15～17:00 人権尊重の教育 福田 弘	13:15～17:00 コーチング 市川恵子		
第5週	6月14日(月)	6月15日(火)	6月16日(水)	6月17日(木)	6月18日(金)		
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:30 組織マネジメント ①	8:30～ 9:15 実践研究⑬	8:30～ 9:15 実践研究⑭	8:30～ 9:15 実践研究⑮	8:30～ 9:15 実践研究⑯		
午前2 9:45～ 12:15	9:30～12:00 組織マネジメント ①	9:30～12:15 進路指導 鹿嶋研之助	9:30～ 17:00 <選択講義> ★環境教育 三島次郎	9:30～11:00 生涯教育・渋谷英章	9:30～ 11:00 人生論・米長邦雄		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 ②	13:30～15:00 企業マネジメント 木村政雄	ボランティア教育 長沼 豊 興紹 寛	11:15～ 12:15 児童の権利条約	11:30～12:00 閉講式		
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:30 組織マネジメント ③	15:15～17:00 健康教育 町沢静夫	国際理解教育 米田伸次 情報教育 林 徳治	13:30～17:00 研修講師と なるための 知識・技術			

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第2回中堅教員研修)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第一係							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を習得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校教務主任・中学校教務主任							
開 催 期 日	平成16年 7月13日 (火) ~平成16年 8月13日 (金)					32日間		
受 講 人 数	計画人数	150	人	受講者数	203	人	参加率	135.3%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	147 74.2	50 25.3	1 0.5	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・法規は勉強しなければいけないと思っていたので、とても良い機会となった。 ・組織マネジメントは、短時間の中でも演習としては盛りだくさんだったと思う。 ・民間の方の、違った角度からの人と人のつながりについての講義は大変有意義でした。 ・理論的な講義も必要だが、プラス具体的な実践を踏まえた講義をお願いしたい。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第2回中堅教員研修講座(273回)

平成16年7月13日(火)～平成16年8月13日(金)

第1週		7月13日(火)	7月14日(水)	7月15日(木)	7月16日(金)	7月17日(土)	7月18日(日)
午前1 8:30～ 9:30		9:30～ 受付	8:30～10:20 班別協議会①	8:30～8:55 実践研究①	8:30～8:55 実践研究②	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15		10:40～ オリエンテーション①	10:30～12:15 リーダー論 金平敬之助	9:30～12:15 教育と法規 伊藤公一	9:30～12:15 教職員① 清水幹裕		
午後1 13:30～ 15:00		13:30～16:00 開講式 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)	13:30～15:00 世界と日本 森本 敏	13:30～15:15 コミュニケーション	13:30～16:00 教職員② 清水幹裕		
午後2 15:15～ 17:15		16:10～17:00 オリエンテーション②	15:15～17:15 班別協議会②	15:30～17:15 班別協議会③	16:15～17:15 学管事前検討会①		
第2週	7月19日(月)	7月20日(火)	7月21日(水)	7月22日(木)	7月23日(金)	7月24日(土)	7月25日(日)
午前1 8:30～ 9:30		8:30～8:55 実践研究③	8:30～8:55 実践研究④	8:30～9:30 実践研究⑤	8:30～9:30 実践研究⑥	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15	自由研修 (海の日)	9:00～11:35 教育課題演習 危機管理①	9:00～12:00 教育課題演習 道德教育①	9:45～12:15 道德教育 七條正典	9:30～12:15 いじめ問題への対応 森田洋司		
午後1 13:30～ 15:00		12:40～15:00 教育課題演習 危機管理②	13:00～16:00 教育課題演習 道德教育②	13:30～16:00 不登校への対応 金澤純三	13:15～14:45 ★地方行政制度 (文部科学省職員)		
午後2 15:15～ 17:15		15:15～17:15 危機管理 上地安昭	16:15～17:15 学管事前検討会②	16:15～17:15 学管事前検討会③	16:15～17:15 学管事前検討会④		
第3週		7月26日(月)	7月27日(火)	7月28日(水)	7月29日(木)	7月30日(金)	7月31日(土)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:20 実践研究⑦	8:30～9:20 実践研究⑧	8:30～9:20 実践研究⑨	8:30～9:20 実践研究⑩	8:30～9:20 実践研究⑪	自由研修	自由研修
午前 9:45～ 12:15	9:30～12:15 地方教育行政制度 松井一麿	9:30～12:00 学習と評価① 梶田正己	9:30～12:00 総合的な学習の時間① 洪澤文隆	9:30～12:15 教育課程 児島邦宏	9:30～12:15 特別活動 天笠 茂		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～16:00 目標に準拠した評価 吉川成夫	13:00～15:00 学習と評価②	13:30～15:00 総合的な学習の時間②	★生徒指導① 河村茂雄	13:30～15:00 著作権(文化庁職員)		
午後2 15:15～ 17:15	16:15～17:15 学管事前検討会⑤	15:15～17:15 学習と評価③	15:15～17:10 総合的な学習の時間③	★生徒指導②	15:15～15:30 班別協議会④		
第4週	8月2日(月)	8月3日(火)	8月4日(水)	8月5日(木)	8月6日(金)	8月7日(土)	8月8日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:20 学管事前検討会⑦	8:30～9:20 学管事前検討会⑧	8:30～9:20 学管事前検討会⑨	8:30～9:20 学管事前検討会⑩	8:30～9:20 実践研究⑫	自由研修	自由研修
午前 9:45～ 12:15	9:40～12:00 学校管理運営演習 ①	9:40～12:00 学校管理運営演習 ④	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑩	9:30～12:15 特別支援教育 中井 滋		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑤	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑧	13:30～15:00 ★地方教育行政制度の 改善(文部科学省職員)	★学級経営① 黒沢幸子		
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑥	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑨	15:15～17:00 人権尊重の教育 福田 弘	★学級経営②		
第5週	8月9日(月)	8月10日(火)	8月11日(水)	8月12日(木)	8月13日(金)		
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:30 組織マネジメント ①	8:30～9:20 実践研究⑬	8:30～9:20 実践研究⑭	8:30～9:20 実践研究⑮	8:30～9:20 実践研究⑯		
午前2 9:45～ 12:15	9:30～12:00 組織マネジメント ②	9:30～12:15 学校経営 菊池龍三郎	<選択講義> 環境教育 市川智史	9:30～12:15 進路指導ハネル 菊池武烈	9:30～11:00 人生論・小川三夫		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 組織マネジメント ③	13:30～15:00 企業マネジメント 田村哲夫	ボランティア教育 池田幸也 ★国際理解教育	13:30～17:00 研修講師と なるための 知識・技術	11:30～12:00 閉講式		
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:30 組織マネジメント ④	15:15～17:00 児童の権利条約 (文部科学省職員)	多田孝志 情報教育 鈴木敏恵				

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第3回中堅教員研修)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第一係							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を習得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校教員・中学校教員							
開 催 期 日	平成16年 8月24日 (火) ~平成16年 9月24日 (金)				32日間			
受 講 人 数	計画人数	300	人	受講者数	260	人	参加率	86.7%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	224	25	0	0	4
		90.0	10.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育について、具体的な取り組み、実践例などをもう少し盛り込んでほしい。 ・講義の内容として概論が多かった。具体的事例等に沿った講義を伺えると良い。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表(275回)

第3回中堅教員研修講座(275回)

平成16年8月24(火)～平成16年9月24日(金)

第1週		8月24日(火)	8月25日(水)	8月26日(木)	8月27日(金)	8月28日(土)	8月29日(日)
午前1 8:30～ 9:30		10:00～ 受付	8:30～ 10:15 班別協議会①	8:30～ 9:20 実践研究①	8:30～ 9:20 実践研究②	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15		10:40～12:00 オリエンテーション①	10:30～12:15 世界と日本 平野次郎	9:30～12:15 教育と法規 伊勢路裕史	9:30～12:15 教職員① 松崎 勝		
午後1 13:30～ 15:00		13:20～15:20 開講式 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)	13:30～15:00 地方行財政制度 (文部科学省職員)	13:30～15:00 コミュニケーション	13:30～16:00 教職員② 松崎 勝		
午後2 15:15～ 17:15		15:30～17:00 オリエンテーション②	15:15～17:00 班別協議会②	15:15～17:00 班別協議会③	16:15～17:00 学校管理運営演習①		
第2週	8月30日(月)	8月31日(火)	9月1日(水)	9月2日(木)	9月3日(金)	9月4日(土)	9月5日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～11:35 教育課題演習 危機管理①	8:30～12:00 教育課題演習 道德教育①	8:30～ 9:15 実践研究③	8:30～ 9:15 実践研究④	8:30～ 9:15 実践研究⑤	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15	12:40～15:00 教育課題演習 危機管理②	13:00～17:00 教育課題演習 道德教育②	9:30～12:15 心を育てる道德教育 横山利弘	9:30～12:15 ★学校経営 葉養正明	9:30～12:15 心を育てる生徒指導 國分康孝		
午後1 13:30～ 17:15	15:15～17:45 危機管理・高階裕治		13:30～17:00 学級経営問題 滝 充	13:30～17:00 いじめ問題 勝田 顕	13:30～17:00 歴史に見るリーダー論 堂門冬二		
第3週	9月6日(月)	9月7日(火)	9月8日(水)	9月9日(木)	9月10日(金)	9月11日(土)	9月12日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 9:15 実践研究⑥	8:30～ 9:15 実践研究⑦	8:30～ 9:15 実践研究⑧	8:30～ 9:15 学校管理運営演習②	8:30～ 9:15 学校管理運営演習③	自由研修	自由研修
午前 9:45～ 12:15	9:30～12:15 教育課程の編成と展開 安彦忠彦	9:30～12:15 地方教育行財政制度 松井一麿	9:30～12:15 学習と評価① 清水/加藤	9:30～12:15 総合的な学習の時間① 吉崎静夫	9:30～12:15 ★特別活動 成田国英		
午後1 13:30～ 17:00	13:30～17:00 目標に準拠した評価 吉川成夫	13:30～17:00 ★特別支援教育 上野一彦	13:30～17:15 学習と評価②	13:30～17:15 総合的な学習の時間②	13:30～17:00 不登校問題 菅野 純		
第4週	9月13日(月)	9月14日(火)	9月15日(水)	9月16日(木)	9月17日(金)	9月18日(土)	9月19日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 9:15 実践研究⑨	8:30～ 9:15 実践研究⑩	8:30～ 9:15 実践研究⑪	8:30～ 9:15 実践研究⑫	8:30～ 9:15 実践研究⑬	自由研修	自由研修
午前 9:45～ 12:15	9:40～12:00 学校管理運営演習 ①	9:40～12:00 学校管理運営演習 ④	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑩	9:30～ 17:00 <選択講義> 環境:小澤・市田 ポラ:吉永宏		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑤	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑧	13:30～15:00 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)	健康:★野津有司 情報:鈴木克明		
午後2 15:15～ 17:15	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑥	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑨	15:15～17:00 人権尊重の教育 横島章			
第5週	9月20日(月)	9月21日(火)	9月22日(水)	9月23日(木)	9月24日(金)		
午前1 8:30～ 9:30	自由研修 (敬老の日)	8:30～9:30 組織マネジメント ①	8:30～ 9:20 班別協議会 9:30～ 11:00 著作権 (文部科学省職員)	自由研修 (秋分の日)	8:30～ 12:00 研修講師と なるための 知識・技術		
午前2 9:45～ 12:15		9:30～12:00 組織マネジメント ①	11:15～12:15 児童権利 (文部科学省職員)		13:00～ 14:30 人生論・衣笠祥雄		
午後1 13:30～ 15:00		13:30～15:00 ②	13:15～14:45 企業マネジメント 小野俊一		14:40～15:00 閉講式		
午後2 15:15～ 17:15		15:15～17:30 ③	15:00～17:30 進路パネル 渡辺三枝子				

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第4回中堅教員研修)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第一係							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を習得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校教員							
開 催 期 日	平成17年 1月11日 (火) ~平成17年 2月 9日 (水)				30日間			
受 講 人 数	計画人数	300	人	受講者数	186	人	参加率	62.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	138	43	1	0	1
		75.8	23.6	0.5	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習は受講生一人ひとりが積極的に課題に取り組む形式なので、内容の濃い研修になった。 ・学校管理運営演習では文科省の若い講師にお世話になったが、分かりやすい説明でよく分かった。文科省を身近に感じた。 ・組織マネジメントは、学校を見つめる新たな視点を得たような気がする。 ・演習を通して各地の学校の情報交換ができて有効だった。 ・講義と演習のバランスが大変素晴らしく、効果的に学ぶことができた。 ・演習では県レベルでは得られない各県の貴重な取り組みを聞くことができた。 ・研修期間が短くなり、演習が多くなった意図も分かりますが、少々無理している感があります。 ・グループ演習の人数も良く、主体的に取り組む事が出来た。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第4回中堅教員研修講座(278回)

平成17年1月11日(火)～平成17年2月9日(水)

第1週		1月11日(火)	1月12日(水)	1月13日(木)	1月14日(金)	1月15日(土)	1月16日(日)
午前1 8:30～ 9:30			8:30～9:20 実践研究①	8:30～9:20 実践研究②	8:30～9:20 実践研究③		
午前2 9:45～ 12:15		10:00～10:30受付 10:30～ オリエンテーション①	9:30～12:15 地方教育行財政制度 松井一麿	9:30～12:15 教育と法規 若井彌一	9:30～17:00 学校教育を取り巻く 関係法令・松崎勝	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00		13:20～13:40 開講式	13:30～15:00 国際理解教育 飯田健一	13:30～15:00 人権尊重の教育 有村久春	13:30～15:00 関係法令①② 松崎 勝		
午後2 15:15～ 17:00		★教育改革の推進 (文部科学省職員) 14:50～17:00 オリエンテーション②	15:15～17:00 国際理解教育 田島伸二	15:15～17:00 人権尊重の教育	15:15～17:00 関係法令③		
第2週	1月17日(月)	1月18日(火)	1月19日(水)	1月20日(木)	1月21日(金)	1月22日(土)	1月23日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:15 学校管理運営演習①	8:30～9:15 学校管理運営演習②	8:30～9:15 実践研究④	8:30～9:15 実践研究⑤	8:30～9:15 実践研究⑥		
午前2 9:45～ 12:15	9:30～12:15 教育課題演習 (危機管理)	9:30～12:15 教育課題演習 (いじめ)	9:30～12:15 教育課題演習 (児童虐待)	9:30～12:15 いじめ不登校 大木みわ	9:30～12:15 児童虐待への対応 坪井節子	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	13:30～17:00 教育課題演習 (危機管理)	13:30～17:00 教育課題演習 (いじめ)	13:30～17:00 教育課題演習 (児童虐待)	13:30～17:00 学校の危機管理 南 哲	13:30～17:00 環境教育 市川智史		
第3週	1月24日(月)	1月25日(火)	1月26日(水)	1月27日(木)	1月28日(金)	1月29日(土)	1月30日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:15 実践研究⑦	8:30～9:15 実践研究⑧	8:30～9:15 学校管理運営演習③	8:30～9:15 学校管理運営演習④	8:30～9:15 学校管理運営演習⑤		
午前 9:45～ 12:15	9:30～17:00 カリキュラム開発と 経営戦略・天笠茂	カリキュラム評価・八尾坂修 13:30～17:00選択 特色あるカリキュラム編成	9:30～12:15 特色あるカリキュラム編成 成田國英	9:30～12:15 生徒指導上の諸課題 河村茂雄	9:30～12:15 道徳教育 小寺正一	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	13:30～17:00 カリキュラム開発と 経営戦略	情報教育・林徳治 ボランティア・興相寛 ★健康教育・和糖正勝	13:30～17:00 総合的な学習の時間 吉崎静夫	13:30～17:00 学習指導と評価 梶田正巳	13:30～17:00 道徳教育		
第4週	1月31日(月)	2月1日(火)	2月2日(水)	2月3日(木)	2月4日(金)	2月5日(土)	2月6日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:15 実践研究⑨	8:30～9:15 実践研究⑩	8:30～9:15 実践研究⑪	8:30～9:15 実践研究⑫	8:30～9:15 実践研究⑬		
午前 9:45～ 12:15	9:30～12:00 学校管理運営演習 ①	9:30～12:00 学校管理運営演習 ④	9:30～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:30～12:00 学校管理運営演習 ⑩	9:30～12:15 特別支援教育 飯田雅子	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑤	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑧	13:15～14:45 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)	13:30～15:00 キャリア教育の工夫改善 工夫改善・渡辺三枝子		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑥	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑨	15:00～17:00 研修講師となるための 知識技術	15:15～17:00 キャリア教育の工夫改善 工夫改善		
第5週	2月7日(月)	2月8日(火)	2月9日(水)				
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:15 実践研究⑭	8:30～9:15 実践研究⑮	8:30～9:15 実践研究⑯				
午前2 9:45～ 12:15	9:30～12:15 組織マネジメント ②	9:30～12:15 組織マネジメント ⑤	9:30～12:00 研修講師となるための 知識・技術				
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 組織マネジメント ③	13:30～15:00 組織マネジメント ⑥	13:15～14:45 学校経営の課題と対応 村上和雄				
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 組織マネジメント ④	15:15～17:00 LD・ADHDの理解と対応 ★上林靖子	15:00～15:30 閉講式				

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立高等学校） （公立高等学校幹部事務職員研修講座）							
担 当 課 係	研修事業第二課 国内短期研修係							
研 修 目 的	学校管理運営、教育課題等に関する高度・専門的な知識を修得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。							
受 講 対 象	高等学校及び特殊教育諸学校の事務長及び同等の事務職員で、各地域の学校管理運営、学校事務の改善充実、教育改革の推進の取組の中核的な者として期待される者。							
開 催 期 日	平成16年 6月21日（月）～平成16年 6月25日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	300	人	受講者数	202	人	参加率	67.3%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	78	105	5	0	7
		41.5	55.9	2.7	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・各県での課題について情報交換する場の設定があるとよい。他県の実情を知る良い機会であるので。
- ・民間の人の講義は視点が違い、気が付かなかった所があったりと新鮮で参考になった。
- ・普通校、職業関連校、養護学校ごとの分科会（一つの課題についての討議、情報交換など）も体験してみたく思う。演習も充分有意義であったが、やはり校種差による問題は大きい。
- ・学校現場で直面する事例について、具体的解決対策についての演習が欲しい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修(公立高等学校) 日程表
(公立高等学校幹部事務職員研修講座)

		13:00		14:10		14:50		15:00		15:10		15:30		16:45		17:00		17:20	
6月21日(月)		受 付										オリエンテーション		開講式		講義① 「学校教育の課題と動向」 文部科学省初等中等教育局 視学官 吉野 弘一		リフ ロー ダー 会	
		9:00		10:30		10:45		12:15		13:45		15:45		16:00		17:30			
6月22日(火)		講義② 「組織とリーダー」 コラムニスト 金平 敬之助		休 憩		講義③ 「地方教育行政について」 文部科学省初等中等教育局企画課 課長補佐 佐藤 弘毅		屋 食		講義④ 「組織における人材育成」 横浜ベイシエラホテル&タワース 研修担当ディレクター 袖山 雅弘		休 憩		演習①(資料交換) (助言講師) 「地域コミュニティの拠点としての学校の活用について」					
		9:00		10:00		10:15		12:00		13:30		17:30							
6月23日(水)		演習② (助言講師) 「地域コミュニティの拠点としての学校の活用について」		休 憩		講義⑤ 「地方教育財政について」 文部科学省初等中等教育局 財務課長補佐 松浦 晃幸		屋 食		演習③ (助言講師) 「地域コミュニティの拠点としての学校の活用について」									
		9:00		10:00		10:15		12:00		13:30		17:30							
6月24日(木)		演習④ (助言講師) 「地域コミュニティの拠点としての学校の活用について」		休 憩		講義⑥ 「開かれた学校作り」 文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課 学校開放推進専門官 香川 徹		屋 食		演習⑤ (助言講師) 「地域コミュニティの拠点としての学校の活用について」									
		9:00		9:30		11:30		11:45		12:00									
6月25日(金)		講義⑦ 「危機管理は教育機関の必須マター」 パームコンサルティンググループ 代表 伊原 正俊								閉講式									

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立小・中学校） （公立小・中学校幹部事務職員研修講座）							
担 当 課 係	研修事業第二課 国内短期研修係							
研 修 目 的	学校管理運営、教育課題等に関する高度・専門的な知識等を修得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。							
受 講 対 象	小学校及び中学校の幹部事務職員で、原則として学校事務職員の経験が20年以上の者で、各地域の学校管理運営、学校事務の改善充実、教育改革の推進の取組の中核的な者として期待される者							
開 催 期 日	平成16年11月15日（月）～平成16年11月19日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	180	人	受講者数	167	人	参加率	92.8%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	48	103	8	1	4
		30.0	64.4	5.0	0.6	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校事務職員が学校の中で、学校経営により深く参画するために事務職員の能力を高めていかなければならないことを改めて感じ、方向を見定める事が出来た。 ・演習中心のカリキュラムが良かった。 ・学校組織マネジメントの研修では、時間があっという間に過ぎるくらいに新鮮で釘付け状態でした。演習の時間内だけでは時間が足りず完全消化出来なかったのが残念でしたが、次の学校運営に関する演習では、組織マネジメントの研修が生かされとても有意義な実りあるものとなりました。 ・法令の講義を必ずお願いします。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修(公立小・中学校) 日程表
(公立小・中学校幹部事務職員研修講座)

		13:00		14:10 14:50 15:00 15:10		16:25 17:00		17:30	
11月15日(月)			受 付	オリエン テーション	開 講 式	講義① 「学校教育の課題と 動向」 文部科学省 初等中等教育局 視学官 吉野 弘一	資料交換	リ フ ロ ア ー 会	
9:00		10:30 10:45		12:00		13:30		14:45 15:45 16:00 17:30	
11月16日(火)	演習①-1 「学校組織マネジメント事務 職員版開発の経緯」 「学校マネジメント概論」	休 憩	演習①-2 「内外環境の把握と学校 の特色づくり」	昼 食	演習①-2	演習①-3 「学校経営のビ ジョンづくり」	休 憩	演習①-4 「学校経営ビジョンの実現 に向けて」	
9:00		10:30 10:45		12:00		13:30		15:45 16:00 17:30	
11月17日(水)	演習②-1 「課題演習」(助言講師)	休 憩	演習②-2 「課題演習」(助言講師)	昼 食	演習②-3 「課題演習」(助言講師)	休 憩	演習②-4 「課題演習」(助言講師)		
9:00		10:30 10:45		12:00		13:30 14:30 14:45		17:30	
11月18日(木)	講義② 「地方教育行政について」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課長補佐 角田 喜彦	休 憩	講義③ 「地方教育財政について」 文部科学省初等中等教育局 財務課給与企画係長 林 正敏	昼 食	演習②-5 「課題演習」 (助言講師)	休 憩	演習②-6 「課題演習」(助言講師)		
9:00 9:30		11:30 11:45		12:00					
11月19日(金)	講義④ 「学校の危機管理」 パームコンサルティンググループ 代表 伊原 正俊				閉 講 式				

I 研修概要

研修名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (16日派遣) (教職員派遣研修)							
担当課係	研修事業第二課 海外派遣研修係							
研修目的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる50歳以下の者とする。							
開催期日	別紙のとおり				16日間			
受講人数	計画人数	1,344	人	受講者数	821	人	参加率	61.1%
開催場所	別紙のとおり							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無回答
人数(人)	割合(%)	571	142	1	0	10
		80.0	19.9	0.1	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・通常では訪れることができない学校や教育機関を訪問でき非常に貴重な体験となった。 ・学校訪問では学校種や学年教科を選択し訪問できるようなことができれば、より研修が深まると思う。 ・一地域に長期間滞在し課題を整理研究することは、その国及び地域の現状把握と疑問点の解消に大変有効であった。一つの町の概要がしっかり理解できたことでその国を訪問した価値を見出せた。 ・授業参観の後、現地の先生と意見交換できたことは大変有効であった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修（16日派遣）一覧

ブロック区分	派遣団名	派遣国	派遣都市	出発日	帰国日	派遣者数
Aブロック (北海道, 東北)	A1-10Y	スペイン	セゴビア	10/14(木)	10/29(金)	23
	1団					23
Bブロック (関東, 新潟)	B1-09Y	マルタ, イタリア	マルタ	9/30(木)	10/15(金)	20
	B2-10C	カナダ	オタワ	10/14(木)	10/29(金)	20
	B3-10A	中国(広東省)	広州	10/20(水)	11/4(木)	20
	B4-10U	アメリカ合衆国(アリゾナ州)	フラグスタッフ	10/14(木)	10/29(金)	20
	B5-10Y	ポルトガル	ポルト	10/21(木)	11/5(金)	19
	B6-11U	アメリカ合衆国(バージニア州)	リッチモンド	11/10(水)	11/25(木)	15
	B7-11O	ニュージーランド	ニュープリマス	11/18(木)	12/03(金)	19
	B8-11C	カナダ	ロンドン	11/10(水)	11/25(木)	19
	B9-11A	タイ	バンコク, ナコーンパトム	11/9(火)	11/24(水)	19
9団					171	
Cブロック (北陸)	C1-10U	アメリカ合衆国(ミシシッピ州)	ピロクシー	10/28(木)	11/12(金)	21
	C2-11Y	スペイン	サマランカ	11/11(木)	11/26(金)	21
2団					42	
Dブロック (東海)	D1-09A	中国	杭州	9/15(水)	9/30(木)	20
	D2-10U	アメリカ合衆国(ワシントン州)	シアトル	10/14(木)	10/29(金)	21
	D3-10O	オーストラリア	ブリスベン	10/13(水)	10/28(木)	21
	D4-10Y	スペイン	マラガ	10/14(木)	10/29(金)	21
	D5-11U	アメリカ合衆国(アリゾナ州)	フェニックス	11/11(木)	11/26(金)	20
	D6-11O	オーストラリア	フリーマントル	11/17(水)	12/2(木)	20
	D7-11Y	スペイン	ヘローナ	11/18(木)	12/3(金)	20
	D8-11C	カナダ(オンタリオ州)	バーリントン	11/11(木)	11/26(金)	21
8団					164	
Eブロック (近畿)	E1-09C	カナダ	ハミルトン	9/30(木)	10/15(金)	20
	E2-10O	オーストラリア(ニューサウスウェールズ州)	ウランゴン	10/28(木)	11/12(金)	20
	E3-10Y	ドイツ	ワイマール	10/28(木)	11/12(金)	21
	E4-10U	メキシコ	ベラクルス	10/21(木)	11/5(金)	20
	E5-11O	ニュージーランド	ティマル	11/4(木)	11/19(金)	20
	E6-11Y	スウェーデン	ストックホルム	11/18(木)	12/3(金)	20
	E7-11U	アメリカ合衆国(テキサス州)	チャールストン	11/11(木)	11/26(金)	20
	E8-11A	中国	大連, 北京	11/21(日)	12/6(月)	21
8団					162	
Fブロック (四国)	F1-10U	アメリカ合衆国(カリフォルニア州)	サンタローザ	10/14(木)	10/29(金)	20
	F2-10U	アメリカ合衆国(インディアナ州)	スピードウェイ	10/21(木)	11/5(金)	18
	F3-11C	カナダ	キッチェナー	11/10(水)	11/25(木)	18
	F4-11A	ベトナム	ハノイ	11/17(水)	12/2(木)	17
4団					73	
Gブロック (中国, 九州, 沖縄)	G1-10Y	ポルトガル	コインブラ	10/14(木)	10/29(金)	19
	G2-11U	アメリカ合衆国(コロラド州)	ボルダー	11/11(木)	11/26(金)	18
	G3-11A	タイ	チェンマイ	11/4(木)	11/19(金)	19
3団					56	
ブロック団計	35団					691
全国ブロック	R1-08N	ニュージーランド	フィティアンガ	8/5(木)	8/20(金)	17
	R2-08N	ニュージーランド	ネルソン	8/4(木)	8/19(金)	13
	R3-08E	イギリス, スウェーデン	カンベリー, ストックホルム	8/7(土)	8/22(金)	12
	R4-07O	オーストラリア	メルボルン	7/24(土)	8/8(日)	12
	R5-08Y	スウェーデン, スイス, ドイツ	ストックホルム, チュリッヒ, ハンブルク	8/12(木)	8/27(金)	20
	R6-08Y	スイス, スウェーデン, ドイツ	チューリッヒ, マルム, ハンブルク	8/12(木)	8/27(金)	17
	R7-08Y	オランダ, スイス, ドイツ	アムステルダム, チュリッヒ, ハンブルク	8/10(火)	8/25(水)	25
	R8-08O	オーストラリア	アデレード	8/6(金)	8/21(土)	14
全国ブロック団計	8団					130
合計						821

I 研修概要

研 修 名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (2ヶ月派遣) (教職員派遣研修)							
担 当 課 係	研修事業第二課 海外派遣研修係							
研 修 目 的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる50歳以下の者とする。							
開 催 期 日	別紙のとおり				2ヶ月間			
受 講 人 数	計画人数	100	人	受講者数	72	人	参加率	72.0%
開 催 場 所	別紙のとおり							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答			
人数 (人)	割合 (%)	42	73.7	15	26.3	0	0.0	0	0.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・大学での教授法に関する講義が実践に役立つものだったので、時間数を増やしてもよいのでは。 ・研修期間が短かった。大学での既存の一連のコース（プログラム）を全て終了できるようにして欲しかった。 ・学校訪問では授業をもっと見たかった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 国際的な視野、識見を有する中核的教員を
育成するための海外派遣研修（12, 6, 2か月派遣）一覽

12か月派遣

派遣国	大 学	人数	派 遣 期 間	協力団体
イギリス	バーミンガム大学	6	4月20日(火)～ (H17)3月15日(月)	BC
計		6		

6か月派遣

派遣国	大学研修担当大学	語学研修所(大学)	人数	派 遣 期 間	協力団体	
イギリス	エセックス大学	ベルラングッジ スクール ホウワー・ネール・ルッチ	5	6月24日(木)～ 12月16日(木)	BC	
		ベルラングッジ スクール サロン・ウォルデン	5			
	エクセター大学	スクール オブ イングリッシュ スタディーズ フォルクストン	5	6月17日(木)～ 12月9日(木)	CIEE	
		レジエント オックスフォード	4			
	ノッティンガム大学	スザンヌ スパロー プリマス ラングッジ スクール	4	6月17日(木)～ 12月9日(木)		
		インターナショナルハウス パース	5			
カナダ	オタワ大学	トロント大学	5	6月17日(木)～ 12月9日(木)		CIEE
		ヨーク大学	5			
ニュージーランド	ウェリントン カレッジ オブ エデュケーション	マッセー大学語学センター	5	6月17日(木)～ 12月9日(木)	CIEE	
		ワイカト大学語学研究所	5			
計			48			

2か月派遣

派遣国	大 学	経費 人数	派 遣 期 間	協力団体
アメリカ	ワシントン大学	11	7月24日(土)～ 9月20日(月)	CIEE
	ハワイ大学	12	7月24日(土)～ 9月19日(日)	ISA
	デンバー大学	13	7月25日(日)～ 9月21日(火)	デンバー大学
カナダ	UBC大学(ブリティッシュ・コロンビア大学)	12	7月24日(土)～ 9月19日(日)	I.C.E.カナダ
オーストラリア	ラ・トロブ大学	12	7月16日(金)～ 9月13日(月)	CIEE
ニュージーランド	マッセー大学	12	7月23日(金)～ 9月20日(月)	CIEE
計		72		

I 研修概要

研修名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (3ヶ月派遣) (教職員派遣研修)						
担当課係	研修事業第二課 海外派遣研修係						
研修目的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。						
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる25歳から35歳の者とする。						
開催期日	別紙のとおり				3ヶ月間		
受講人数	計画人数	180	人	受講者数	50	参加率	27.8%
開催場所	別紙のとおり						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無回答
人数(人)	割合(%)	27	13	0	0	2
		67.5	32.5	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・現地の先生方との話し合いの場が設けられており、有意義であった。 ・研修の最初に行う語学研修が充実していた。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 国際的な視野、識見を有する中核的
教員を育成するための海外派遣研修（3ヶ月）

団 名		人数	派遣期間
WI	米国：ウィスコンシン州団	13	平成16年9月22日（水） ～12月20日（月）
OH	米国：オハイオ州団	12	平成16年9月20日（月） ～12月18日（土）
SA	オーストラリア：南オーストラリア州団	13	平成16年9月24日（金） ～12月22日（水）
BC	カナダ：ブリティッシュ・コロンビア州団	12	平成16年9月19日（日） ～12月17日（金）
計		50	

I 研修概要

研修名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (6ヶ月派遣) (教職員派遣研修)						
担当課係	研修事業第二課 海外派遣研修係						
研修目的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。						
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる50歳以下の者とする。						
開催期日	別紙のとおり				6ヶ月間		
受講人数	計画人数	62	人	受講者数	48	参加率	77.4%
開催場所	別紙のとおり						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無回答
人数(人)	割合(%)	32	6	0	0	1
		84.2	15.8	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・研修が計画的、段階的に組み立てられており驚きました。
- ・大学の研修では、日本人だけの授業が多くあった。語学力向上、交流のためにも外国人と一緒に授業を受けたかった。
- ・学校訪問が数多く組み込まれており、とても良い経験となった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 国際的な視野、識見を有する中核的教員を
育成するための海外派遣研修（12, 6, 2か月派遣）一覽

12か月派遣

派遣国	大 学	人数	派 遣 期 間	協力団体
イギリス	バーミンガム大学	6	4月20日(火)～ (H17)3月15日(月)	BC
計		6		

6か月派遣

派遣国	大学研修担当大学	語学研修所(大学)	人数	派 遣 期 間	協力団体	
イギリス	エセックス大学	パルランゲッジ スクール ホウソフ ホール ノルッチ	5	6月24日(木)～ 12月16日(木)	BC	
		パルランゲッジ スクール サロン ウォルデン	5			
	エクセター大学	スクール オブ イングリッシュ スタディズ フォルクストン	5	6月17日(木)～ 12月9日(木)	CIEE	
		リージェント オックスフォード	4			
	ノッティンガム大学	スプリング スパロー プリマス ランゲッジ スクール	4	6月17日(木)～ 12月9日(木)		
		インターナショナル ハウス パース	5			
カナダ	オタワ大学	トロント大学	5	6月17日(木)～ 12月9日(木)		CIEE
		ヨーク大学	5			
ニュージーランド	ウェリントン カレッジ オブ エデュケーション	マッセー大学語学センター	5	6月17日(木)～ 12月9日(木)	CIEE	
		ワイカト大学語学研究所	5			
計			48			

2か月派遣

派遣国	大 学	経費 人数	派 遣 期 間	協力団体
アメリカ	ワシントン大学	11	7月24日(土)～ 9月20日(月)	CIEE
	ハワイ大学	12	7月24日(土)～ 9月19日(日)	ISA
	デンバー大学	13	7月25日(日)～ 9月21日(火)	デンバー大学
カナダ	UBC大学(ブリティッシュ・コロンビア大学)	12	7月24日(土)～ 9月19日(日)	I.C.エッジ
オーストラリア	ラ・トロブ大学	12	7月16日(金)～ 9月13日(月)	CIEE
ニュージーランド	マッセー大学	12	7月23日(金)～ 9月20日(月)	CIEE
計		72		

I 研修概要

研 修 名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (12ヶ月派遣) (教職員派遣研修)							
担 当 課 係	研修事業第二課 海外派遣研修係							
研 修 目 的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる50歳以下の者とする。							
開 催 期 日	別紙のとおり				12ヶ月間			
受 講 人 数	計画人数	11	人	受講者数	6	人	参加率	54.5%
開 催 場 所	別紙のとおり							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	3	3	0	0	0
		50.0	50.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・とても充実したプログラム内容でした。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 国際的な視野、識見を有する中核的教員を
育成するための海外派遣研修（12, 6, 2か月派遣）一覧

12か月派遣

派遣国	大 学	人数	派遣期間	協力団体
イギリス	バーミンガム大学	6	4月20日(火)～ (H17)3月15日(月)	BC
計		6		

6か月派遣

派遣国	大学研修担当大学	語学研修所(大学)	人数	派遣期間	協力団体	
イギリス	エセックス大学	ヘルランガッジ スクール ホウソープ ホール ノルッチ	5	6月24日(木)～ 12月16日(木)	BC	
		ヘルランガッジ スクール サロン ウォルデン	5			
	エクセター大学	スクール オブ イングリッシュ スタディーズ フォルクストン	5	6月17日(木)～ 12月9日(木)	CIEE	
		リージェント オックスフォード	4			
	ノッティンガム大学	ズグンヌ スパロー プリマス ランガッジ スクール	4	6月17日(木)～ 12月9日(木)		
		インターナショナル ハウス パース	5			
カナダ	オタワ大学	トロント大学	5	6月17日(木)～ 12月9日(木)		CIEE
		ヨーク大学	5			
ニュージーランド	ウェリントン カレッジ オブ エデュケーション	マッセー大学語学センター	5	6月17日(木)～ 12月9日(木)	CIEE	
		ワイカト大学語学研究所	5			
計			48			

2か月派遣

派遣国	大 学	経費 人数	派遣期間	協力団体
アメリカ	ワシントン大学	11	7月24日(土)～ 9月20日(月)	CIEE
	ハワイ大学	12	7月24日(土)～ 9月19日(日)	ISA
	デンバー大学	13	7月25日(日)～ 9月21日(火)	デンバー大学
カナダ	UBC大学(ブリティッシュコロンビア大学)	12	7月24日(土)～ 9月19日(日)	I.C.カナダ
オーストラリア	ラ・トロープ大学	12	7月16日(金)～ 9月13日(月)	CIEE
ニュージーランド	マッセー大学	12	7月23日(金)～ 9月20日(月)	CIEE
計		72		

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の養成を目的とした研修 (小学校 北海道・東北ブロック)							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校並びに中等教育学校（前期課程）の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成16年 9月27日(月)～平成16年 9月28日(火)				2日間			
受 講 人 数	計画人数	300	人	受講者数	226	人	参加率	75.3%
開 催 場 所	オーヌマホテル（山形県山形市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	108 55.4	85 43.6	2 1.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

・評価と指導の一本化の必要性がよくわかり、実感できる具体例を改善して生かしていこうと思った。
 ・評価についての全体的な説明と事例発表という形で、理論的なことと実践的なことについて話を聞くことができてよかった。
 ・事例発表等は発表者によって、取り組みの全体を紹介しようとするあまり、評価規準等評価にかかわる内容に論点が焦点化できていないものもあった。
 ・文科省担当官から直接説明いただき、これまでの理解が不十分であったことが確認でき、正しく他の先生方に伝えられるような気になった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の養成を
目的とした研修（小・中学校 北海道・東北ブロック）開催要項

1 目 的

小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者より、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。

2 主 催 独立行政法人教員研修センター 山形県教育委員会

3 共 催 文部科学省

4 期 間 【小学校】平成16年9月27日（月）～平成16年9月28日（火）
【中学校】平成16年9月28日（火）～平成16年9月29日（水）

5 会 場 オースマホテル
〒990-0021 山形県山形市小白川町 2-1-10 TEL 023 (632) 1111

6 日 程

(1) 小学校

第1日(9/27) 12:00 12:30 12:40 13:50 14:00 17:00
受付 開会 総 論 休憩 教科別分科会 I

第2日(9/28) 8:00 8:30 9:30 9:40 12:40
受付 特別活動 休憩 教科別分科会 II

※教科別分科会 I は、「生活、音楽、図画工作、体育」の分科会を実施
※教科別分科会 II は、「国語、社会、算数、理科」の分科会を実施

(2) 中学校

第1日(9/28) 13:30 14:10 14:20 15:30 15:40 17:00
受付 開会 総 論 休憩 特別活動

第2日(9/29) 8:30 9:00 12:30
受付 教科別分科会

※教科別分科会は、「国語、社会、数学、理科、音楽、保健体育、技術・家庭」の分科会を実施

7 講 師 等（予定）

(1) 小学校

教科等	講 師	事例紹介者
総 論	未 定	
特別活動	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 杉田 洋	
生 活	文部科学省初等中等教育局視学官 嶋野 道弘	全国及び山形県内の小学校教諭を予定
音 楽	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 高須 一	
図画工作	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 板良敷 敏	
体 育	文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育課教科調査官 渡邊 彰 文部科学省スポーツ・青少年局体育官 戸田 芳雄	
国 語	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 井上 一郎	
社 会	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 寺田 登	
算 数	国立大学法人山梨大学教授 中村 享史	
理 科	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 日置 光久	

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の養成を目的とした研修 (小学校 関東・甲信越ブロック)						
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係						
研 修 目 的	小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校並びに中等教育学校（前期課程）の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等を行う予定である者。						
開 催 期 日	平成16年12月15日(水)～平成16年12月16日(木)				2日間		
受 講 人 数	計画人数	300	人	受講者数	279	参加率	93.0%
開 催 場 所	群馬県総合教育センター（群馬県伊勢崎市）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	136 54.8	106 42.7	6 2.4	0 0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事例を元にグループ別になり、評価をつけ合い協議するなどの方法も良いと思う。 ・基本的な考え方から説明していただき、大変得るところが大きかったが、見識の深い方にとっては、もっと深い話をしてほしいという気持ちがあるのではと思った。 ・「何をどのように評価してるのか」「年間評価計画をどのように書いているのか」の事例について、具体的でわかりやすかった。 ・評価という問題は特に学校全体に関わるものなので、学校全体での実践の中の一部という事例を紹介していただき良かった。 ・児童学習状況を適切に評価するには、学習目標に照らし合わせた視点と評価規準をもち、子ども一人一人を見ることだという思いを深めた。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の
 養成を目的とした研修（小・中学校 関東・甲信越ブロック）
 開催要項

1 目的

小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者より、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。

2 主催 独立行政法人教員研修センター、群馬県教育委員会

3 共催 文部科学省

4 期間 (小学校) 平成16年12月15日(水)～平成16年12月16日(木)
 (中学校) 平成16年12月16日(木)～平成16年12月17日(金)

5 会場 群馬県総合教育センター
 〒372-0031 群馬県伊勢崎市今泉町1-233-2
 TEL 0270-26-9211 (代表)

6 日程

(1) 小学校

	9:30	10:00	10:10	11:20	11:30	12:30	13:30		17:00
(1日目)	受付	開会	総論	休憩	特別活動	昼休	教科別分科会 I		

	9:00								12:30
(2日目)	教科別分科会 II								

※教科別分科会 I は、「社会、生活、音楽、図画工作」の分科会を実施
 ※教科別分科会 II は、「国語、算数、理科」の分科会を実施

(2) 中学校

					13:30	14:00	14:10	15:20	15:30	17:00
(1日目)						受付	開会	総論	休憩	特別活動

	9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	15:00
(2日目)	総合的な学習の時間	休憩	教科別分科会	昼休	教科別分科会	

※教科別分科会は、「国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語」の分科会を実施

7 講師等

文部科学省視学官、教科調査官等

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の養成を目的とした研修 (小学校 東海・北陸ブロック)							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言が行われるようにする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校並びに中等教育学校（前期課程）の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成17年2月24日（木）～平成17年2月25日（金）			2日間				
受 講 人 数	計画人数	300	人	受講者数	573	人	参加率	191.0%
開 催 場 所	静岡県総合教育センター（静岡県掛川市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	154	203	13	1	3
		41.5	54.7	3.5	0.3	

2. 研修内容に関する主な意見

・評価に関する問題、評価規準、評価の視点、子どもの学びの見取り、そして教科の原理、本質的に深いところから具体的な作業に至るまでの、知りたいことが分かった。
 ・校内研修、授業改善に資する講話、事例紹介者を併せて資料等も頂き、ありがたく思った。
 ・2つの事例発表を聞いたが、独自性もあり、意欲的なすばらしい取組だと思った。ただ評価という面にもう少しスポットをあてて聞けるといいと思った。
 ・2年前なら大変参考になったと思うが、すでに本校の研修の中の実践していることが多く、本校が課題としていることについての実践や説明がなかった。
 ・評価規準をいかに生かしていくか、子どもたちの成長につなげるために生きた評価をしていかなければいけない、と思った。
 ・評価のための評価ではなく、指導と一体化した評価のあり方について2日間じっくり研修することができた。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の
 の養成を目的とした研修（小・中学校 東海・北陸ブロック）
 開催要項

1 目的

小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者より、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。

2 主催 独立行政法人教員研修センター、静岡県教育委員会

3 共催 文部科学省

4 期間 (小学校) 平成17年 2月24日(木)～平成17年 2月25日(金)
 (中学校) 平成16年12月13日(月)～平成16年12月14日(火)

5 会場 静岡県総合教育センター
 〒436-0294 静岡県掛川市富部456番地 TEL 0537-24-9700

6 日程

(1) 小学校

(1日目)	9:30	10:00	10:10	11:20	11:30	12:30	13:15	16:45
	受付	開会	総論	休憩	特別活動	昼休	教科分科会 I	
(2日目)	9:00	12:30	13:15	14:30	14:45	16:15		
	教科別分科会 II	昼休	道徳	休憩	総合的な学習の時間			

※教科別分科会 I は、「国語、社会、理科、音楽、図画工作」の分科会を実施
 ※教科別分科会 II は、「算数、生活、家庭、体育」の分科会を実施

(2) 中学校

(1日目)	9:30	10:00	10:10	11:20	11:30	12:30	13:30	15:00	15:15	16:45
	受付	開会	総論	休憩	特別活動	昼休	総合的な学習の時間	休憩	道徳	
(2日目)	9:30	10:30	10:45	12:15	13:15	14:15				
	教科別分科会	休憩	教科別分科会	昼休	分科会					

※教科別分科会は、「国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語」の分科会を実施

7 講師等(予定)

(1) 小学校

教科等	所属・職名・氏名	事例紹介者
総論	文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程第二係長・大内克紀	全国及び 静岡県の 小学校教 諭を予定
特別活動	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・杉田 洋	
国語	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・井上一郎	
社会	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・寺田 登	
理科	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・日置光久	
音楽	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・高須 一	
図画工作	文部科学省初等中等教育局視学官・板良敷 敏	
算数	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・吉川成夫	
生活	文部科学省初等中等教育局視学官・鳴野道弘	
家庭	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・岡 陽子	
体育	文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育課教科調査官・渡邊 彰 文部科学省スポーツ・青少年局体育官・戸田芳雄	
道徳	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・柴原弘志	
総合的な学習の時間	国立教育政策研究所基礎研究部総括研究官・工藤文三	

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の養成を目的とした研修 (小学校 近畿ブロック)							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校並びに中等教育学校（前期課程）の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成16年8月17日(火)～平成16年8月18日(水)				2日間			
受 講 人 数	計画人数	300	人	受講者数	322	人	参加率	107.3%
開 催 場 所	紀州南部ロイヤルホテル（和歌山県南部町）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	118	163	4	1	2
		41.3	57.0	1.4	0.3	

2. 研修内容に関する主な意見

・調査官のお話が大変良かった。指導と評価の一体化についての重要性が今回の研修で理解されたのではないかと思った。

・発表していただいた実践事例については、2校とも大変わかりにくかった。どのように評価活動を取り入れた授業をされているのかももっと詳しく教えていただきたいかった。

・もう少し小規模で参加者の意見交流ができるような時間を設け、担当官の説明ももう少しとって中身を濃くした方がいいと思う。

・評価・指導の一体化について、多種多様な書物を読んだが、実践を通しての具体的な評価方法に研修を重ねられたことを大変うれしく思う。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の
養成を目的とした研修（小・中学校 近畿ブロック）

開催要項

1 目的

小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者より、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。

2 主催 独立行政法人教員研修センター、和歌山県教育委員会

3 共催 文部科学省

4 期間 (小学校) 平成16年8月17日(火)～平成16年8月18日(水)
(中学校) 平成16年8月18日(水)～平成16年8月19日(木)

5 会場 紀州南部ロイヤルホテル
〒645-8501 和歌山県日高郡南部町大字山内字大目津泊まり348
TEL 0739-72-5500

6 日程

(1) 小学校

	9:30	10:00	10:10	11:20	11:30	12:30	13:30	17:00
(1日目)	受付	開会	総論	休憩	総合的な学習の時間	昼休	教科別分科会 I	

	9:00	12:30
(2日目)	教科別分科会 II	

※教科別分科会 I は、「国語、社会、算数」の分科会を実施

※教科別分科会 II は、「音楽、図画工作、家庭」の分科会を実施

(2) 中学校

	14:00	14:30	14:40	15:50	16:00	17:00
(1日目)	受付	開会	総論	休憩	総合的な学習の時間	

	9:00	10:30	10:40	12:10	13:30	15:30
(2日目)	道徳	休憩	教科別分科会	昼休	教科別分科会	

※教科別分科会は、「国語、社会、数学、理科、音楽、美術、外国語」の分科会を実施

7 講師等

文部科学省教科調査官等

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の養成を目的とした研修 (小学校 中国・四国・九州ブロック)							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言が行われるようにする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校並びに中等教育学校（前期課程）の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成17年1月13日(木)～平成17年1月14日(金)				2日間			
受 講 人 数	計画人数	300	人	受講者数	306	人	参加率	102.0%
開 催 場 所	熊本テルサ（熊本県熊本市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	126 45.5	148 53.4	3 1.1	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・多様な評価を使って、適切な評価に近づけるということがわかった。 ・より良い評価の仕方について学びたかったが、考え方や指導の方法についての話が多く、ややもの足りなかった講義もあった。 ・子どもたちが活動している場面をビデオで見ながら、評価規準に照らし合わせて評価するなどいいと思う。 ・評価の難しさばかり気になっていたが、指導すべき内容についての教師側の研究不足を痛感した。 ・負担にならないような評価をしていきたいと思うし、作成した評価規準がより生かせるような形にしていきたい。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の
養成を目的とした研修（小・中学校 中国・四国・九州ブロック）
開催要項

1 目的

小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者より、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。

2 主催 独立行政法人教員研修センター、熊本県教育委員会

3 共催 文部科学省

4 期間 (小学校) 平成17年1月13日(木)～平成17年1月14日(金)
(中学校) 平成17年1月17日(月)～平成17年1月18日(火)

5 会場 全体会場: 熊本テルサ
〒862-0956 熊本市水前寺公園 28-51
TEL (096) 387-7777 FAX (096) 387-7575
分科会場: 公立学校共済組合熊本宿泊所 水前寺共済会館
〒862-0950 熊本市水前寺1丁目 33-18
TEL (096) 383-1281 FAX (096) 383-1285

6 日程

(1) 小学校

	9:30	10:00	10:10	11:20	11:30	12:30	14:00	17:00
(1日目) 日程	受付	開会	総論	休憩	特別活動	昼休及び移動	教科別分科会 I	
会場	熊本テルサ						水前寺共済会館	
	9:00	9:30				12:30		
(2日目) 日程	受付	教科別分科会 II						
会場	水前寺共済会館							

※教科別分科会 I は、「生活、音楽、図画工作」の分科会を実施

※教科別分科会 II は、「国語、社会、算数、理科」の分科会を実施

(2) 中学校

				13:00	14:00	14:10	15:20	15:30	16:30
(1日目) 日程				受付	開会	総論	休憩	特別活動	
会場	熊本テルサ								
	8:40	10:00	10:30	12:00	13:00	15:00			
(2日目) 日程	道徳	休憩及び移動	教科別分科会	昼休	教科別分科会				
会場	水前寺共済会館 / 熊本テルサ								

※教科別分科会は、「国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語」の分科会を実施

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の養成を目的とした研修 (中学校 北海道・東北ブロック)						
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係						
研 修 目 的	小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校並びに中等教育学校（前期課程）の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等を行う予定である者。						
開 催 期 日	平成16年9月28日(火)～平成16年9月29日(水)				2日間		
受 講 人 数	計画人数	300	人	受講者数	208	参加率	69.3%
開 催 場 所	オーヌマホテル（山形県山形市）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	92 50.0	89 48.4	2 1.1	1 0.5	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が実際に評価をし、その見方を磨くような授業研究会などがあるとありがたい。 ・「評価規準を考えること＝ねらいがはっきりしてくる」という話が目からウロコだった。 ・直接ご指導いただく機会は減多にないので、調査官の時間をもっと多くしてほしい。 ・全国の先生方の実践についてたくさん研修することで、現場にいる私たちはいろいろな工夫ができると思う。 ・自分なりにもう一度評価について考え、指導と評価の一体となる授業をしていきたい。 ・誰のための何のための評価なのか、又、客観性のある評価とは何なのかについて、あらためていくつかのことを学ぶことができた。 ・評価に客観性を持たせるために、もっと周囲との話し合いが必要でオープンにしていくことが大切だと思った。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の養成を
目的とした研修（小・中学校 北海道・東北ブロック）開催要項

1 目 的

小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者より、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。

2 主 催 独立行政法人教員研修センター 山形県教育委員会

3 共 催 文部科学省

4 期 間 【小学校】平成16年9月27日（月）～平成16年9月28日（火）
【中学校】平成16年9月28日（火）～平成16年9月29日（水）

5 会 場 オーナマホテル
〒990-0021 山形県山形市小白川町 2-1-10 TEL 023 (632) 1111

6 日 程

(1) 小学校

第1日(9/27) 12:00 12:30 12:40 13:50 14:00 17:00
受付 開会 総 論 休憩 教科別分科会Ⅰ

第2日(9/28) 8:00 8:30 9:30 9:40 12:40
受付 特別活動 休憩 教科別分科会Ⅱ

※教科別分科会Ⅰは、「生活、音楽、図画工作、体育」の分科会を実施
※教科別分科会Ⅱは、「国語、社会、算数、理科」の分科会を実施

(2) 中学校

第1日(9/28) 13:30 14:10 14:20 15:30 15:40 17:00
受付 開会 総 論 休憩 特別活動

第2日(9/29) 8:30 9:00 12:30
受付 教科別分科会

※教科別分科会は、「国語、社会、数学、理科、音楽、保健体育、技術・家庭」の分科会を実施

7 講 師 等（予定）

(1) 小学校

教科等	講 師	事例紹介者
総 論	未 定	
特別活動	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 杉田 洋	
生 活	文部科学省初等中等教育局視学官 嶋野 道弘	全国及び山形県内の小学校教諭を予定
音 楽	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 高須 一	
図画工作	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 板良敷 敏	
体 育	文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育課教科調査官 渡邊 彰 文部科学省スポーツ・青少年局体育官 戸田 芳雄	
国 語	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 井上 一郎	
社 会	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 寺田 登	
算 数	国立大学法人山梨大学教授 中村 享史	
理 科	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 日置 光久	

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の養成を目的とした研修 (中学校 関東・甲信越ブロック)						
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係						
研 修 目 的	小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校並びに中等教育学校（前期課程）の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等を行う予定である者。						
開 催 期 日	平成16年12月16日(木)～平成16年12月17日(金)				2日間		
受 講 人 数	計画人数	300	人	受講者数	269	参加率	89.7%
開 催 場 所	群馬県総合教育センター（群馬県伊勢崎市）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	118 51.5	105 45.9	6 2.6	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・実際に授業を参観し、評価について協議したい。 ・「指導者養成」というスタンスでいくと、「評価のねらいや方法等」に関する話や事例発表だけでなく、「規準の解釈の共通化」「それに関わる研修」等の視点もほしかった。 ・自分の指導力・評価力をスキルアップしていく必要性を実感した。 ・評価は、普段の授業をより良くするためにはなくてはならないものであり、指導と評価は一体であり、生徒のために工夫・改善していかななくてはならないことがよくわかった。 ・具体的に生徒のよりよい成長を目指すためのやる気を高めさせる評価とはどういうものなのか、理論的な部分と実践的な部分と両方の見方・考え方がかなり明確になってきた。 ・評価の、特に意義について、全職員で共通理解を深めることが大事であると思った。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の
 の養成を目的とした研修（小・中学校 関東・甲信越ブロック）
 開催要項

1 目的

小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者より、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。

2 主催 独立行政法人教員研修センター、群馬県教育委員会

3 共催 文部科学省

4 期間 (小学校) 平成16年12月15日(水)～平成16年12月16日(木)
 (中学校) 平成16年12月16日(木)～平成16年12月17日(金)

5 会場 群馬県総合教育センター
 〒372-0031 群馬県伊勢崎市今泉町1-233-2
 TEL 0270-26-9211 (代表)

6 日程

(1) 小学校

	9:30	10:00	10:10	11:20	11:30	12:30	13:30	17:00
(1日目)	受付	開会	総論	休憩	特別活動	昼休	教科別分科会 I	

	9:00	12:30
(2日目)	教科別分科会 II	

※教科別分科会 I は、「社会、生活、音楽、図画工作」の分科会を実施
 ※教科別分科会 II は、「国語、算数、理科」の分科会を実施

(2) 中学校

	13:30	14:00	14:10	15:20	15:30	17:00
(1日目)	受付	開会	総論	休憩	特別活動	

	9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	15:00
(2日目)	総合的な学習の時間	休憩	教科別分科会	昼休	教科別分科会	

※教科別分科会は、「国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、
 技術・家庭、外国語」の分科会を実施

7 講師等

文部科学省視学官、教科調査官等

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の養成を目的とした研修 (中学校 東海・北陸ブロック)						
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係						
研 修 目 的	小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校並びに中等教育学校（前期課程）の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等を行う予定である者。						
開 催 期 日	平成16年12月13日（月）～平成16年12月14日（火）				2日間		
受 講 人 数	計画人数	300	人	受講者数	470	参加率	156.7%
開 催 場 所	静岡県総合教育センター（静岡県掛川市）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	172	223	19	0	2
		41.5	53.9	4.6	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・事例発表だけでは具体的には見えてこない。もっと実践的にVTRを見せて、その評価についてみんなで話し合う必要がある。何をAとし何をBとするのか、その根拠についてもそれぞれの考えや意見を出し合えるとよい。

・今まで評価に関して抱いていた疑問や不安を解決する手だてを示され、また理論的な解説もあり、霧の中で視界が広がったように感じた。これを機に自分の実践を変えていくとともに、学校・地域に還元できるよう努力していきたい。

・実践事例では、豊富な資料をもとにわかりやすい説明で先生方の日々の実践を知ることができ、自らの研修や、授業への取り組み、評価について深く考え直す良い機会となった。

・何のための評価なのかを考える良い機会となった。子どもにとって価値ある評価を研究していきたい。

・入試の改善が必要である。突き詰めれば、入試の在り方・方法に問題がある。そこを改善しなければ本当にその子の学びを支える評価にはならないのではないだろうか？

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

**平成16年度 児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の
養成を目的とした研修（小・中学校 東海・北陸ブロック）
開催要項**

1 目的

小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者より、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。

2 主催 独立行政法人教員研修センター、静岡県教育委員会

3 共催 文部科学省

4 期間 (小学校) 平成17年 2月24日(木)～平成17年 2月25日(金)
(中学校) 平成16年12月13日(月)～平成16年12月14日(火)

5 会場 静岡県総合教育センター
〒436-0294 静岡県掛川市富部456番地 TEL 0537-24-9700

6 日程

(1) 小学校

(1日目)	9:30	10:00	10:10	11:20	11:30	12:30	13:15	16:45
	受付	開会	総論	休憩	特別活動	昼休	教科分科会 I	
(2日目)	9:00	12:30	13:15	14:30	14:45	16:15		
	教科別分科会 II	昼休	道徳	休憩	総合的な学習の時間			

※教科別分科会 I は、「国語、社会、理科、音楽、図画工作」の分科会を実施
※教科別分科会 II は、「算数、生活、家庭、体育」の分科会を実施

(2) 中学校

(1日目)	9:30	10:00	10:10	11:20	11:30	12:30	13:30	15:00	15:15	16:45
	受付	開会	総論	休憩	特別活動	昼休	総合的な学習の時間	休憩	道徳	
(2日目)	9:30	10:30	10:45	12:15	13:15	14:15				
	教科別分科会	休憩	教科別分科会	昼休	分科会					

※教科別分科会は、「国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語」の分科会を実施

7 講師等（予定）

(1) 小学校

教科等	所属・職名・氏名	事例紹介者
総論	文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程第二係長・大内克紀	全国及び 静岡県の 小学校教 諭を予定
特別活動	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・杉田 洋	
国語	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・井上一郎	
社会	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・寺田 登	
理科	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・日置光久	
音楽	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・高須 一	
図画工作	文部科学省初等中等教育局視学官・板良敷 敏	
算数	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・吉川成夫	
生活	文部科学省初等中等教育局視学官・嶋野道弘	
家庭	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・岡 陽子	
体育	文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育課教科調査官・渡邊 彰 文部科学省スポーツ・青少年局体育官・戸田芳雄	
道徳	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・柴原弘志	
総合的な学習の時間	国立教育政策研究所基礎研究部総括研究官・工藤文三	

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の養成を目的とした研修 (中学校 近畿ブロック)							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校並びに中等教育学校（前期課程）の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成16年8月18日(水)～平成16年8月19日(木)			2日間				
受 講 人 数	計画人数	300	人	受講者数	272	人	参加率	90.7%
開 催 場 所	紀州南部ロイヤルホテル（和歌山県南部町）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	94	133	6	0	1
		40.3	57.1	2.6	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・先進的取り組みの事例発表もさることながら、グループ討論会形式での各校の課題と実践交流も有意義であると思う。
- ・グループ討議もよいが、せっかくの文科省の担当官の話の時間を多くとっても良かったのではないかな。
- ・分科会はとても良かった。提案して下さった取り組みの内容も素晴らしかったし、講師の先生方が全ての質問に丁寧に答えて下さったのがとても良かった。
- ・実践発表は今後の教育活動に大いに参考になった。また、パネル・ディスカッションでは、日頃疑問に思っている内容について、1つの方向性が見つけられた。調査官の明快な回答にも勇気づけられた。
- ・評価に関してもやもやした部分があったが、教科調査官の話を通じてスッキリした部分が多かった。
- ・現在自分の行っている評価方法について、ふり返る良い機会となった。不十分であったところを改善し、2学期から実践に役立てたい。
- ・4観点の趣旨理解についてもう少し時間をかけ（例をあげ）て説明してほしい。
- ・評価はどうしても個人による差が生じる。客観性の高い評価は本当に難しい。その点について、学習の機会を設けていただいて、本当に良かったと思う。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の
養成を目的とした研修（小・中学校 近畿ブロック）

開催要項

1 目的

小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者より、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。

2 主催 独立行政法人教員研修センター、和歌山県教育委員会

3 共催 文部科学省

4 期間 (小学校) 平成16年8月17日(火)～平成16年8月18日(水)
(中学校) 平成16年8月18日(水)～平成16年8月19日(木)

5 会場 紀州南部ロイヤルホテル
〒645-8501 和歌山県日高郡南部町大字山内字大目津泊まり348
TEL 0739-72-5500

6 日程

(1) 小学校

	9:30	10:00	10:10	11:20	11:30	12:30	13:30	17:00
(1日目)	受付	開会	総論	休憩	総合的な学 習の時間	昼休	教科別分科会 I	

(2日目)	9:00	教科別分科会 II		12:30
-------	------	-----------	--	-------

※教科別分科会 I は、「国語、社会、算数」の分科会を実施

※教科別分科会 II は、「音楽、図画工作、家庭」の分科会を実施

(2) 中学校

(1日目)	14:00	14:30	14:40	15:50	16:00	17:00
	受付	開会	総論	休憩	総合的な 学習の時間	

(2日目)	9:00	10:30	10:40	12:10	13:30	15:30
	道徳	休憩	教科別分科会	昼休	教科別分科会	

※教科別分科会は、「国語、社会、数学、理科、音楽、美術、外国語」の分科会を実施

7 講師等

文部科学省教科調査官等

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の養成を目的とした研修 (中学校 中国・四国・九州ブロック)						
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係						
研 修 目 的	小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言が行われるようにする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校並びに中等教育学校（前期課程）の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等を行う予定である者。						
開 催 期 日	平成17年1月17日(月)～平成17年1月18日(火)				2日間		
受 講 人 数	計画人数	300	人	受講者数	295	参加率	98.3%
開 催 場 所	熊本テルサ（熊本県熊本市）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	106	138	5	0	1
		42.6	55.4	2.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・参加型の研修で時間が経つのが早く感じられた。 ・講義の内容が大変具体的で示唆に富むものだった。 ・文科省担当官への質問時間を（特に全体会）十分とっていただければありがたかった。 ・日頃評価について相談を受けたりした時に、納得していただけるような答えを出せなかったが、今回この研修に参加して、疑問に思ったことがわかりとても助かった。 ・文科省の方から直にお話が聞け、大変わかりやすかった。また、最新の動向なども教えていただき、今後現場で判断に迷うような時に生かして、大局的にものごとを見ていきたい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

**平成16年度児童生徒の学習状況を適切に評価するための指導者の養成を目的とした研修（小・中学校 中国・四国・九州ブロック）
開催要項**

1 目的

小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等について、必要な知識等を修得させるとともに、受講者より、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。

2 主催 独立行政法人教員研修センター、熊本県教育委員会

3 共催 文部科学省

4 期間 (小学校) 平成17年1月13日(木)～平成17年1月14日(金)
(中学校) 平成17年1月17日(月)～平成17年1月18日(火)

5 会場 全体会場: 熊本テルサ
〒862-0956 熊本市水前寺公園 28-51
TEL (096) 387-7777 FAX (096) 387-7575
分科会場: 公立学校共済組合熊本宿泊所 水前寺共済会館
〒862-0950 熊本市水前寺1丁目 33-18
TEL (096) 383-1281 FAX (096) 383-1285

6 日程

(1) 小学校

	9:30	10:00	10:10	11:20	11:30	12:30	14:00	17:00
(1日目) 日程	受付	開会	総論	休憩	特別活動	昼休及び移動	教科別分科会 I	
会場	熊本テルサ						水前寺共済会館	

	9:00	9:30	12:30
(2日目) 日程	受付	教科別分科会 II	
会場	水前寺共済会館		

※教科別分科会 I は、「生活、音楽、図画工作」の分科会を実施

※教科別分科会 II は、「国語、社会、算数、理科」の分科会を実施

(2) 中学校

	13:00	14:00	14:10	15:20	15:30	16:30
(1日目) 日程	受付	開会	総論	休憩	特別活動	
会場	熊本テルサ					

	8:40	10:00	10:30	12:00	13:00	15:00
(2日目) 日程	道徳	休憩及び移動	教科別分科会	昼休	教科別分科会	
会場	水前寺共済会館 / 熊本テルサ					

※教科別分科会は、「国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語」の分科会を実施

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (道徳教育連携・推進講座) (第1回中央指導者研修)							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	各都道府県、指定都市及び中核市において道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等の修得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、受講者より、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 「平成16年度道徳教育推進のための指導者養成研修(地区別研修講座)」(17年度以降にあってはブロック別で開催予定)等の講師等として、各地域において本研修内容を踏まえた研修を実施することができる者。							
開 催 期 日	平成16年 7月 6日(火)～平成16年 7月 9日(金)				4日間			
受 講 人 数	計画人数	250	人	受講者数	212	人	参加率	84.8%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	126	55	0	0	22
		69.6	30.4	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の重要性を再認識し、是非頑張って指導していきたいと思いを強くした。 ・指導者の熱意、道徳の時間の大切さを今すぐ若手教員に熱く語りたかった。 ・道徳教育についての認識を深めることができる内容であった。教材のとらえ、授業のポイント、何をねらうのか、よくわかる内容であった。 ・道徳教育を全員で取り組んでいこうとする組織の推進や必要性がとてもわかりやすく、現場で訴えられる。 ・それぞれの立場からの提言は事情をふまえたものであり、多くの課題についての解決方向を得ることができた。 ・理論を深め、道徳教育推進上の悩みを共有できる大変有意義な研修だった。自分の中に道徳教育の推進者としての「筋」が一本通ったような気がする。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 第1回 道德教育を推進するための中核となる指導者の
養成を目的とした研修〔中央指導者研修〕(道德教育連携・推進講座)
日 程 表

第1日目

7月6日 (火)	10:20	11:10	11:25	12:00	13:00	14:40	15:00	17:00	18:00
	受 付	開 講 式	机 エ ン テ ン ション	昼 休 み	課題協議1 「道德教育の現状と課題」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 柴原弘志	休 憩	班別演習1 「児童生徒の実態(問題行動等を含む)、道德教育の問題点・課題の分析・整理等」	情報 交換 会	

第2日目

7月7日 (水)	9:00	10:40	10:55	12:35	14:00	17:00
	課題協議2 「学校全体で取り組む道德教育の効果的な推進」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 永田繁雄	休 憩	課題協議3 「豊かな心とその教育」 淑徳大学 教授 新宮弘識	昼 休 み	シンポジウム 「学校、家庭、地域社会の積極的な連携による道德教育の推進に向けて」 <コーディネーター> 八洲学園大学教授 生越昭二 <シンポジスト> 淑徳大学教授 新宮弘識 地域代表 和田真由美 広島県広島市立五日市観音小学校長 菅田和子 福島県南会津郡田島町立檜沢中学校長 吉津政一	休 憩

第3日目

7月8日 (木)	9:00	10:40	10:55	12:30	13:30	15:10	15:25	17:00
	テーマ演習1 「児童生徒理解と道德教育の評価」 <指導助言者> 1班 元東京都新宿区立早稲田小学校長 荒川 進 2班 元東京都品川区立富士見台中学校長 海老澤 孝夫 3班 鳴門教育大学附属小学校副校長 大宮 俊恵 4班 埼玉県教育委員会生徒指導室長付指導主事 土井 雅弘 5班 山梨県教育委員会義務教育課指導主事 菟原 桂 6班 広島県教育委員会指導第三課長補佐 藤田 美佐子 7班 元帝京大学教授 牧野 禎夫 8班 埼玉県越谷市立中央中学校校長 山西 実	休 憩	テーマ演習2 「教材研究の進め方と『心のノート』 を生かした道德教育の展開」	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩

第4日目

7月9日 (金)	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:10	15:25
	課題協議4 「諸外国の道德教育から我が国の 道德教育を考える」 鳴門教育大学 教授 伴 恒信	休 憩	班別演習2 「道德教育の充実のための研修プロ グラムの作成」 <指導助言者> 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 柴原弘志 教科調査官 永田繁雄	休 憩	休 憩	課題協議5 「道德教育の研修講師となるために (Q & Aを含む)」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 柴原弘志 教科調査官 永田繁雄	閉 講 式

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (道徳教育連携・推進講座) (第2回中央指導者研修)							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	各都道府県、指定都市及び中核市において道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等の修得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、受講者より、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。(校長、教頭及び道徳教育の指導的立場を担う教諭) 「平成16年度道徳教育推進のための指導者養成研修(地区別研修講座)」(17年度以降にあってはブロック別で開催予定)等の講師等として、各地域において本研修内容を踏まえた研修を実施することができる者。							
開 催 期 日	平成16年10月 4日(月)～平成16年10月 7日(木)				4日間			
受 講 人 数	計画人数	250	人	受講者数	227	人	参加率	90.8%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数(人)	割合(%)	143	72.6	54	27.4	0	0.0	0	0.0	19

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育を進める上でのポイント、視点の重点化、焦点化の提示がとてもためになった。 ・資料の活用等とても具体的な提示がされており、とてもためになった。 ・道徳教育を進める上で、本校に欠けていたものが明確になった。 ・家庭との連携面でのお話をもっと聞きたかったし、話し合いたかった。 ・地域の人々の参画により、より具体的な成果や課題、学校が配慮すべき点について浮き彫りになったと思う。 ・何かひとつのものをつくりあげるような流れにするなど、工夫が必要だと感じた。助言者の先生はとてもよかった。 ・さまざまな課題への解決が、具体的に指摘されていたと思う。 ・小グループで指導案の展開を考えたり、資料分析をしたりするような講習も入れられたらと思う。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 第2回 道德教育を推進するための中核となる指導者の
養成を目的とした研修〔中央指導者研修〕(道德教育連携・推進講座)
日 程 表

第1日目

10月4日 (月)	10:30		11:10	11:25	12:00	13:00	14:40	14:55	17:00
	受 付	開 講 式	利 エ ネ ー シ ョ ン	昼 休 み	課題協議1 「道德教育の現状と課題」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 柴原弘志	休 憩	班別演習1 「生命の尊重をテーマとした教育の実践」		

第2日目

10月5日 (火)	9:00		10:40	10:55	12:35	14:00	17:00
	課題協議2 「学校全体で取り組む道德教育の効果的な推進」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 永田繁雄	休 憩	課題協議3 「子どもの心を育てる道德教育」 関西学院大学 教授 横山利弘	昼 休 み	シンポジウム 「学校、家庭、地域社会の積極的な連携による道德教育の推進に向けて」 <コーディネータ> 東京純心女子大学教授 吉澤良保 <シンポジスト> 関西学院大学教授 横山利弘 地域代表 駒井幹郎 高知県物部村立大橋小学校教頭 明石優子 秋田県八森町立八森中学校校長 佐藤重夫	休 憩	

第3日目

10月6日 (水)	9:00		10:40	10:55	12:30	13:30	15:10	15:25	17:00
	テーマ演習1 「児童生徒理解と道德教育の評価」 <指導助言者> 1班 倉敷市教育委員会指導課課長補佐 市城よし子 2班 大分県教育委員会義務教育課指導主事 川上修司 3班 千葉県教育委員会指導課指導主事 久我久義 4班 東京都町田市立堺中学校校長 齋藤直子	休 憩	テーマ演習2 「教材研究の進め方と『心のノート』 を生かした道德教育の展開」	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩	

第4日目

10月7日 (木)	9:00		10:40	10:55	12:00	13:00	15:10	15:25	
	課題協議4 「『つながり』に焦点を当てて道德教育を考え直す」 麗澤大学 教授 岩佐信道	休 憩	班別演習2 「道德教育の充実のための 研修プログラムの作成」 <指導助言者> 教科調査官 柴原弘志 教科調査官 永田繁雄	昼 休 み	課題協議5 「道德教育の研修講師となるために(Q&Aを含む)」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 柴原弘志 教科調査官 永田繁雄	閉 講 式			

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (地区別研修講座)							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	道徳教育の基本問題及び指導上の諸問題について都道府県教育委員会との連携・協力の下で研修を行い、教員の実践的指導力の向上を図るとともに、保護者や地域住民との交流を深め、道徳教育推進の中核的指導者・協力者となる人材を育成し、学校及び地域社会における道徳教育の一層の充実に資する。							
受 講 対 象	教育委員会の指導主事、国・公・私立学校の教員及びPTA関係者。(保護者・地域住民) なお、必要に応じて、校長及び教頭も参加することができることとし、より多くの教員が参加できるよう工夫すること。また、PTA関係者については、参加者としてではなく、シンポジストやオブザーバー、実践事例発表者として参加を得るよう工夫を図ること。							
開 催 期 日	平成16年4月 ~ 平成17年3月				2～3日間			
受 講 人 数	計画人数	30,000	人	受講者数	37,614	人	参加率	125.4%
開 催 場 所	各都道府県で設定							

II アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

2. 研修内容に関する主な意見

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 (東部地区)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	体育の授業において児童生徒が自ら積極的に運動に親しみ、体力を高めるため、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた指導、体を動かす意識を持たせる学習指導等について、必要な知識を修得させ、受講者により、これらの内容を踏まえた研修等が各地域で行われるようにする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者							
開 催 期 日	平成16年 5月25日(火)～平成16年 5月28日(金)				4日間			
受 講 人 数	計画人数	400	人	受講者数	353	人	参加率	88.3%
開 催 場 所	群馬音楽センターホール、高崎市中央体育館、県総合スポーツセンター 他							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	201	68	3	0	7
		73.9	25.0	1.1	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい講習会でした。自分自身の意識改革にもなりました。地元にもどり伝達講習の講師として、この講習会で得たものをしっかりと伝えたい。 ・3泊4日の研修ということで、当初、緊張していたが、各県の参加者の先生方の器が広くて、いろいろな意味で勉強になった。講師の先生には、指導方法や、ポイントを分りやすく教えていただきました。子どもの立場に立ってみると、先生のことば1つ1つに元気をもらう感じでした。自分の県に戻って、役立てていけるようにしたい。 ・今回、初の試みという、“実技だけでなく、自分達で運動を考え、話し合う”という活動は、いろいろな考えや意見を出し合うことで、運動の持っている本質に迫ることができ、とても良かった。また、他県の方々との交流も深まり、活動自体楽しかった。 ・水泳の特性に十分触れた楽しみ方、安全に配慮した指導の在り方という点で、大変勉強になった。専門外の自分でも楽しく安全に活動することができた。今回、研修した事を明日からの実践に生かし、水泳好きな生徒を一人でも多く作りたいと思います。 ・自身の教育技能を高めたいという意識を持って参加したが、実際、講師の先生の豊富な知識から多くを伝授頂き、感謝している。伝達講習する先生方にも同じように感じてもらえるよう努力していきたい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 16 年度子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修
(東 部 地 区)

1 目 的

小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校における体育指導者等の資質向上を図るとともに、都道
県における学校体育実技指導者講習会等の指導者の養成を図る。

2 企 画

文部科学省

3 主 催

独立行政法人 教員研修センター、群馬県教育委員会

4 共 催

前橋市教育委員会、高崎市教育委員会

5 地区、開催期日、開催地及び参加都道県

地 区	開 催 期 日	開催地	参 加 都 道 県
東 部	平成16年5月25日(火) ～28日(金)	群馬県	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、 福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京 神奈川、山梨 (15都道県)

6 日 程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17
(第1日) 5月25日(火)						受 付	全 体 会 開 会 式 解 説	講師・運 営委員長 等打合せ	
(第2日) 5月26日(水)		実技・演習：学習指 導の考え方と工夫(1)		昼食			実技・演習：学習指導の 考え方と工夫(2)		
(第3日) 5月27日(木)		実技・演習：学習指 導の考え方と工夫(3)		昼食			実技・演習：研修講師と なるために		
(第4日) 5月28日(金)		班 別 研究協議		閉 会 式					

※ 第1日目の受付は各都道県の引率指導主事が行う。

※ 開会式は午後2時、講師・運営委員長等打合せは午後4時15分から行う。

※ 班別実技及び班別研究協議は午前9時30分から行う。閉会式は各班ごとに行う。

7 講習内容

(1) 解 説 「体育学習における指導の工夫・改善 ～体力の向上、目標に準拠した評価～」

文部科学省スポーツ・青少年局 企画・体育課 教科調査官 渡 邊 彰

(2) 実技・演習及び講師

小学校(4班)

- | | | | |
|-----------|----|---------|-------------|
| ① 基本の運動班 | 講師 | 徳 永 隆 治 | (安田女子大学 教授) |
| ② 体づくり運動班 | 講師 | 三 木 四 郎 | (大阪教育大学 教授) |
| ③ 陸上運動班 | 講師 | 山 本 俊 彦 | (三重大学 教授) |
| ④ ボール運動班 | 講師 | 立 木 正 | (東京学芸大学 教授) |

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 (中部地区)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	体育の授業において児童生徒が自ら積極的に運動に親しみ、体力を高めるため、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた指導、体を動かす意識を持たせる学習指導等について、必要な知識を修得させ、受講者により、これらの内容を踏まえた研修等が各地域で行われるようにする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者							
開 催 期 日	平成16年5月18日(火)～平成16年5月21日(金)			4日間				
受 講 人 数	計画人数	400	人	受講者数	371	人	参加率	92.8%
開 催 場 所	長良川国際会議場、岐阜市立長良中学校体育館、岐阜メモリアルセンター 他							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	111	91	11	0	4
		52.1	42.7	5.2	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・いかに楽しく体力をつけるかというのが、日々の体育の授業での個人的な課題であったので、今回の研修は、大変有意義でした。また、いろいろな先生方の考えや実践をお聞きすることができ、視野が広がりました。学校に戻ってすぐ実践してみようという気持ちになりました。</p> <p>・他県の先生方との交流が持てたことは、視野が広がり刺激になりました。体育でも、変化のある繰り返しで、その運動を深めたり高めたりしていく大切さや、友達や仲間とのふれ合いから学ぶことの大切さや、そして競争なども効果的に取り入れて、体育の楽しさを伝えていく重要性を感じる事が出来ました。</p>

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 16 年度子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修
(中 部 地 区)

1 目 的

小学校、中学校及び高等学校における体育指導者の資質向上を図るとともに、府県学校体育実技指導者講習会における指導者の養成を図る。

2 企 画

文部科学省

3 実 施

独立行政法人教員研修センター・岐阜県教育委員会・岐阜市教育委員会

4 開催期日

平成 16 年 5 月 18 日 (火) ~ 21 日 (金)

5 開催地

岐阜県・岐阜市

6 参加府県

北信越	新潟県 富山県 石川県 福井県 長野県
東 海	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県
近 畿	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県

7 日 程

時 刻	13:30 14:00 14:30					16:00
第 1 日	5 月 18 日 (火)		受 付	開会式	解 説	
時 刻	8:45 9:00		12:00 13:00		16:00	
第 2 日	5 月 19 日 (水)	受付	実技・演習：学習指導の考え方と工夫 (1)	昼食	実技・演習：学習指導の考え方と工夫 (2)	
第 3 日	5 月 20 日 (木)	受付	実技・演習：学習指導の考え方と工夫 (3)	昼食	実技・演習：研修講師となるために	
第 4 日	5 月 21 日 (金)	受付	研 究 協 議	閉会式		

(注) 閉会式は、各班ごとに行う。

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 (西部地区)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	体育の授業において児童生徒が自ら積極的に運動に親しみ、体力を高めるため、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた指導、体を動かす意識を持たせる学習指導等について、必要な知識を修得させ、受講者により、これらの内容を踏まえた研修等が各地域で行われるようにする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者							
開 催 期 日	平成16年 5月11日 (火) ~平成16年 5月14日 (金)			4日間				
受 講 人 数	計画人数	400	人	受講者数	341	人	参加率	85.3%
開 催 場 所	山口市民会館、やまぐちリフレッシュパーク、維新公園陸上競技場 他							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	179 71.6	69 27.6	1 0.4	1 0.4	4

2. 研修内容に関する主な意見

・教員の実技向上というより、学校体育で生かせる指導力向上という点に主眼がおかれていたように感じ、自分自身としても県に帰って、また、伝達するという点においても大変参考になった。今後とも今回のような研修をしていただくと嬉しく思います。

・授業で行う教材に対して、さらに研修を積んでいく必要性を感じた。生徒の体力向上と生徒同士の評価のバランスをいかにとっていくのか、自らが課題を見つけ、解決していく力をどうつけていくかなど、多くの課題を見つけることができました。

・いろいろな県の先生方と触れることにより、自分自身もいろいろな面で初心に戻ることができ、リフレッシュできた。4日間で教わったことをこれからの教員生活の財産としたい。メニューも良かったし、講師の先生も時間を延長して授業してもらい大変良かった。

・普段、聞いたり調べたりすることのない講義が聞け、とても参考になった。また、3日間を通して他県の先生方と情報を交換しあう等、協議することが、かけがえのない経験になった。

・今回の演習、研修講師となるために、グループごとの話し合いができて大変良かった。これからも続けて欲しい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 16 年度子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修（西部地区）

期 日 平成16年5月11日（火）～14日（金）
 会 場 山口市民会館 大ホール 他

日 程

時 刻	9:00	12:00	13:00	14:00	16:00
第1日				受付 開会式 解 説	
第2日		実技・演習：学習指導の考え方と工夫（1）	昼食	実技・演習：学習指導の考え方と工夫（2）	
第3日		実技・演習：学習指導の考え方と工夫（3）	昼食	実技・演習：研修講師となるために	
第4日		研 究 協 議	閉会式		

（注）閉会式は各班ごとに行う。

I 研修概要

研修名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (指導主事ー全国)						
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係						
研修目的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。						
受講対象	教育委員会及び教育センター等の研修担当主事						
開催期日	平成16年 6月 7日 (月) ~平成16年 6月11日 (金)				5日間		
受講人数	計画人数	50	人	受講者数	37	参加率	74.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無回答
人数 (人)	割合 (%)	10	18	0	0	8
		35.7	64.3	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・演習内容に対して時間が少なかった。
- ・4日目の中村講師の講義・演習はすばらしかった。
- ・全体的にもっと検証事例（取組とその成果がわかる事例）を示してほしい。
- ・授業の中でどのように活用していくのか、そのためにコーディネーターや教員にどのような研修を行うのか等、学校現場に関わった研修内容を多く取り入れてほしい。
- ・資料が豊富で、地域に戻って活用できるものばかりで感謝する。これからも活用性の高い資料を要望する。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修
(指導主事講座-全国ブロック) 日程表

	午 前 8:30~12:00		午 後 13:00~17:00	
第1日 6 / 7 (月)	10:30~ 受付 (特別研修棟プレゼンテーション室入口) オリエンテーション(※A) 11:00~		①【研究協議】 ITを使って指導できる能力を養成するための 教員研修の在り方	②【研究協議】 授業設計と教材作成に ついて 筑波大学附属駒場中・高 等学校教諭 市川 道和
第2日 6 / 8 (火)	③【演習】 授業設計と教材作成について 筑波大学附属駒場中・高等学校教諭 市川 道和		④【演習】 ネットワークの基礎知識とセキュリティの実際 富山大学教育学部 講師 高橋 純	
第3日 6 / 9 (水)	⑤【研究協議】 情報モラルの理解 と指導	⑥【研究協議】 著作権の正しい理解 と指導	⑦【演習】 学校における情報コーディネーターの役割 (コンサルテーションを含む) 前橋市教育委員会 指導主事 折田 一人	
第4日 6 / 10 (木)	⑧【演習】 指導主事として校内研修の支援をどうす るか 三重県教育委員会 研修主事 中村 武弘		⑨【演習】 校内研修の支援案の作成	
第5日 6 / 11 (金)	⑩【研究協議】 教育情報化の支援体制の在 り方・外部人材の活用	11:50~ 閉講式 (※A)		
	福島県教育センター 主任指導主事 渡部 昌邦			

※研修会場:A=特別研修棟プレゼンテーション室、 研究協議・演習等=特別研修棟メディアサポート室

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (特殊教育諸学校一全国)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第二係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	特殊教育諸学校の教員等							
開 催 期 日	平成17年 2月21日 (月) ~平成17年 2月25日 (金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	50	人	受講者数	50	人	参加率	100.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	38	10	1	0	0
		77.6	20.4	2.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ 大変充実した5日間であった。ここで得た知識・技術を地元に戻って紹介したい。
- ・ どの講師にも細かな準備をしてもらい、大変ありがたかった。
- ・ 各校種ごとのI T機器活用について詳しく知ることができてよかった。
- ・ 知的障害担当の講師の講義・演習が少ない。
- ・ 校内LANについては、構築手順の説明よりアドレスの設定や管理面の話をもっと聞きたかった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修
(特殊教育諸学校一全国) 独立行政法人 教員研修センター

日時	午前 9:00 10:15 10:30 12:00	午後 13:00 14:30 14:45 17:00		
第1日 2/21 (月)	10:30～ 受付 (特別研修棟プレゼンテーション室入口) レクレーション(※A) 11:00～ 開講式(※A) 11:30	★【研究協議】(※A) 本研修カリキュラムの目指すもの、特別支援 教育と情報化の意義・動向 ----- 平塚ろう学校校長 田村 順一		
第2日 2/22 (火)	【研究協議】 ネットワークの基礎知識とWebアクセ シビリティ ----- 神奈川県立総合教育センター 研修主事 中村 信雄 横浜市立盲学校教諭 松田 基章	【演習】 ネットを使った社会参加と情報モラル ----- 神奈川県立総合教育センター 研修主事 中村 信雄 横浜市立盲学校教諭 松田 基章		
第3日 2/23 (水)	【研究協議】 特別支援教育におけるアシスティブテ クノロジー概論 ----- 国立特殊教育総合研究所 主任研究官 大杉 成喜 都立葛飾ろう学校教諭 伊藤 守 鶴見養護学校教諭 福田 裕志 横浜市立盲学校教諭 松田 基章	【演習】 特別支援教育におけるアシスティブテクノロジ ー概論 ----- 国立特殊教育総合研究所 主任研究官 大杉 成喜 都立葛飾ろう学校教諭 伊藤 守 鶴見養護学校教諭 福田 裕志 横浜市立盲学校教諭 松田 基章 都立光明養護学校教諭 金森 克浩		
第4日 2/24 (木)	【研究協議】 アシスティブ・テ クノロジー・コン シダレーションに ついて ----- 国立特殊教育総合研究所 主任研究官 大杉 成喜 都立光明養護教諭 金森 克浩 鶴見養護学校教諭 福田 裕志	【研究協議】 特別支援学校とし ての情報提供機能 及び地域支援の進 め方について ----- 国立特殊教育総合研究所 主任研究官 大杉 成喜 都立光明養護教諭 金森 克浩 鶴見養護学校教諭 福田 裕志	【演習】 専門性を生かした 地域支援案の作成 ----- 国立特殊教育総合研究所 主任研究官 大杉 成喜 都立光明養護教諭 金森 克浩 鶴見養護学校教諭 福田 裕志	【演習】 地域支援案の発表 (グループ)
第5日 2/25 (金)	【研究協議】 コンサルテーション 地域支援、研修、相談体制の各自治体へ の提案作成。発表(グループ) これからの特別支援教育について(講義 とまとめ) ----- 文科省特別支援教育課 特殊教育調査官 島 治伸	12:10 閉講式		

※研修会場：A＝特別研修棟プレゼンテーション室、 研究協議・演習等＝特別研修棟メディアサポート室
★印は衛星配信をする研修(研修室：プレゼンテーション室)

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (小学校一北海道・東北)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第二係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	小学校の教員等							
開 催 期 日	平成16年 7月12日 (月) ~平成16年 7月16日 (金)				5 日間			
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	22	人	参加率	55.0%
開 催 場 所	北海道立教育研究所							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	9	11	1	0	1
		42.9	52.4	4.8	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・各受講者の発表を聞くのは大変勉強になるが、もう少し発表・交流の時間を抑えて、実技指導や効率性アップの方法を教えてほしい。 ・各講師に親切丁寧に教えていただいた。少し時間不足になるのが残念でした。 ・ゆとりを持って進めてほしい。詰め込みはよくない。思考や作業の時間が短く大変だった。 ・3日目の講師の研修内容、形式、様式全体が濃すぎて、時間的にも消化しきれなかった。もう少し絞った中身だとわかりやすい。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

日 程

小学校－北海道・東北ブロック

日 時	午 前				午 後				
	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	～ 17:00
7/12 (月)	9:00 受付 9:30 朝エンターション 10:00 開講式	①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方				②【演習】 学習指導案作成，教材作成等		※ 研究協議①	
	奈良教育大学 助教授 伊藤 剛和				つくば市教育委員会 指導主事 毛利 靖				
7/13 (火)	③【研究協議】 情報活用能力を育成するための授業の進め方	④【研究協議】 各教科のITの活用による教育効果	⑤【演習】 各教科に共通なIT活用方法	⑥【演習】 各教科における効果的なIT活用法	※ 研究協議②				
	つくば市教育委員会 指導主事 毛利 靖		つくば市教育委員会 指導主事 毛利 靖						
7/14 (水)	⑦【演習】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法	⑧【演習】 ITを活用した授業実践事例について	⑨【演習】 各教科におけるITを活用したモデル授業	⑩【演習】 模擬授業・受講生による相互評価等について	※ 研究協議③				
	筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭 市川 道和								
7/15 (木)	⑪【研究協議】 情報モラルの適切な指導	⑫【演習】 学校における著作物利用の正しい理解，児童生徒への普及	⑬【演習】 有害サイト，セキュリティ等に関する指導法	⑭【演習】 情報モラルに関する指導案発表等	※ 研究協議④				
	金城学院大学 助教授 長谷川 元洋								
7/16 (金)	⑮【演習】 校内研修案の作成について	⑯【研究協議】 研修講師となるための知識・技術	12:20 閉講式						
	目白大学 教授 原 克彦								

※研究協議①～④においては、各学校におけるITの活用状況に関する資料（既存のもので可）を、受講者が1部持参して人数分コピーし、研究協議を行なうこととする。

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (小学校一関東・甲)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第二係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	小学校の教員等							
開 催 期 日	平成16年11月15日（月）～平成16年11月19日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	50	人	受講者数	40	人	参加率	80.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	22	14	1	0	0
		59.5	37.8	2.7	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究協議については、時間をもう少しかけるか、内容の精選をしてほしい。 ・ 演習の際はグループの人数を考慮してほしい。1人ずつ発表では時間がもったいない。 ・ 演習中心も良いが、講師の理論や実践例なども少し聞きたかった。 ・ 参加された先生方の実践や授業の構想・アイデアが良かった。お互いの交流を通して学び会える時間がもっとほしい。 ・ 日頃の学校や社会に潜むセキュリティについての貴重な話を聞いてとても勉強になった。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修日程表
【小学校ー関東・甲ブロック】独立行政法人教員研修センター

日 時	午 前				午 後			
	8:30	10:15	10:25	12:00	13:00	14:30	14:40	17:00
第1日 11/15 (月)	10:30～ 受付 (特別研修棟プレゼンテーション室入口) 朝エンターション(※A) 11:00～ 開講式(※A) 11:30～				①【研究協議】 各教科でITを使って指導 できる能力を育成するた めの教員研修の在り方		②【演習】 学習指導案作成, 教材作成 等	
上越教育大学 教授 南部 昌敏								
第2日 11/16 (火)	★③【研究協議】 情報活用能力を育成 するための授業の進 め方 (※A)		④【研究協議】 各教科のITの活用による 教育効果		⑤【演習】 各教科に共通なIT活用方 法		⑥【演習】 各教科における効果的なIT 活用法	
つくば市教育委員会 指導主事 毛利 靖								
第3日 11/17 (水)	⑦【研究協議】 情報モラルの適切な 指導		⑧【演習】 学校における著作物利用 の正しい理解, 児童生徒 への普及		⑨【演習】 有害サイト, セキュリテ ィ等に関する指導法		⑩【演習】 情報モラルに関する指導案 発表等	
金城学院大学 助教授 長谷川 元洋								
第4日 11/18 (木)	⑪【研究協議】 各教科におけるITを 活用した授業設計・ 評価方法		⑫【演習】 ITを活用した授業実践事 例について		⑬【演習】 各教科におけるITを活用 したモデル授業		⑭【演習】 模擬授業・受講生による相 互評価等について	
筑波大学附属駒場中・高等学校 教諭 市川 道和								
第5日 11/19 (金)	⑮【演習】 校内研修案の 作成について		⑯【研究協議】 研修講師となるた めの知識・技術		11:50～ 閉講式 (※A)			
江東区立第三砂町小学校 教諭 田中 克昌								

※研修会場：A＝特別研修棟プレゼンテーション室，研究協議・演習等＝特別研修棟メディアサポート室
★印は衛星配信をする研修（研修室；プレゼンテーション室）

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (小学校一北陸・信越)					
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第二係					
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。					
受 講 対 象	小学校の教員等					
開 催 期 日	平成16年12月 6日 (月) ～平成16年12月10日 (金)			5 日間		
受 講 人 数	計画人数	40 人	受講者数	36 人	参加率	90.0%
開 催 場 所	富山県総合教育センター (富山市)					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	25 83.3	5 16.7	0 0.0	0 0.0	5

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習は短い時間で授業案を立てるのは少し無理があったが、たくさんの事例を持ち帰ることができ、活用できるものが多かった。 ・それぞれの講師の連携が取れていてすばらしかった。 ・今の子どもにとって必要な有害サイトなどの問題について詳しく教えていただき、大変参考になった。 ・5日間を通して研修の内容や方法に一貫性があった大変深まりのある研修となった。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修日程

平成16年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修

小学校ー北陸・信越ブロック

日 時	午 前		午 後				
	9:00	10:25	10:35	12:00	13:00	14:45	15:00 (途中休憩10分) 17:00
12/ 6 (月)	9:00 受付 9:30 利エンテーション 10:00 開講式	①【研究協議】ー中・高等学校と合同ー 各教科でITを使って指導できる能力を育成 するための教員研修の在り方			②【演習】 学習指導案作成、教材作成等		
		富山大学 教授 山西 潤一			富山大学 講師 高橋 純		
12/ 7 (火)	③【研究協議】 情報活用能力を育成 するための授業の進 め方	④【研究協議】 各教科のITの活用 による教育効果	⑤【演習】 各教科に共通なIT 活用方法	⑥【演習】 各教科における効果的なIT 活用方法			
	金沢大学 講師 加藤 隆弘						
12/ 8 (水)	①【研究協議】 各教科におけるIT を活用した授業設計 ・評価方法	⑧【研究協議】 ITを活用した授業 実践事例について	⑨【演習】 各教科におけるIT を活用したモデル授 業	⑩【演習】 模擬授業・受講生による相互 評価等について			
	三重県教育委員会 指導主事 中村 武弘						
12/ 9 (木)	⑪【研究協議】 情報モラルの適切な 指導	⑫【研究協議】 学校における著作物 利用の正しい理解、 児童生徒への普及	⑬【演習】 有害サイト、セキュ リティ等に関する指 導法	⑭【演習】 情報モラルに関する指導案発 表等			
	池田小学校教諭 (鳴門教育大学大学院) 中川 斉史						
12/10 (金)	⑮【研究協議】 校内研修案の作成に ついて	⑯【研究協議】 研修講師となるため の知識・技術	12:05 閉講式				
	富山大学 助教授 黒田 卓						

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (小学校一東海・近畿)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第二係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	小学校の教員等							
開 催 期 日	平成16年10月18日（月）～平成16年10月22日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	32	人	参加率	80.0%
開 催 場 所	奈良県立教育研究所							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	12	16	1	0	3
		41.4	55.2	3.4	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習の時間が多くあったが、各グループの協議、発表資料作成のための時間にゆとりが欲しかった。 ・ワークショップという活動時間が多く取り入れられたが、他の受講者との交流を含めた活動時間としては、時間が不足気味だった。 ・もっと先端技術や先進事例などが学べると思っていたが、教わったことはとても勉強になった。 ・指導案作成はひとつに絞って、受講者の指導案の数を増やしたほうが良い。 ・講師の先生の経験をもっと多く聞きたかった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修日程

平成16年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修
(小学校－東海・近畿ブロック)

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	17:00
10/18 (月)	9:00 受付 9:30 朝インテーク 10:00 開講式	①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方				②【演習】 学習指導案作成, 教材作成等		
	奈良教育大学 助教授 伊藤 剛和							
10/19 (火)	③【演習】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法	④【演習】 ITを活用した授業実践事例について	⑤【演習】 各教科におけるITを活用したモデル授業	⑥【演習】 模擬授業・受講生による相互評価等について				
	金城学院大学 助教授 長谷川 元洋							
10/20 (水)	⑦【研究協議】 情報活用能力を育成するための授業の進め方	⑧【研究協議】 各教科のITの活用による教育効果	⑨【演習】 各教科に共通なIT活用方法	⑩【演習】 各教科における効果的なIT活用方法				
	三重県教育委員会 指導主事 中村 武弘							
10/21 (木)	⑪【研究協議】 情報モラルの適切な指導	⑫【演習】 学校における著作物利用の正しい理解, 児童生徒への普及	⑬【演習】 有害サイト, セキュリティ等に関する指導法	⑭【演習】 情報モラルに関する指導案発表等				
	奈良教育大学 助教授 伊藤 剛和							
10/22 (金)	⑮【演習】 校内研修案の作成について	⑯【研究協議】 研修講師となるための知識・技術	12:20 閉講式					
	台東区立浅草中学校 教諭 前田 光男							

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (小学校ー中国・四国)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第二係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	小学校の教員等							
開 催 期 日	平成16年 8月 9日 (月) ~平成16年 8月13日 (金)			5日間				
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	49	人	参加率	122.5%
開 催 場 所	広島情報専門学校							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	26	19	0	0	4
		57.8	42.2	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 短期間だったが、要点がわかりやすかった。特に、演習という形で自分のものになり良かった。 ・ 理論面で情報教育の可能性・必要性を学ぶことができ、大変良い機会となった。 ・ 各研修とも設定された時間より、研修内容が多かったため、じっくり考えたりすることができなかった。内容を吟味した方がよい。 ・ 演習の時間が短い。指導案作成やプレゼン作成の時間をもう少し確保していただかないと、アイデアがまとまらない発表になってしまう。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 日程表
【小学校－中国・四国ブロック】

日 時	午 前				午 後				
	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:45	15:00 (途中休憩10分)	17:00	
8/9 (月)	9:00 受付 9:30 朝エンターション 10:00 開講式	①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成 するための教員研修の在り方				②【演習】 学習指導案作成, 教材作成等			
	奈良教育大学 助教授 伊藤 剛和								
8/10 (火)	③【研究協議】 情報活用能力を育成 するための授業の進 め方	④【研究協議】 各教科のITの活用 による教育効果	⑤【演習】 各教科に共通なIT 活用方法		⑥【演習】 各教科における効果的なIT活用法				
	岡山市教育委員会 課長補佐 青木 将								
8/11 (水)	⑦【研究協議】 各教科におけるIT を活用した授業設計 ・評価方法	⑧【研究協議】 ITを活用した授業 実践事例について	⑨【演習】 各教科におけるIT を活用したモデル授 業		⑩【演習】 模擬授業・受講生による相互評価等 について				
	筑波大学附属駒場中・高等学校 教諭 市川 道和								
8/12 (木)	⑪【研究協議】 情報モラルの適切な 指導	⑫【研究協議】 学校における著作物 利用の正しい理解, 児童生徒への普及	⑬【演習】 有害サイト, セキュ リティ等に関する指 導法		⑭【演習】 情報モラルに関する指導案発表等				
	金城学院大学 助教授 長谷川 元洋								
8/13 (金)	⑮【研究協議】 校内研修案の作成に ついて	⑯【研究協議】 研修講師となるため の知識・技術	12:20 閉講式						
	台東区立浅草中学校 教諭 前田 光男								

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (小学校一九州・沖縄)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第二係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	小学校の教員等							
開 催 期 日	平成16年 7月26日 (月) ~平成16年 7月30日 (金)				5 日間			
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	39	人	参加率	97.5%
開 催 場 所	クレオパーク鍋島							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	24	11	0	0	4
		68.6	31.4	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 有意義な5日間になった。 ・ 学校外(企業)の視点で学校の情報教育はどうかということについて聞ければと思った。 ・ 当初は講義が多かったように思う。授業づくりから演習を多くすると充実したと思う。 ・ セキュリティシステムについては、専門的用語が多く難しい内容でした。 ・ 実践例を紹介しながらの講義はとてもわかりやすく、これからは是非使って活かしていきたいと感じました。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修日程（実施計画書）

平成16年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修
 （小学校－九州・沖縄ブロック）

時刻	午前			午後	
	8:50	10:20	12:00	13:00	17:10
第1日 7/26 (月)	9:00 受付 10:00 開講式 オリエンテーション	「研究協議」 ・各教科でITを使って指導 できる能力を育成するた めの教員研修の在り方 ・情報活用能力を育成する ための授業の進め方		「演習」 各教科における効果的なIT活用方法	
講師名	文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 上野 耕史		文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 上野 耕史	富士通株式会社 教育文化ソリューション部 課長 中沢 研也 株式会社 内田洋行 九州支社 第2営業部ICT課 山部 光範	
第2日 7/27 (火)	「演習」 有害サイト、セキュリティ等に関する 指導法 ・学校セキュリティ	「研究協議」 ・ウィルス被害と対策	「演習」 学校における著 作物利用の正し い理解、児童生 徒への普及	「研究協議」 情報モラ ルの適切 な指導	「演習」 情報モ ラルに 関する 指導案 の発表 等
講師名	フタバテレコム株式会社 営業二課 課長 大澤 光秋	トレントマイク株式会社 ビジネスパートナー営業課 村井 太郎	鹿児島県松山町 教育委員会 指導 主事 辻 慎一郎	佐賀県佐賀市立 本庄小学校教諭 江口 浩文	
第3日 7/28 (水)	「研究協議」 学習指導案 作成、教材 作成等	「研究協議」 各教科にお けるITを 活用した授 業設計 ・評価方法	「演習」 各教科に共通なIT活用方法		「演習」 模擬授業・ 受講生によ る相互評価 について
講師名	岡山県教育庁指導課 参事 平松 茂		株式会社学映システム インストラクター 山崎 由美子・山之内 清香		
第4日 7/29 (木)	「演習」 ITを活用した授 業実践事例につ いて	「演習」 各教科におけるITを 活用したモデル授業	「演習」 校内研修案の作成について		
講師名	大分県日出町立 日出小学校 教諭 笠置 隆宜	佐賀県川副町立 南川副小学校 教諭 江頭 則男	岡山市教育委員会教育企画総務課 課長補佐 青木 将		
第5日 7/30 (金)	「研究協議」 研修講師となるための知識・技術			12:00 閉講式	
講師名	岡山市教育委員会教育企画総務課 課長補佐 青木 将				

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (中学校、高等学校、中等教育学校－北海道・東北)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第二係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	中学校、高等学校、中等教育学校の教員等							
開 催 期 日	平成16年 7月 5日 (月) ～平成16年 7月 9日 (金)			5日間				
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	30	人	参加率	75.0%
開 催 場 所	北海道立教育研究所							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	12 46.2	13 50.0	1 3.8	0 0.0	4

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習の時間が多く、もう少し講義を多くしてほしい。新たな疑問が出てきたが、解釈されないままになってしまった。 ・ プレゼンテーションを活用し、実践事例などを示して内容をわかりやすく指導していただいた。 ・ 豊富な資料は、伝講や研修会等で使える実践的なものばかりだった。 ・ PCの操作を伴う場面はゆっくり進めてほしい。 ・ 5日目の講師の課題提示が不十分で、何をすればよいか非常にわかりずらかった。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

日 程

中学校，高等学校，中等教育学校－北海道・東北ブロック

日 時	午 前		午 後						
	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	～ 17:00
7 / 5 (月)	9:00 受付 9:30 リンク 10:00 開講式		①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方			②【演習】 学習指導案作成，教材作成等		※ 研究協議①	
			上越教育大学 教授 南部 昌敏			岡山市教育委員会 課長補佐 青木 将			
7 / 6 (火)	③【研究協議】 情報活用能力を育成するための授業の進め方		④【研究協議】 各教科のITの活用による教育効果		⑤【演習】 各教科に共通なIT活用方法		⑥【演習】 各教科における効果的なIT活用法		※ 研究協議②
	岡山市教育委員会 課長補佐 青木 将								
7 / 7 (水)	⑦【演習】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法		⑧【演習】 ITを活用した授業実践事例について		⑨【演習】 各教科におけるITを活用したモデル授業		⑩【演習】 模擬授業・受講生による相互評価等について		※ 研究協議③
	筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭 市川 道和								
7 / 8 (木)	⑪【研究協議】 情報モラルの適切な指導		⑫【演習】 学校における著作物利用の正しい理解，児童生徒への普及		⑬【演習】 有害サイト，セキュリティ等に関する指導法		⑭【演習】 情報モラルに関する指導案発表等		※ 研究協議④
	鹿児島県松山町教育委員会 指導主事 辻 慎一郎								
7 / 9 (金)	⑮【演習】 校内研修案の作成について		⑯【研究協議】 研修講師となるための知識・技術		12:20 閉講式				
	東京都台東区立忍岡中学校 教 諭 前田 光男								

※研究協議①～④においては、各学校におけるITの活用状況に関する資料（既存のもので可）を、受講者が1部持参して人数分コピーし、研究協議を行なうこととする。

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (中学校、高等学校、中等教育学校-関東・甲1)					
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第二係					
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。					
受 講 対 象	中学校、高等学校、中等教育学校の教員等					
開 催 期 日	平成16年 5月24日 (月) ~平成16年 5月28日 (金)			5 日間		
受 講 人 数	計画人数	50 人	受講者数	21 人	参加率	42.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	14 66.7	7 33.3	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

・各講師の熱心な講義・演習は、とっても勉強になった。
 ・グループに分かれて検討したのは良かったが、材料となる授業案や研修計画を作成する時間や討議の時間、発表や評価の時間が足りなく残念だった。話し合いの時間をしっかりと確保してほしい。
 ・多くの実践例やアイデアがあり、とても充実した5日間だった。
 ・情報教育の題材として「携帯電話」に関わるものについて加えてほしい。
 ・デジタル情報（すぐ使える資料）をいただけただので、とても参加した価値が高かった。今後も続けてほしい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修
 (中学校・高等学校・中等教育学校-関東・甲ブロック(つくば市開催)) 日程表

日時	9:00	12:00	13:00	17:00
5 / 24 (月)	10:30～受付 (特別研修棟プレゼンテーション室入口) 11:00～リエンション(※A) 11:30～開講式(※A)		①【研究協議】 各教科でITを使って 指導できる能力を育成する ための教員研修のあり方 (教科別グループ編成)	②【演習】 学習指導案作成, 教材作成等 (教科別グループ編成)
上越教育大学 教授 南部 昌敏				
5 / 25 (火)	③【演習】 情報活用能力を育成 するための授業の進め方	④【研究協議】 各教科のITの活用 による教育効果	⑤【演習】 各教科に共通なIT 活用方法 (教科別グループ編成)	⑥【演習】 各教科における効 果的なIT活用方法 (教科別グループ編成)
つくば市教育委員会 指導主事 毛利 靖				
5 / 26 (水)	⑦【演習】 各教科におけるIT を活用した授業設計 ・評価方法 (教科別グループ編成)	⑧【演習】 ITを活用した授業 実践事例について (教科別グループ編成)	⑨【演習】 各教科におけるITを 活用したモデル授業	⑩【演習】 模擬授業・受講生 による相互評価について
筑波大学附属駒場中・高等学校 教諭 市川 道和				
5 / 27 (木)	⑪【研究協議】 情報モラルの適切な 指導について	⑫【演習】 学校における著作権 利用の正しい理解, 児童生徒への普及 (グループ編成)	⑬【演習】 有害サイト, セキュ リティ等に関する 指導方法 (グループ編成)	⑭【演習】 情報モラルに関する 指導案の発表等
コンピュータソフトウェア著作権協会 事務局次長 三橋 信司				
5 / 28 (金)	⑮【演習】 校内研修案の作成 について (教科別グループ編成)	【研究協議】 研修講師となるた めの知識・技術	11:50～12:00 閉講式 ※A	
江東区立第三砂町小学校 教諭 田中 克昌				

※研修会場：A=特別研修棟 プレゼンテーション室, 研究協議, 演習等=特別研修棟 メディアサポート室

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (中学校、高等学校、中等教育学校－関東・甲2)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第二係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	中学校、高等学校、中等教育学校の教員等							
開 催 期 日	平成16年10月18日（月）～平成16年10月22日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	31	人	参加率	77.5%
開 催 場 所	埼玉県立総合教育センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	17 54.8	13 41.9	1 3.2	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し討論したり考えたり作業したりする時間があるとよかった。 ・学習指導案や教材作成は、あらかじめ作成してきたものを検討するような形式にしてはどうか。 ・有害サイト等、インターネットの影の部分が一番心配しているところであるが、その対応についてもっと知りたく思った。 ・講義の中には早口で内容が盛りだくさんすぎるものがあった。 ・パワーポイントで説明する場合、画面を使った配布資料が欲しい。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修日程

平成16年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修
(中学校, 高等学校, 中等教育学校-関東・甲ブロック)

日 時	午 前		午 後					
	8:45	10:15	10:30	12:00	13:00	15:00	15:15	17:15
第1日 10/18 (月)	9:30 受付 10:00 朝エンターション 開講式	①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方	①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方	②【演習】 学習指導案作成, 教材作成等	星槎大学教授 古藤 泰弘	(株) 富士通総研 マネージングコンサルタント 中村 雅展	埼玉県立八潮南高等学校 教頭 山田 典男	
第2日 10/19 (火)	③【研究協議】 情報活用能力を育成するための授業の進め方	④【演習】 各教科のITの活用による教育効果	⑤【演習】 各教科に共通なIT活用方法	⑥【演習】 各教科における効果的なIT活用方法	埼玉県立総合教育センター 指導主事 小暮優治 (株) 富士通総研マネージング コンサルタント 中村雅展	(株) 富士通総研マネージング コンサルタント 中村雅展 (株) 富士通総研アシスタント コンサルタント 豊田 充	(株) 富士通ワイズ機器 (株) インストラクター 松葉治美 (株) 富士通総研マネージング コンサルタント 中村雅展	
第3日 10/20 (水)	⑦【演習】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法	⑧【研究協議】 ITを活用した授業実践事例について	⑨【演習】 各教科におけるITを活用したモデル授業	⑩【演習】 模擬授業・受講生による相互評価等について	埼玉県立大宮武蔵野高等学校 校長 矢部 秀一	妻沼市立妻沼東中学校 教頭 清水 勉	埼玉県立浦和工業高等学校 教諭 堀口 真史 深谷市立深谷中学校 教諭 結城 容	
第4日 10/21 (木)	⑪【演習】 情報モラルの適切な指導	⑫【演習】 学校における著作物利用の正しい理解, 児童生徒への普及	⑬【演習】 有害サイト, セキュリティ等に関する指導法	⑭【演習】 情報モラルに関する指導案発表等	富士通ワイズ機器 (株) インストラクター 松葉 治美 大野 美樹	富士通 (株) 共通技術本部 知的財産部主任 小堀 恵 (株) 富士通総研マネージング コンサルタント 中村雅展	(株) 富士通総研 マネージングコンサルタント 中村 雅展 アシスタントコンサルタント 豊田 充	
第5日 10/22 (金)	⑮【演習】 校内研修案の作成について	⑯【研究協議】 研修講師となるための知識・技術	12:10 閉講式		埼玉県立総合教育センター 指導主事 小暮優治 (株) 富士通総研マネージング コンサルタント 中村雅展	(株) 富士通総研 マネージングコンサルタント 中村 雅展		

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (中学校、高等学校、中等教育学校－北陸・信越)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第二係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	中学校、高等学校、中等教育学校の教員等							
開 催 期 日	平成16年12月 6日 (月) ～平成16年12月10日 (金)			5 日間				
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	38	人	参加率	95.0%
開 催 場 所	富山県総合教育センター (富山市)							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	13 38.2	20 58.8	1 2.9	0 0.0	4

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・多くの有用な情報を提供していただいたので、今後の授業や研修のヒントも多く得ることができた。とても有意義であった。 ・講義だけでなく演習が多く、勉強になった。 ・講師間の指導内容に関する連携が取れていると更に良いと思う。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修日程

平成16年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修
 中・高・中等学校－北陸・信越ブロック

日 時	午 前		午 後				
	9:00	10:25	10:35	12:00	13:00	14:45	15:00 (途中休憩10分) 17:00
12/ 6 (月)	9:00 受付 9:30 リエンション 10:00 開講式	①【研究協議】－小学校と合同－ 各教科でITを使って指導できる能力を育成 するための教員研修の在り方			②【演習】 学習指導案作成、教材作成等		
		富山大学 教授 山西 潤一			富山大学 助教授 小川 亮		
12/ 7 (火)	③【研究協議】 情報活用能力を育成 するための授業の進 め方	④【研究協議】 各教科のITの活用 による教育効果	⑤【演習】 各教科に共通なIT 活用方法	⑥【演習】 各教科における効果的なIT 活用方法			
	上越教育大学 助教授 井上 久祥						
12/ 8 (水)	⑦【研究協議】 各教科におけるIT を活用した授業設計 ・評価方法	⑧【研究協議】 ITを活用した授業 実践事例について	⑨【演習】 各教科におけるIT を活用したモデル授 業	⑩【演習】 模擬授業・受講生による相互 評価等について			
	慶應義塾湘南藤沢中・高等部 教諭 田邊 則彦						
12/ 9 (木)	⑪【研究協議】 情報モラルの適切な 指導	⑫【研究協議】 学校における著作物 利用の正しい理解、 児童生徒への普及	⑬【演習】 有害サイト、セキュ リティ等に関する指 導法	⑭【演習】 情報モラルに関する指導案発 表等			
	金城学院大学 助教授 長谷川 元洋						
12/10 (金)	⑮【研究協議】 校内研修案の作成に ついて	⑯【研究協議】 研修講師となるた めの知識・技術	12:05 閉講式				
	富山大学 助教授 小川 亮						

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (中学校、高等学校、中等教育学校－東海・近畿1)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第二係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	中学校、高等学校、中等教育学校の教員等							
開 催 期 日	平成16年 9月 6日 (月)～平成16年 9月10日 (金)			5日間				
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	23	人	参加率	57.5%
開 催 場 所	名古屋情報メディア専門学校							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	8 40.0	12 60.0	0 0.0	0 0.0	3

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・どの講師にも資料等を提供していただき、今後の校内研修を含め有意義な内容であった。 ・知識の伝達以上に、情報の提供や学校現場ですぐに使えるものにより多くの時間を費やすようにしていただきたい。 ・授業の実践例だけでなく、実際に模擬授業を行っていただけると良かった。 ・ワークショップ等の時間がもう少し多いと良いと思う。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修日程

平成16年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修
 (東海・近畿一中学校・高等学校・中等教育学校)：名古屋情報経理専門学校

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	17:00
9/6 (月)	9:00 受付 9:30 リンク 10:00 開講式	①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方				②【演習】 学習指導案作成, 教材作成等		
			岐阜大学 助教授 加藤 直樹			三重県教育委員会 指導主事 中村 武弘		
9/7 (火)	③【研究協議】 情報活用能力を育成するための授業の進め方	④【研究協議】 各教科のITの活用による教育効果	⑤【演習】 各教科に共通なIT活用方法		⑥【演習】 各教科における効果的なIT活用方法			
	三重県教育委員会 指導主事 中村 武弘							
9/8 (水)	⑦【研究協議】 情報モラルの適切な指導	⑧【演習】 学校における著作物利用の正しい理解, 児童生徒への普及	⑨【演習】 有害サイト, セキュリティ等に関する指導法		⑩【演習】 情報モラルに関する指導案発表等			
	金城学院大学 助教授 長谷川 元洋							
9/9 (木)	⑪【演習】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法	⑫【演習】 ITを活用した授業実践事例について	⑬【演習】 各教科におけるITを活用したモデル授業		⑭【演習】 模擬授業・受講生による相互評価等について			
	筑波大学附属駒場中・高等学校 教諭 市川 道和							
9/10 (金)	⑮【演習】 校内研修案の作成について	⑯【研究協議】 研修講師となるための知識・技術	12:20 閉講式					
	台東区立浅草中学校 教諭 前田 光男							

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (中学校、高等学校、中等教育学校－東海・近畿2)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第二係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	中学校、高等学校、中等教育学校の教員等							
開 催 期 日	平成16年 8月30日 (月)～平成16年 9月 3日 (金)			5日間				
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	37	人	参加率	92.5%
開 催 場 所	兵庫県立教育研修所							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	28 75.7	9 24.3	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 県下の小・中・高の教職員による実践報告が大変有意義であったため、今後も期待したい。 ・ 各種機器やソフトウェアに実際に触れることができる内容はよかった。 ・ 「校内研修案の作成について」は、ロボットの利用、タブレットPCの説明等は十分されていたが、研修内容について十分でなかった。 ・ 内容が盛りだくさんで、最新の情報に触れることができよかった。 ・ 取り扱う内容が少し多く感じたので、もう少し精選してほしい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修日程

平成16年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修
(中学校, 高等学校, 中等教育学校-東海・近畿ブロック)

時刻	午前		午後					
	9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	14:50	15:00	17:00
第1日 8/30 (月)	10:30 受付 (場所: 研修棟) 11:00 オリエンテーション		11:30 開講式		12:50 14:20 ①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方	14:30 17:00 ②【研究協議・演習】 各教科に共通なIT活用教育用機器・ソフトウェアの活用		
講師名					園田学園女子大学 助教授 垣東 弘一	パナソニックSSマーケティング(株)SE事業部 関西チーム 宮本 和典 兵庫県立教育研修所指導主事 5名		
第2日 8/31 (火)	③【演習】 情報活用能力を養成するための授業の進め方 (事例発表) 兵庫県立西宮高等学校 教諭 石川照子(地歴) 兵庫県立東播工業高等学校 教諭 森本雄一(理科) 小野市立大部小学校 教諭 下山裕子(体育)		④【演習】 各教科における効果的なIT活用方法・学習指導案作成, 教材作成等 -既存の教育用コンテンツの活用及び指導教材の開発-			⑤【演習】 各教科のIT活用による教育効果		
講師名			兵庫県立有馬高等学校 教諭 田中 一範(地歴, 社会) 兵庫県立加古川西高等学校 教諭 石井 広之(理科) 兵庫県立三木北高等学校 教諭 赤坂 誠亮(数学) 兵庫県立阪神養護学校 教諭 仲野 好子(家庭科) 宝塚市立高司中学校 教諭 伴 康史(技術科) 明石市立野々池中学校 教諭 奥内 正浩(英語) 兵庫県立教育研修所指導主事 6名					
第3日 9/1 (水)	⑥【研究協議】 情報モラルの適切な指導		⑦【演習】 学校における著作物の利用の正しい理解, 生徒への普及	⑧【演習】 有害サイト, 情報セキュリティ対策に関する指導法	⑨【演習】 個人情報の取扱いとプライバシー保護に関する理解と指導	⑩【演習】 情報モラルに関する指導案発表等		
講師名	近畿大学		講師 光井 将宇			兵庫県立教育研修所 指導主事2名		
第4日 9/2 (木)	⑪【研究協議】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法 (高等学校) -学習環境の構築基礎-		⑫【演習】 ITを活用した授業実践事例について 各教科におけるITを活用したモデル授業 (高等学校) -学習環境の構築の実際- ・サーバシステムによる学習環境 ・ネットワークの接続等			⑬【演習】 模擬授業・受講生による相互評価等について (高等学校) -学習環境の評価-		
講師名	富士通(株)文教ソリューション事業部プロジェクトリーダー 福井 富士子, 森本 浩光 指導主事1名 (中学校) -eラーニングの概要と研修や授業への活用-		(中学校) -eラーニングシステムを活用した授業展開- ・eラーニング運用の実際 ・研修・学習用コースの設計及び作成			(中学校) -eラーニングによる研修サポートと評価-		
講師名	(株)富士通インフォソフトテクノロジー eラーニング統括部長 津田 一生		兵庫県立教育研修所 指導主事1名					
第5日 9/3 (金)	⑭【研究協議】 校内研修案の作成について, 研修講師となるための知識・技術, 校内研修案の作成		12:10 閉講式					
講師名	(株)富士通大分ソフトウェア ラボラトリー 取締役 遠藤 彰一							

I 研修概要

研修名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (中学校、高等学校、中等教育学校－中国・四国)							
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係							
研修目的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受講対象	中学校、高等学校、中等教育学校の教員等							
開催期日	平成17年 2月21日（月）～平成17年 2月25日（金）				5日間			
受講人数	計画人数	40	人	受講者数	54	人	参加率	135.0%
開催場所	徳島県立総合教育センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無回答
人数(人)	割合(%)	14 29.8	30 63.8	3 6.4	0 0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・使用するソフト（HPなど）は、中高生が一般的に使用しているもののほうがよい。 ・指導主事の講師の講義がもっと多いと良かった。 ・大学の講師の講義は専門的で分かりにくかった。 ・「校内研修案の作成」は中盤でなく後半にに入れるべきである。 ・内容が多すぎるので、もう少しテーマを絞るべきである。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修日程

平成16年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修
 (中学校、高等学校、中等教育学校—中国・四国ブロック)

時刻	午前				午後			
	9:45	11:00	11:15	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
第1日 2/21 (月)	10:30 受付 11:00 オリエンテーション 11:30 開講式				①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方		②【演習】 学習指導案作成、教材作成等	
講師名					鳴門教育大学教授 梅澤 実			
第2日 2/22 (火)	③【研究協議】 情報活用能力を育成するための授業の進め方		④【研究協議】 各教科のITの活用による教育効果		⑤【演習】 ネットワークを利用した授業サポートプログラムの作成		⑥【演習】 プレゼンテーションソフトの活用	
講師名	徳島大学助手		松浦 健二		文理大学助教授 清澄 良策		文理大学助教授 篠原 靖典	
第3日 2/23 (水)	⑦【演習】 校内研修案の作成について		⑧【研究協議】 校内研修案の発表と相互評価		⑨【演習】 デジタル機器を用いた教材開発			
講師名	四国大学助教授 奥村 英樹				四国大学講師 武市 泰彦			
第4日 2/24 (木)	⑩【研究協議】 情報モラルの適切な指導		⑪【演習】 学校における著作物利用の正しい理解、児童生徒への普及		⑫【演習】 有害サイト、セキュリティー等に関する指導法		⑬【演習】 情報モラルに関する指導案発表等	
講師名	徳島県立総合教育センター 指導主事 大平 和哉				徳島県立総合教育センター 指導主事 香川 朗			
第5日 2/25 (金)	⑭【研究協議】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法		⑮【研究協議】 研修講師となるための知識・技能		11:50~12:00 閉講式			
講師名	岐阜大学総合情報メディアセンター 助教授 益子 典文		徳島県立総合教育センター 指導主事 香川 朗					

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (中学校, 高等学校, 中等教育学校-九州・沖縄)							
担 当 課 係	研修事業第一課 長期研修第二係							
研 修 目 的	<p>現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。</p>							
受 講 対 象	中学校、高等学校、中等教育学校の教員等							
開 催 期 日	平成16年 8月16日 (月) ~平成16年 8月20日 (金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	57	人	参加率	142.5%
開 催 場 所	熊本県立熊本工業高等学校							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	39 68.4	18 31.6	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門分野の講師が熱意を持って講話・指導していたので勉強になった。リンク集や教材サイトなど実際に活用したい。 ・ 演習に対して適切なアドバイス等をもらったので、学校現場に持ち帰って生徒や職員に向けて実践したい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修日程表

(中学校, 高等学校, 中等教育学校—九州・沖縄ブロック)

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:30	10:45	12:10	13:10	14:40	14:55	16:30
第1日 8/16 (月)			12:30 受付 13:00 オリエンテーション 13:30 開講式		14:00 ①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方	14:30	14:45 ②【研究協議】 学習指導案作成, 教材作成等	17:15
講 師					教育情報化コーディネータ NTTソリューション営業部 課長 佐藤真二		熊本大学助教授 田口 浩継	
第2日 8/17 (火)	③【研究協議・演習】 情報活用能力を育成するための授業の進め方(学校における情報教育推進プランの作成)		④【演習】 各教科のITの活用による教育効果		⑤【研究協議】 各教科に共通なIT活用方法(コンピュータの教科学習での利用)		⑥【演習】 各教科における効果的なIT活用方法(デジタル・コンテンツを活用した授業設計)	
講 師	熊本大学助教授 田口 浩継			岐阜大学助教授 益子 典文				
第3日 8/18 (水)	⑦【研究協議】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法(デジタル・コンテンツを活用した授業設計)		⑧【演習】 ITを活用した授業実践事例について		⑨【演習】 各教科におけるITを活用したモデル授業		⑩【演習】 模擬授業・受講生による相互評価について	
講 師	岐阜大学助教授 益子 典文							
第4日 8/19 (木)	9:00 9:30 ⑪【研究協議】 情報モラルの適切な指導について	9:30 10:30 ⑫【演習】 情報モラルに関する理解・有害サイトの実際	10:45 12:10 ⑬【演習】 情報モラルに関する理解・携帯電話トラブルの理解について	⑭【研究協議】 学校における著作物利用の正しい理解, 児童生徒への普及		⑮【演習】 有害サイト, セキュリティ等に関する指導方法		
講 師	教育情報化コーディネータ教育政策課指導主事 宮田敏郎	警察本部生活安全企画課ハイテク犯罪対策官 島袋修	熊本県消費生活センター 主幹石原堅志	コンピュータソフトウェア著作権協会(ACCS) 調査部マネージャー 三橋 信司				
第5日 8/20 (金)	⑯【演習】 校内研修案の作成について		⑰【研究協議】 研修講師となるための知識・技術		11:50~12:10 閉講式			
講 師	熊本県立教育センター 教育工学室 室長戸田俊文 情報教育研修室指導主事 西泰弘							

I 研修概要

研 修 名	環境保全のための教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 (東部地区)。(環境教育担当教員講習会)							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	各都道府県において環境教育を担当する指導主事等に対し、学校における環境教育に関する全体の計画の作成、外部人材の活用のあり方等について、必要な知識等の修得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。							
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 (小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の教員等で、環境教育について指導的役割を担う者)							
開 催 期 日	平成16年 9月28日 (火)～平成16年10月 1日 (金)				4日間			
受 講 人 数	計画人数	155	人	受講者数	111	人	参加率	71.6%
開 催 場 所	国立磐梯青年の家 (福島県)							

※計画人数・受講者数は東・西合計で計上 (東部地区のみでの受講者数は50人)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	21	24	0	0	3
		46.7	53.3	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ワークショップのやり方、議論の仕方などを学び、現場でも生かしていきたい。
- ・新たな視点 (これからの教育の方向性) で現在の教育を見直し、再確認することができ、大変実のある研修になった。
- ・環境問題がどこまで問題になったのか、それに対する取組みは、という環境白書的な報告が行政説明としてほしかった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

環境保全のための教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修(東部地区)

開催要項

日 程 ○1日目：講習会の全体の把握

時間	内容
13:00	受付
13:30	開講式
14:00	行政説明「環境教育の推進にあたって」 文部科学省
15:30	オリエンテーション 研修のねらい 日程紹介
16:30	アイスブレイキング
17:00	夕べのつどい、夕食、入浴
19:00	全員参加のパネルディスカッション、参加者の問題意識の見取り図づくり (文部科学省の職員も一緒に意見交換会に参加します。)
20:00	5つのワークショップの紹介・選択)

○2日目：講師主導のワークショップ

時間	内容
9:00	ワークショップ 1 「環境教育に学校全体で取り組んでみませんか？」 東京学芸大学 原子栄一郎 2 「環境教育とファシリテーション」 ワークショップ・ミュー 青木将幸 3 「地域と環境教育」 NPO法人ねおす 宮本英樹 4 「『未来を想像する環境教育』とピラミッド」 シャプラニール=市民による海外協力の会 福澤郁文 5 「森林環境教育」 岐阜県立森林文化アカデミー 高田 研
12:00	昼食
13:00	ワークショップの続き
17:00	夕べのつどい 夕食、入浴
19:00	ワークショップのまとめ

○3日目：学校現場の課題と向き合う

時間	内容
9:00	講義「学校現場の課題を解きほぐすための 幾つかの視点」東京学芸大学 原子栄一郎
10:30	「学校現場の課題とは」グループピングと全体討議
13:30	各課題についての討議
16:30	全体会での分かち合い
18:00	夕食、入浴
19:30	情報交換会

○4日目：講習会のまとめ、ふりかえり

時間	内容
9:00	Q&A形式全体研究協議
11:30	閉講式
12:00	昼食・解散

I 研修概要

研 修 名	環境保全のための教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 (西部地区) (環境教育担当教員講習会)							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	各都道府県において環境教育を担当する指導主事等に対し、学校における環境教育に関する全体の計画の作成、外部人材の活用のあり方等について、必要な知識等の修得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。							
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。(小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の教員等で、環境教育について指導的役割を担う者)							
開 催 期 日	平成16年11月 2日 (火) ~平成16年11月 5日 (金)			4日間				
受 講 人 数	計画人数	155	人	受講者数	111	人	参加率	71.6%
開 催 場 所	国立江田島青年の家 (広島県)							

※計画人数・受講者数は東・西合計で計上 (西部地区のみでの受講者数は61人)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	23	32	4	0	2
		39.0	54.2	6.8	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省環境教育指定校等の実践紹介等も、部分的に入れていただきたい。 ・いろいろなプログラムがうまく日程に合わせて設定してあってよかった。 ・教育手法を学ぶという点では役に立つが、この手法は環境教育に限らず、他の領域でも活用されている手法が多かった。環境教育本来の目的を達成できるような研修を受けたい。 ・他県の先生方、他校種の先生方、講師の先生方との情報交換が何よりの成果である。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度環境保全のための教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 (西部地区)

日 程

日程	13:00	13:30	14:30	15:30	17:00	19:00	20:15	21:00	22:00	
第1日 2日 (火)	受付	開会 行事	講義Ⅰ 「学校における 環境教育の推進 にあたって」 文部科学省	全体演習Ⅰ 「参加・体験型 学習における導 入法」 西村仁志	講演 「大気、気象、 衛星から見た 地球温暖化に ついて(仮題)」 早坂忠裕	夕べの つどい 夕食	研究協議Ⅰ 「全員参加型 パネルディス カッション」 西村仁志 八尾哲史 岩木啓子 嵯峨創平 島川武治	講義Ⅱ 「ワークショッ プの紹介と登録」 西村仁志 八尾哲史 岩木啓子 嵯峨創平 島川武治	入浴	就寝
第2日 3日 (水)	起床 洗面	朝の 集い 清掃 朝食	ワークショップ 「地域の資源を生かした環境教育」 八尾哲史 「三世代ライフスタイルから考える」 岩木啓子 「エコスクールプロジェクト」 島川武治 「子どもは未来の『地球市民』」 嵯峨創平 「自然とのつながりを通して考える」 西村仁志	昼 食	ワークショップ	夕べの つどい 夕食	ワークショップまとめ		入浴	就寝
第3日 4日 (木)	起床 洗面	朝の 集い 清掃 朝食	テーマ別演習Ⅰ 「行政 NPO 等外部人材との連携について」 嵯峨創平、八尾哲史 「各府県における環境教育推進方策」 岩木啓子、島川武治 「環境教育指導者研修の考え方・作り方」 西村仁志	昼 食	テーマ別演習Ⅱ	講師の 小部屋 Q & A タイム	入浴 自由 時間	情報交換会	入浴	就寝
第4日 5日 (金)	起床 洗面	朝の 集い 清掃 朝食	研究協議Ⅱ 西村仁志 八尾哲史 岩木啓子 嵯峨創平 島川武治	全体演習Ⅱ 「ふりかえり とわかちあい」 西村仁志 八尾哲史 岩木啓子 嵯峨創平 島川武治	アンケ ート 記入	閉 会 行 事				

I 研修概要

研修名	体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の養成を目的とした研修 (東日本ブロック) (体験活動担当教員講習会)							
担当課係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研修目的	学校教育における社会奉仕活動や自然体験活動をはじめとした様々な体験活動の一層の充実を図るため、体験活動の教育課程への位置づけや、体験活動プログラムの開発等について、必要な知識などを習得させ、受講者により、これらの内容を踏まえた研修等が各地域で行われるようにする。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の教員で、各地域において本研修内容を踏まえた研修を実施することができる者。							
開催期日	平成16年10月25日(月)～平成16年10月28日(木)				4日間			
受講人数	計画人数	155	人	受講者数	107	人	参加率	69.0%
開催場所	国立信州高遠少年自然の家(長野県)							

※計画人数・受講者数は東・西合計で計上(東日本のみでの受講者数は51人)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	11	35	5	0	0
		21.6	68.6	9.8	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・内容が多く充実していたが、休憩や自己研修の時間が少なく、結果的に資料を読み深めたり多くの事例について考えることは持ち帰ってからの宿題となってしまふ。研修の間に自分のものにできるゆとりが欲しい。
・色々な体験・講義が聞けて良かったと思うが、これを伝授するとなると大変かと思う。もう少し伝授するための具体的な内容が欲しかった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

国立信州高遠少年自然の家

平成16年度「体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の養成を目的とした研修」日程

I 自然体験活動コース

	10:00	10:30	11:00	12:30	13:40	15:10	15:30	17:30
1 日 目	受付	開講式	課題協議 1 「体験活動の適切な教育課程への位置づけ」 (総合的な学習の時間) 東京大学助教授 鈴木 眞理	昼食	課題協議 1 (続き) 「体験活動の適切な教育課程への位置づけ」 (総合的な学習の時間) 東京大学助教授 鈴木 眞理		課題協議 2 「体験活動の適切な教育課程への位置づけ」 (特別活動・道徳・各教科) 信州高遠少年自然の家所長 森田 勇造	

	8:30	11:00	11:20	13:40	14:00	17:00
2 日 目	実践演習 1 「野外伝承遊び」 青少年交友協会 中山 順子 講師 飯塚 進 講師 大出 章裕 上級指導員	実践演習 2-1 「自炊」 信州高遠少年自然の家 輿水 専門職員 稲村 研修指導員	(昼食)	実践演習 3 「グリーンアドベンチャー (植物探索)」 信州高遠少年自然の家 山下 研修指導員		

	8:30	10:30	12:00	13:00	16:00	18:00
3 日 目	課題協議 3 「自然体験プログラムの立案とその展開」 信州高遠少年自然の家 川本 専門職員	演習 1 「自然体験プログラムの企画立案」 信州高遠少年自然の家 川本 専門職員	昼食	演習 2 「自然体験活動プログラム実施に際しての家庭・地域・関係機関との連携」 ① 家庭・地域・関係機関との連携 信州高遠少年自然の家所長 森田 勇造 ② 青少年教育施設の役割と安全対策 信州高遠少年自然の家 萩原 事業推進課長	実践演習 2-2 「自炊」	

	8:00	9:30	11:00	11:30
4 日 目	演習 3 プログラム発表・評価	全体研究協議 「本研修を踏まえた効果的な体験活動の実施」 信州高遠少年自然の家所長 森田 勇造	閉講式	

国立信州高遠少年自然の家

II 社会奉仕体験活動コース

	10 00	10 30	11 00	12 30	13 40	15 10	17 30
1 日 目	受付	開講式	課題協議 I 「体験活動の適切な教育課程 への位置づけ」 (総合的な学習の時間) 東京大学助教授 鈴木 眞 理	昼 食	課題協議 I (続き) 「体験活動の適切な教育課程 への位置づけ」 (総合的な学習の時間) 東京大学助教授 鈴木 眞理	課題協議 II 「体験活動の適切な教育課程へ の位置づけ」 (特別活動・道徳・各教科) 信州高遠少年自然の家所長 森田 勇造	

	8 30	12 00	13 20	16 30
2 日 目	実践演習 I 「地域の社会施設等訪問」	昼 食	実践演習 II 「高遠町への奉仕活動」	

	9 00	10 00	12 00	13 00	15:30	16:00	17 30
3 日 目	課題協議 III 「実践演習を振り返って」	演習 I 「ボランティア活動プログラムの立案とその展開」 (社) 日本青年奉仕協会 事業本部長 松尾 索	昼 食	演習 I (続き) 「ボランティア活動プログラムの立案とその展開」 (社) 日本青年奉仕協会 事業本部長 松尾 索		演習 II ※	

	8 00	9 30	11 00	11 30
4 日 目	演習 III ワークショップ 「ボランティア活動プログラムの実施に際しての家庭・地域・関係機関との連携、安全管理、評価等」 発表・全体協議	全体研究協議 信州高遠少年自然の家 所長 森田 勇造	閉 講 式	

※ 演習 2
「ボランティア活動プログラムの実施に際しての家庭・地域・関係機関との連携」
事例発表 ①
杉並NPO法人ボランティア活動推進センター 主任 疋田 恵子
事例発表 ②
NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク 代表 生重 幸恵

I 研修概要

研 修 名	体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の養成を目的とした研修 (西日本ブロック) (体験活動担当教員講習会)							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	学校教育における社会奉仕活動や自然体験活動をはじめとした様々な体験活動の一層の充実を図るため、体験活動の教育課程への位置づけや、体験活動プログラムの開発等について、必要な知識などを習得させ、受講者により、これらの内容を踏まえた研修等が各地域で行われるようにする。							
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の教員で、各地域において本研修内容を踏まえた研修を実施することができる者。							
開 催 期 日	平成17年 2月22日 (火) ~平成17年 2月25日 (金)				4日間			
受 講 人 数	計画人数	155	人	受講者数	107	人	参加率	69.0%
開 催 場 所	国立諫早少年自然の家 (長崎県)							

*計画人数・受講者数は東・西合計で計上 (西日本のみでの受講者数は56人)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	34 69.4	15 30.6	0 0.0	0 0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

・要項をみた段階では、どのような研修をするのかが見えておらず、研修で何を得たいのかも曖昧だったが、自分たちで主体的に考えていく場面が多く、勉強になった。

・4日間も研修をする機会が少なく、内容的にも充実していた。体験学習を進める際の骨組みとなる部分を知ることができ、それを職場・学校でも還元できると思う。

・学校行事や総合的な学習の時間における教育活動を実施するにあたり、何のためにするのか、そのためにどんな活動を組み合わせることがより教育効果を高められるのか、その視点を改めて問い直す必要があることを感じた。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の
養成を目的とした研修（西日本ブロック）

No.1

講習会名	平成16年度体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の養成を目的とした研修（体験活動担当教員講習会）（西日本ブロック）	
実施会場	国立諫早少年自然の家	
所在地・連絡先	長崎県諫早市白木峰町1109-1	
実施期間	平成17年2月22日（火）～25日（金）	
	時間	内容
第 一 日	13:30～14:00	開会行事 （体験活動の適切な教育課程への位置付けに関する演習①）
	14:00～15:00	講義「学校における体験活動の意義と進め方」 文部科学省初等中等教育局児童生徒課
	15:30～17:30	特別講演「体験活動の位置づけと目標設定～プロジェクト学習を例に」 未来教育デザイナー 鈴木敏恵
	19:00～21:00	演習「参加者相互の心の壁を下げる活動の実際」 国立諫早少年自然の家職員
第 二 日	9:00～12:00	（体験活動の適切な教育課程への位置付けに関する演習②、体験活動の実際に際する外部人材の活用方法に関する演習、評価に関する実践演習） 演習「体験活動を進める際の基本的な局面～プロジェクト学習の進め方を例に」 未来教育デザイナー 鈴木敏恵
	13:30～16:30	演習「体験活動の進め方の実際と評価～ポートフォリオを活用した評価・コーチング・“ふりかえり”」 未来教育デザイナー 鈴木敏恵

第 三 日	9:00 ~ 17:30	<p>(体験活動プログラムの開発演習、体験活動の実施の際の家庭・地域・関係機関の連携、安全管理等に関する実践演習)</p> <p>演習「体験活動プログラム開発の実際」 (自然体験活動コース)</p> <p>人間科学研究所所長 志賀誠治 及び国立諫早少年自然の家職員</p> <p>(社会奉仕体験活動コース) 社団法人日本青年奉仕協会 及び国立諫早少年自然の家職員</p>
-------------	--------------	---

No.2

	時 間	内 容
	19:00 ~ 21:00	<p>オプションプログラム「各学校の実態に即したプログラムデザイン ～悩み解決相談会」</p> <p>国立諫早少年自然の家職員</p>
第 四 日	9:00 ~ 12:00	<p>(本研修を踏まえた効果的な体験活動の実施についての研究協議)</p> <p>研究協議 (自然体験活動コース)</p> <p>人間科学研究所所長 志賀誠治 及び国立諫早少年自然の家職員</p> <p>(社会奉仕体験活動コース) 社団法人日本青年奉仕協会 及び国立諫早少年自然の家職員</p>
	12:00 ~ 12:30	閉会行事

I 研修概要

研修名	生徒指導上の諸課題に対応するための指導者の養成を目的とした研修								
担当課係	研修事業第一課長期研修第二係								
研修目的	各都道府県、指定都市及び中核市において生徒指導又は教育相談を担当する指導主事等に対し、全国的かつ緊急に対応が必要な不登校・いじめ等の問題行動や児童虐待等の生徒指導上の今日的諸問題等について、最新の知見や全国的動向、研究成果、対応方策等に関する必要な知識等を習得させるとともに、受講者により各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導助言等が行なわれるようにする。								
受講対象	都道府県、指定都市及び中核市の各教育委員会が推薦する、各教育委員会において生徒指導又は教育指導を担当する指導主事及び研修担当主事・上記に準ずる者								
開催期日	平成16年 7月12日（月）～平成16年 7月27日（火）			16日間					
受講人数	計画人数	155	人	受講者数	126	人	参加率	81.3%	
開催場所	独立行政法人教員研修センター								

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無回答				
人数(人)	割合(%)	78	63.4	45	36.6	0	0.0	0	0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習形式の導入は大変有意義であると考えます。 ・各講師の講義内容は大変勉強になった。また、各班ごとに行った事例研究での話し合いも有効であった。 ・パネルディスカッションが2回あったが、ディスカッションではなく順番に説明しただけなので、もっと意見交換がほしい。 ・いじめ問題への対応演習の内容が、午前・午後とも同じ内容だったので工夫してほしい。 ・事例研究の時間をもっと多く設定してほしい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

「平成16年度 生徒指導上の諸課題に対応するための指導者の養成を目的とした研修」日程

No.1

月日(曜)	時間	会場	講義題等	講師	備考
7/12 (月)	10:30~11:35	Rホール	オリエンテーション		
	11:45~12:00	玄関前	写真撮影		
	13:00~13:20	Rホール	開講式		
	13:20~14:00	Rホール	「本研修の効果を高めるための諸施策の状況」	文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導室長 吉田 憲司 (よしだ けんじ)	
	14:15~16:15	Rホール	効果的な研修に役立つ人間関係づくり	教員研修センター主任指導主事 小野口 吉政 (おのち よしまさ)	
	16:25~17:00	指定研修室	班別協議会		◇持参資料交換
	○シート・枕カバー・ふとんカバー受領 (12:00~19:00) 第三宿泊棟1階生活関連受付コーナー ○学習委員会 (班長・副班長・編集委員) (18:00~18:45) 研修棟202研修室 ○フロアリーダー選出 (20:00~宿泊棟各談話室, 班長・副班長・編集委員はフロアリーダーに指名しない)				
班別協議会・研究協議 指定研修室			生徒指導事例研究(1)~(6) 指定研修室		
A班 [105]		A1班 [105]		A2班 [205]	
B班 [106]		B1班 [106]		B2班 [206]	
C班 [107]		C1班 [107]		C2班 [207]	
D班 [プレゼン前]		D1班 [プレゼン前右]		D2班 [プレゼン前左]	
E班 [プレゼン後]		E1班 [プレゼン後右]		E2班 [プレゼン後左]	
7/13 (火)	8:30~9:20	指定研修室	生徒指導事例研究(1)		◇持参資料 (生徒指導事例研究)
	9:30~11:00	第二研修棟2階	LD・ADHD・高機能自閉症の理解と指導	文部科学省特別支援教育調査官 柘植 雅義 (つげ まさよし)	
	11:15~12:15	第二研修棟2階	LD・ADHDの理解と指導	司馬クリニック院長 司馬 理英子 (しば りえこ)	
	13:30~15:00	第二研修棟2階	児童虐待問題の理解と対応	前茨城県福祉相談センター児童健全育成主査 加倉井 正 (かくらい ただし)	
	15:15~17:30	第二研修棟2階	パネルディスカッション 「関係機関と学校との連携の在り方」	警察庁 生活安全局少年課 課長補佐・警視 楠目 聖 (くすめ あきら)----- 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 家庭福祉課児童福祉専門官 梶原 敦 (かじわら あつし) 雇用均等・児童家庭局 総務課児童相談係長 元木重幸 (もとき しげゆき)----- 法務省 保護局更生保護振興課補佐官 稲葉 保 (いなば たもつ)	
	○フロアリーダー会 (17:50~18:20 研修棟202研修室)				

◇印は受講者が準備するもの

(※部屋略称:レクシオンホール=Rホール, プレゼンテーション室=プレゼン, 101等=研修棟研修室番号)

「平成16年度 生徒指導上の諸課題に対応するための指導者の養成を目的とした研修」日程

No.2

月日 (曜)	時間	会場	講義題等	講師	備考
7/14 (水)	8:30～9:20	指定 研修室	生徒指導事例研究(2)		◇持参資料 (生徒指導事例研究)
	9:30～12:15	Rホール	いじめ問題への対応演習(1)	大阪樟蔭女子大学教授 森田 洋司(もりた ようじ)	
	13:30～16:30	Rホール	★いじめ問題への対応演習(2)		
	16:35～17:00	指定 研修室	生徒指導事例研究(3)		◇持参資料 (生徒指導事例研究)
7/15 (木)	8:30～9:20	指定 研修室	生徒指導事例研究(4)		◇持参資料 (生徒指導事例研究)
	9:30～12:15	Rホール	不登校への対応演習(1)	早稲田大学教授 菅野 純(かんの じゅん)	
	13:30～16:30	Rホール	★不登校への対応演習(2)		
	16:35～17:00	指定 研修室	生徒指導事例研究(5)		◇持参資料 (生徒指導事例研究)
7/16 (金)	8:30～9:20	指定 研修室	生徒指導事例研究(6)		◇持参資料 (生徒指導事例研究)
	9:30～11:45	105	生徒指導事例研究(7)	広島国際大学助教授 相馬 誠一(そうま せいいち) 香英短期大学教授 森川 澄男(もりかわ すみお)	◇持参資料 (生徒指導事例研究)
		106			
	13:00～16:30	107	生徒指導事例研究(8)	奈良教育大学助教授 池島 徳大(いけじま とくひろ) 東京学芸大学講師 樺澤 徹二(かばさわ てつじ) 東海女子大学助教授 花井 正樹(はない まさき)	◇持参資料 (生徒指導事例研究)
		アゼン 前 アゼン 後			
16:35～17:00	指定 研修室	研究協議			
○編集委員会②(編集委員) 17:30～18:00研修棟202研修室					
7/17(土)・7/18(日)・7/19(月) 自由研修					
7/20 (火)	8:30～9:20	指定 研修室	研究協議		
	9:30～12:15	Rホール	★薬物乱用・性非行問題への対応	警察庁生活安全局少年課専門職 石橋 昭良(いしばし あきよし)	
	13:30～17:00	Rホール	パネルディスカッション 学習指導要領の内容の変遷を通して [規範意識の育成]を考える -道徳教育・特別活動・生徒指導-	上越教育大学助教授 石田 美清(いしだ よしきよ) パネリスト4名(受講者より選出)	
7/21 (水)	8:30～9:20	指定 研修室	研究協議		
	9:30～12:15	Rホール	★学級がうまく機能しない状況 への理解と対応	都留文科大学教授 河村 茂雄(かわむら しげお)	
	13:30～17:00	Rホール	★ストレスマネジメント	兵庫教育大学教授 富永 良喜(とみなが よしき)	

◇印は受講者が準備するもの

★衛星配信研修 ★衛星配信研修(双方向)

「平成16年度 生徒指導上の諸課題に対応するための指導者の養成を目的とした研修」日程

No.3

月日 (曜)	時間	会場	講義題等	講師	備考
7/22 (木)	8:30～9:20	指定研修室	研究協議		
	9:30～12:15	Rホール	★パネルディスカッション 体験活動の意義と それを生かした生徒指導	日本体育大学教授 成田 國英 (なりた くにひで) 市川市教育センター指導主事 山田 浩一 (やまだ こういち) 名川町立剣吉中学校教頭 島脇 通保 (しまわき みちやす) 山口県立熊毛北高等学校教諭 藤村 雅彦 (ふじむら まさひこ)	
	13:30～17:00	Rホール	★ブリーフ・カウンセリングによる 問題行動への対応	広島大学助教授 栗原 慎二 (くりはら しんじ)	
	○編集委員会③(編集委員) 17:30～18:00研修棟202研修室				
7/23 (金)	8:30～9:20	指定 研修室	研究協議		
	9:30～12:15	Rホール	★問題行動を起こす 児童生徒への対応	帝京大学教授 星野 周弘 (ほしの かねひろ)	
	13:30～17:00	Rホール	効果的な非行防止教室の在り方		
7/24(土)・7/25(日) 自由研修					
7/26 (月)	8:30～9:20	指定 研修室	研究協議		
	9:30～12:10	第二 研修棟 2階	生徒指導に関わる法的諸問題	上越教育大学教授 若井 彌一 (わかい やいち)	
	13:30～15:30	第二 研修棟 2階	スクールカウンセラーを活用した 組織的な生徒指導の在り方	目白大学教授 福島 脩美 (ふくしま おさみ)	
	15:45～17:00	第二 研修棟 2階	効果的な研修の在り方	教員研修センター主幹 田上 富男 (たがみ とみお)	
7/27 (火)	○宅配便受付(7:30～8:30) 第一宿泊棟1階通路 ○部屋鍵・名札ケース返却(8:20～8:30) 第二研修棟1階事務室 ○シーツ・枕カバー・ふとんカバー返却(～8:10) 第三宿泊棟1階生活関連受付コーナー				
	8:30～9:20	指定 研修室	研究協議		
	9:30～11:30	第二 研修棟 2階	成果と還元 - 研修成果の発表と 還元についての討議 -	教員研修センター主幹 田上 富男 (たがみ とみお)	
	11:50～12:10	第二 研修棟 2階	閉講式		
	○アンケート, 研修レポート提出				

◇印は受講者が準備するもの

★衛星配信研修 ★衛星配信研修(双方向)

参加人数 126名 (A班18名 B班27名 C班27名 D班27名 E班27名)

I 研修概要

研修名	キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (進路指導講座) (東日本地区)		
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係		
研修目的	各都道府県教育委員会・市町村教育委員会等の進路担当指導主事及び小学・中学校・高等学校・中等教育学校の進路指導主事等に対して、進路指導に必要な専門的知識と技術を習得させる基礎コースと、さらにキャリア・カウンセリング能力等を育成する応用コースの講座を実施し、教育委員会等が実施するキャリア教育・進路指導に関する研修において指導的役割を担える人材を養成し、もって学校における進路指導の充実に資するものとする。		
受講対象	基礎コース ①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ②小学校・中学校・高等学校・中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修等を行う予定である者 応用コース 平成16年度の進路指導講座・基礎コースを修了した者		
開催期日	(基礎)	平成16年 6月21日(月)～平成16年 6月25日(金)	5日間
	(応用)	平成16年 9月27日(月)～平成16年 9月29日(水)	3日間
受講人数	(基礎)	計画人数 139人	受講者数 90人 参加率 64.7%
	(応用)	計画人数 139人	受講者数 73人 参加率 52.5%
開催場所	(基礎) 筑波大学 (応用) アルカディア市ヶ谷		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)
基礎コース

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	36: 43.4	46: 55.4	1: 1.2	0: 0.0	7:

応用コース

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	33: 49.3	34: 50.7	0: 0.0	0: 0.0	3:

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校・高校それぞれに分かれての研修・話し合いができるともっとよかった。 ・全体的に質問時間が短かった。その後の10分の休憩では質問に行きにくい。 ・演習が入ったことで理解が深まった。 ・小学校の参加が少ないため、小学校の先生の意見を聴く機会があまりなかったのは残念だった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修(進路指導講座) 日程表
東日本地区(筑波大学)

6月21日(月)	9:00 受付 9:30~ 開講式 オリエンテーション 資料交換	10:00 (講義) キャリア教育と進路指導 文教大学名誉教授 仙崎 武	10:30	12:00 昼休み	13:30 (班別協議) 小・中・高等学校が連携した実践及び計画的・組織的な進路指導の実践と課題 (分散会) 文部科学省生徒指導調査官 宮下 和己 筑波大学大学院助教授 藤田 晃之	15:45 休憩	16:00 (全体会)	17:00		
6月22日(火)	(実践発表と研究協議) 保護者・地域と連携した 実践と課題 文部科学省生徒指導調査官 宮下 和己	10:00 (研究協議) キャリア・カウンセリング 研修の意義及び小学校 からのキャリア教育につ いての理解 文部科学省生徒指導調 査官 宮下 和己	10:30 休憩	10:40	12:00 昼休み	13:00 (演習) コミュニケー ションスキル の基礎 I 休憩	13:40 (演習) 小学生・中学生・高校生 の心理 的・社会的発達 の理解 東北大学教育学部長 菊池 武剋	15:50 休憩	16:00 (演習) コミュニケー ション スキルの基礎 II	17:00
6月23日(水)	(演習) 小学生・中学生・高校生の職 業にかかわる体験的活動の 意義と生かし方 所沢市立所沢中学校 教頭 藤川 喜久男	10:00 (演習) コミュニケーションスキル の向上 休憩	10:30 休憩	10:40	12:00 昼休み	13:00 (演習) 小学生・中学生・高校生を 理解することの意味と方法 東北大学教育学部長 菊池 武剋	14:30 休憩	14:40	16:40	
6月24日(木)	(演習) キャリア・カウンセリングにつ いての理解 筑波大学大学院 教授 渡辺 三枝子	10:00 (演習) カウンセリングプロセス 一相談関係づくりの大切 さを知る一 休憩	10:30 休憩	10:40	12:00 昼休み	(午前中に続く)	15:20 休憩	15:30 (演習) 小学生・中学生・高校生の生きる 社会環境(職業や産業)につ いての理解 千葉商科大学 教授 鹿嶋 研之助	17:00	
6月25日(金)	(演習) 多様な相談場面の 理解 筑波大学大学院 教授 渡辺 三枝子	10:00 (演習) 研修講師となるた めの知識・技術 休憩 文部科学省生徒指導 調査官 宮下 和己	10:10 休憩	11:10	11:30 閉 講 式					

平成16年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修(進路指導講座)(応用コース)日程表

東日本地区(アルカディア市ヶ谷)

	9:00	10:00	10:30	12:00	13:00	14:50	15:10	17:00
9月27日(月)	受付 9:00~	開講式	(演習) キャリア教育を推進するうえで の課題 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 宮下 克己 筑波大学大学院教授 渡辺 三枝子 所沢市立所沢中学校教頭 藤川 喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城 慎二	昼休み	(演習) 指導・教授能力の向上—キャリア教育 についての理解の深化— 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 宮下 克己 筑波大学大学院教授 渡辺 三枝子 所沢市立所沢中学校教頭 藤川 喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城 慎二	休憩	(演習) プログラム開発・運営能力Ⅰ—プログラ ム開発能力の向上— 所沢市立所沢中学校教頭 藤川 喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城 慎二	
9月28日(火)	9:00			12:00	13:00	14:50	15:10	17:00
	(演習) プログラム開発・運営能力Ⅱ—プログラム開発・評価能力の向上— 所沢市立所沢中学校教頭 藤川 喜久男 千葉商科大学教授 鹿嶋 研之助 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城 慎二 筑波大学大学院教授 渡辺 三枝子			昼休み	(演習) カウンセリング過程の基本の実践Ⅰ 筑波大学大学院教授 渡辺 三枝子 所沢市立所沢中学校教頭 藤川 喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城 慎二	休憩	(演習) カウンセリング過程の基本の実践Ⅱ 筑波大学大学院教授 渡辺 三枝子 所沢市立所沢中学校教頭 藤川 喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城 慎二	
9月29日(水)	9:00	10:20	10:40	12:00	13:00	14:30	14:50	16:30
	(講義) 学校教育におけるキャリア 教育の進め方Ⅰ 千葉商科大学教授 鹿嶋 研之助	休憩	(研究協議) 学校教育におけるキャリア 教育の進め方Ⅱ 千葉商科大学教授 鹿嶋 研之助 都立八王子工業高等学校長 内田 雅顕 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 宮下 和己	昼休み	(演習) ポートフォリオの活用 都立八王子工業高等学校 内田 雅顕	休憩	(演習) コンサルテーション能力とコーディ ネーション能力の向上 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 宮下 克己 筑波大学大学院教授 渡辺 三枝子 都立八王子工業高等学校長 内田 雅顕	閉 講 式

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (進路指導講座) (西日本地区)		
担 当 課 係	研修事業第二課 国内短期研修係		
研 修 目 的	各都道府県教育委員会・市町村教育委員会等の進路担当指導主事及び小学・中学校・高等学校・中等教育学校の進路指導主事等に対して、進路指導に必要な専門的知識と技術を習得させる基礎コースと、さらにキャリア・カウンセリング能力等を育成する応用コースの講座を実施し、教育委員会等が実施するキャリア教育・進路指導に関する研修において指導的役割を担える人材を養成し、もって学校における進路指導の充実に資するものとする。		
受 講 対 象	基礎コース ①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ②小学校・中学校・高等学校・中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修等を行う予定である者 応用コース 平成16年度の進路指導講座・基礎コースを修了した者		
開 催 期 日	(基礎) 平成16年 6月 7日 (月) ~平成16年 6月11日 (金)	5日間	
	(応用) 平成16年10月 4日 (月) ~平成16年10月 6日 (水)	3日間	
受 講 人 数	(基礎) 計画人数 136 人	受講者数 90 人	参加率 66.2%
	(応用) 計画人数 136 人	受講者数 59 人	参加率 43.4%
開 催 場 所	(基礎) 広島大学 (応用) 弘済会館		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	40: 46.5	46: 53.5	0: 0.0	0: 0.0	4:

基礎コース

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	39: 69.6	17: 30.4	0: 0.0	0: 0.0	2:

応用コース

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なキャリア教育の実施事例について実施報告を聞いてみたかった。 ・小・中・高校別の演習を設けてほしかった。 ・演習が多かったのはとても良かった。 ・コミュニケーションスキルの演習をしたことについて、その講義を自分はいこう理解し、こう感じた相手に伝えることで、より明細化された。普段、講義について講義の後で伝え合う事は少ない。このやり方は、自分の考えを拡大、修正していく上でも効果的であったと感じた。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修(進路指導講座) 日程表
西日本地区(広島大学)

	9:00	10:00	10:30	11:45	13:30	15:45	16:00	17:00
6月7日(月)		受付 9:30～ 開講式 オリエンテーション 資料交換	(実践発表と研究協議) 保護者・地域と連携 した実践と課題 国立教育政策研究所 総括研究官 宮下 和己	昼休み	(班別協議) 小・中・高等学校が連携した実践及び計画的・組織的な進路指導の 実践と課題 (分散会)		休憩 国立教育政策研究所 総括研究官 宮下 和己	(全体会)
	9:00	10:00	10:30 10:40	12:00	13:00	13:40 13:50	15:50 16:00	17:00
6月8日(火)	(研究協議)	企業から見た人材育成 株式会社 サタケ 取締役副社長 福森 武	休憩 (研究協議) キャリア・カウンセリング 研修の意義及び小学校 からのキャリア教育につ いての理解 国立教育政策研究所 総括研究官 宮下 和己	昼休み	(演習) コミュニケー ションスキル の基礎 I	休憩 (演習) 小学生・中学生・高校生の心理 的・社会的発達の理解 東北大学教育学部長 菊池 武尅	休憩 (演習) コミュニケーション スキルの基礎 II	
	9:00	10:00	10:30 10:40	12:00	13:00	14:30 14:40	16:40	
6月9日(水)	(演習)	小学生・中学生・高校生の職 業にかかわる体験的活動の 意義と生かし方	休憩 (演習) コミュニケーションスキル の向上	昼休み	(演習) 小学生・中学生・高校生を理解することの意味と方法 東北大学教育学部長 菊池 武尅	休憩		
	9:00	10:00	10:30 10:40	12:00	13:00	15:20 15:30	17:00	
6月10日(木)	(演習)	キャリア・カウンセリングにつ いての理解 筑波大学 教授 渡辺 三枝子	休憩 (演習) カウンセリングプロセス —相談関係づくりの大切 さを知る—	昼休み	(午前中に続く)	休憩 (演習) 小学生・中学生・高校生の生きる 社会環境(職業や産業)につ いての理解 国立教育政策研究所 総括研究官 宮下 和己		
	9:00	10:00 10:10	11:10	11:30				
6月11日(金)	(演習) 多様な相談場面の 理解 筑波大学 教授 渡辺 三枝子	休憩 (演習) 研修講師となるた めの知識・技術 国立教育政策研究所 総括研究官 宮下 和己	閉 講 式					

平成16年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修(進路指導講座)(応用コース)日程表

西日本地区(弘済会館)

	9:00	10:00	10:30	12:00	13:00	14:50	15:10	17:00
10月4日(月)	受付 9:00~	開講式	(演習) キャリア教育を推進するうえでの課題 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 宮下 克己 筑波大学大学院教授 渡辺 三枝子 都立八王子工業高等学校長 内田 雅頭 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城 慎二	昼休み	(演習) 指導・教授能力の向上ーキャリア教育 についての理解の深化ー 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 宮下 克己 筑波大学大学院教授 渡辺 三枝子 追手門学院大学人間学部教授 三川 俊樹 都立八王子工業高等学校長 内田 雅頭 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城 慎二	休憩	(演習) プログラム開発・運営能力Ⅰープログラ ム開発能力の向上ー 筑波大学大学院教授 渡辺 三枝子 追手門学院大学人間学部教授 三川 俊樹 都立八王子工業高等学校長 内田 雅頭 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城 慎二	
10月5日(火)	9:00	(演習) プログラム開発・運営能力Ⅱープログラム開発・評価能力の向上ー 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城 慎二 所沢市立所沢中学校教頭 藤川 喜久男 筑波大学大学院教授 渡辺 三枝子		12:00	13:00	14:50	15:10	17:00
			昼休み		(演習) カウンセリング過程の基本の実践Ⅰ 東北大学教育学部長 菊池 武尅 所沢市立所沢中学校教頭 藤川 喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城 慎二 筑波大学大学院教授 渡辺 三枝子 都立八王子工業高等学校長 内田 雅頭	休憩	(演習) カウンセリング過程の基本の実践Ⅱ 東北大学教育学部長 菊池 武尅 所沢市立所沢中学校教頭 藤川 喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城 慎二 筑波大学大学院教授 渡辺 三枝子 都立八王子工業高等学校長 内田 雅頭	
10月6日(水)	9:00	10:20	10:40	12:00	13:00	14:30	14:50	16:30
	(講義) 学校教育におけるキャリア 教育の進め方Ⅰ 千葉商科大学教授 鹿嶋 研之助	休憩	(研究協議) 学校教育におけるキャリア 教育の進め方Ⅱ 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 宮下 和己 東北大学教育学部長 菊池 武尅 千葉商科大学教授 鹿嶋 研之助 都立八王子工業高等学校長 内田 雅頭 所沢市立所沢中学校教頭 藤川 喜久男	昼休み	(演習) ポートフォリオの活用 所沢市立所沢中学校教頭 藤川 喜久男 都立八王子工業高等学校長 内田 雅頭	休憩	(演習) コンサルテーション能力とコーディ ネーション能力の向上 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 宮下 克己 東北大学教育学部長 菊池 武尅 都立八王子工業高等学校長 内田 雅頭	閉 講 式

I 研修概要

研 修 名	人権教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (人権教育セミナー)						
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係						
研 修 目 的	学校教育における人権教育の一層の充実を図るため、今日的な人権課題である学校教育活動全体において人権教育を推進するためのプログラム開発や効果的な指導、家庭・地域等との連携を推進する方策等について、研究協議及び演習等を行うことにより必要な知識等を習得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われること。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事又は教育センターの人権教育担当者並びにそれに準じる者として市町村教育委員会の指導主事又は人権教育の指導的立場を担う校長等。						
開 催 期 日	平成16年11月29日(月)～平成16年12月 1日(水)				3日間		
受 講 人 数	計画人数	155	人	受講者数	141	参加率	91.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	69; 49.6	70; 50.4	0; 0.0	0; 0.0	1;

2. 研修内容に関する主な意見

- ・今後の指導の方向性や人権教育の充実に向けた取組の参考になった。
- ・人権教育の確信に触れた内容でありながら、具体的で分かり易く大変参考になった。
- ・人権教育についての理論的な整理、重要な視点の指摘ということでは、理解できるが、大変抽象的で現実に対応している課題との接点が見つけにくい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度人権教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（人権教育セミナー） 日 程 表

日 時：平成16年11月29日(月)～平成16年12月1日(水)

場 所：独立行政法人 教員研修センター

第1日目	11月29日 (月)	12:00	13:00	13:30	15:00	15:10	17:00				
			受 付	開 講 式	講演 「学校における人権教育についての 知的理解の増進及び人権感覚の 育成について」(仮題) 筑波大学教授 福田 弘	休 憩	研究協議1 「学校における人権教育に係る取 組について」 ～学校現場における課題把握～ 文部科学省初等中等教育局 視学官 宮川 保之				
第2日目	11月30日 (火)	9:00	10:00	10:15	11:15	11:30	12:30	13:30	15:10	15:20	17:00
		事例発表 「人権教育に係る教育委員会の 取組の現状について」 ～教育委員会による人権教育 に係る学校に対する指導や研 修内容の現状報告～	休 憩	研究協議2 「教育委員会によ る取組についての 今後の課題」 ～教育委員会によ る取組の今後の方 向性について協議 ～	休 憩	演習1 「学校における人権 教育の改善・充実に ついて」	昼 休 み	演習2 「学校における人 権教育の改善・充 実について」	休 憩	演習3 「学校における 人権教育の改善 ・充実について」	
第3日目	12月1日 (水)	9:00	12:10	12:30	12:40						
		報告会(A会場) 「各班による成果報告」(注) 指導助言者 文部科学省初等中等教育局 視学官 宮川 保之	演習まとめ(A会場) 「講評」 文部科学省初等中等教育局 視学官 宮川 保之	閉 講 式							
		報告会(B会場) 「各班による成果報告」(注) 指導助言者 文部科学省初等中等教育局 視学官 室井 俊通	演習まとめ(B会場) 「講評」 文部科学省初等中等教育局 視学官 室井 俊通								

(注)
演習を通じて、指導主事が学校を訪問し、指導を行う
際の観点・留意点等を整理し、各班ごとに報告をまとめ
る。なお、当該報告は、各学校において人権教育を行う
に当たっての留意点を示すものともなる。

I 研修概要

研 修 名	特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修 (カリキュラム・マネジメント研修) 第1回(中央)							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	各学校において編成されたカリキュラムを評価・改善し、より良いカリキュラムを編成するための必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成16年12月20日(月)～平成16年12月22日(水)				3日間			
受 講 人 数	計画人数	110	人	受講者数	177	人	参加率	160.9%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数(人)	割合(%)	46	106	11	2	10
		27.9	64.2	6.7	1.2	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・学力のとらえ方が自分なりに明確に抱くことができた。
- ・小学校だけでなく、中学校、高校の事例発表もあれば大変参考になったと思う。
- ・具体的事例があったので、演習の中で、共通の話題のもとに各自の持参資料について話し合うことができた。
- ・総合的な学習の時間の指導に苦勞している学校が多い状況だが、その意識を再認識でき、大変参考になった。
- ・情報交換としては役に立ったが、カリキュラムマネジメントのとらえ方が各自ばらばらなため、あまり深まらなかった。
- ・「カリキュラムマネジメント」が必要な理由、「総合的な学習の時間」の本質等大変よくわかるお話だった。
- ・学習指導要領解説編第4章をもとに、事例等を加味しながら、作成していくのがよいと思われる。
- ・マネジメントの方法やカリキュラム評価についての具体的手法、取組等の事例等についての情報もほしかった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 第1回 特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修
(カリキュラム・マネジメント研修)

日 程 表

<第1日目> 12月20日 (月)	10:00	10:20	10:50	12:10	13:10	14:10	14:30	15:30	15:40	17:00
		受 付	開 講 式	課題協議1 「カリキュラム・マネジメント(教育課程の開発と経営)について」 東京学芸大学 教授 児島邦宏	昼 休 み	事例発表 (カリキュラム管理体制についての事例発表) 千葉県館山市立 北条小学校教諭 石川康浩	休 憩	演習1 「カリキュラム管理のネットワークづくり」	休 憩	課題協議2 「カリキュラム管理体制について」 早稲田大学 教授 野嶋栄一郎
<第2日目> 12月21日 (火)	9:00	10:20	10:30	12:40	13:40			15:50	16:00	17:00
		課題協議3 「カリキュラムの評価と改善について-総合的な学習の時間の評価と改善-」 福岡教育大学 教授 寺尾慎一	休 憩	演習2 「カリキュラムの評価について」	昼 休 み	演習3 「カリキュラムの改善について」			休 憩	演習4 「カリキュラムの開発と経営のまとめ」
<第3日目> 12月22日 (水)	9:00	10:20	10:30	12:00						
		発表・研究協議	休 憩	課題協議4 「研修講師となるために」 大阪教育大学 副学長 長尾彰夫	閉 講 式					

I 研修概要

研 修 名	特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修 (カリキュラム・マネジメント研修) 第2回(中央)							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	各学校において編成されたカリキュラムを評価・改善し、より良いカリキュラムを編成するための必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成17年 2月16日(月)～平成17年 2月18日(水)				3日間			
受 講 人 数	計画人数	105	人	受講者数	130	人	参加率	123.8%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	44	69	5	0	5
		37.3	58.5	4.2	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・「目の前の子どもたちにどんな力をつけるのか」といったことが本当に大切なのだと改めて感じた。 ・カリキュラムの開発、管理、運営、改善のノウハウの一端を知ることができ、大変よかった。 ・ひとりひとりのカリキュラム作成能力のアップが学校の特色、個性化に重要なこと、今後真剣に考えていきたい。 ・カリキュラムの基本的なおさえ、総合の考え方を再度整理できる内容であった。 ・もう少しテーマを具体的なものにしばっていただければ話しやすかった。 ・マネジメントの大切さ、考え方等参考になり、これからの指針みたいなものをいただいたような気がする。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 第2回 特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修
(カリキュラム・マネジメント研修)

日 程 表

<第1日目> 2月16日 (水)	10:00	10:20	10:50	12:10	13:10	14:10	14:30	15:30	15:40	17:00
		受 付	開 講 式	課題協議1 「カリキュラム・マネジメン ト(教育課程の開発と経営) について」 東京学芸大学 教授 児島邦宏	昼 休 み	事例発表 (カリキュラム管理体制につ いての事例発表) 千葉県館山市立 北条小学校教諭 石川康浩	休 憩	演習1 「カリキュラム管理のネ ットワークづくり」	休 憩	課題協議2 「カリキュラム管理体制につ いて」 早稲田大学 教授 野嶋栄一郎
<第2日目> 2月17日 (木)	9:00	10:20	10:30	12:40	13:40			15:50	16:00	17:00
		課題協議3 「カリキュラムの評価と改善 について-総合的な学習の時間の評価と改善-」 福岡教育大学 教授 寺尾慎一	休 憩	演習2 「カリキュラムの評価について」	昼 休 み	演習3 「カリキュラムの改善について」			休 憩	演習4 「カリキュラムの開発と 経営のまとめ」
<第3日目> 2月18日 (金)	9:00	10:20	10:30	12:00						
		発表・研究協議 (小グループの発表、質疑応答)	休 憩	課題協議4 「研修講師となるために」 大阪教育大学 副学長 長尾彰夫	閉 講 式					

I 研修概要

研 修 名	特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修 （「総合的な学習の時間（小学校英語活動）」研修講座）（東部）							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	平成14年度の学習指導要領改訂において「総合的な学習の時間」が創設されるなど、各学校において教育課程を適切に編成し、組織的・計画的に取り組むを行うことが重要である。 特に、小学校の「総合的な学習の時間」において、各学校が国際理解に関する学習の一環としての英語活動を行う場合については、年間活動計画の作成等、小学校段階にふさわしい学習活動ができるよう支援する必要があるため、指導的な立場を担う小学校教員及び教育委員会の指導主事等に対して、基本的な知識や指導方法等を習得させる。							
受 講 対 象	各都道府県等内において指導的立場にある小学校（盲学校、聾学校及び養護学校の小学部を含む）の教員又は教育委員会、教育センター等の指導主事等。							
開 催 期 日	平成16年 8月30日（月）～平成16年 9月 3日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	150	人	受講者数	57	人	参加率	38.0%
開 催 場 所	KKRホテル札幌（北海道札幌市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	46	5	0	0	5
		90.2	9.8	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ 1日目に理論・2日目以降に実践的な内容で大変よかった。特にワークショップは具体的で大変参考になった。
- ・ 具体的な内容の講座で非常に学ぶことが多かった。
- ・ この研修に参加して、さらに英語活動に対しての理念とともに実践上での具体的なアドバイスを受け、今後にいかせることができた。
- ・ 他県との交流もでき、いろいろな情報交換ができて良かった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度
特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修
〔総合的な学習の時間(小学校英語活動)〕研修講座(第2回)日程(札幌市)

会場：KKRホテル札幌

	9:30	12:30	13:00	14:00	14:10	15:30	15:40	17:00																											
8月30日(月)			受付	開講式 【課題協議】 小学校における「英語活動」について	休憩	【課題協議】 小学校英語活動の現状と展望 宮崎大学 教授 影浦 攻	休憩	【課題協議】 英語活動の基本的な理論 宮崎大学 教授 影浦 攻																											
	11:40		13:00			14:30 14:50		16:20																											
8月31日(火)	【課題協議】 年間活動計画の構想・授業の構成 宮崎大学 教授 影浦 攻	昼 休 み	【実践演習】 歌, チャツ, クイズ, ゲームなどの実際 中部学院大学 客員教授 久埜 百合	休憩	【実践演習】 教材・教具の作成の実際 中部学院大学 客員教授 久埜 百合	【事前協議】 ワークショップ打合せ																													
9月1日(水)	<p style="text-align: center;">* 【ワークショップⅠ】 研究協議 実践報告と実践例の紹介 授業の観察 具体的活動例の紹介と体験 意見交換</p> <table border="1" style="width: 100%; margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th colspan="3" style="text-align: center;">グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 60%;">石川県金沢市立南小立野小学校</td> <td style="width: 15%;">教諭</td> <td style="width: 25%;">今井 京</td> </tr> <tr> <td>石川県金沢市教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Cara Mills</td> </tr> <tr> <td>大阪府河内長野市立天野小学校</td> <td>教諭</td> <td>梅本 多</td> </tr> <tr> <td>大阪府河内長野市教育委員会</td> <td>NET</td> <td>Kim Takeda</td> </tr> <tr> <td>宮城県角田市立藤尾小学校</td> <td>教諭</td> <td>横山 直起</td> </tr> <tr> <td>宮城県角田市教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Michael Mankin</td> </tr> <tr> <td>千葉県成田市立成田小学校</td> <td>教諭</td> <td>佐藤 広幸</td> </tr> <tr> <td>千葉県成田市教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Ruka Laladidi</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※第3日目以降における昼食は、概ね11:30～13:30の間に適宜70分程度設けることとする。</p>								グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)			石川県金沢市立南小立野小学校	教諭	今井 京	石川県金沢市教育委員会	ALT	Cara Mills	大阪府河内長野市立天野小学校	教諭	梅本 多	大阪府河内長野市教育委員会	NET	Kim Takeda	宮城県角田市立藤尾小学校	教諭	横山 直起	宮城県角田市教育委員会	ALT	Michael Mankin	千葉県成田市立成田小学校	教諭	佐藤 広幸	千葉県成田市教育委員会	ALT	Ruka Laladidi
グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)																																			
石川県金沢市立南小立野小学校	教諭	今井 京																																	
石川県金沢市教育委員会	ALT	Cara Mills																																	
大阪府河内長野市立天野小学校	教諭	梅本 多																																	
大阪府河内長野市教育委員会	NET	Kim Takeda																																	
宮城県角田市立藤尾小学校	教諭	横山 直起																																	
宮城県角田市教育委員会	ALT	Michael Mankin																																	
千葉県成田市立成田小学校	教諭	佐藤 広幸																																	
千葉県成田市教育委員会	ALT	Ruka Laladidi																																	
9月2日(木)	<p style="text-align: center;">* 【ワークショップⅡ】 単元案の構想 時案の構想 授業実践の準備 意見交換</p>																																		
				14:10	14:30	15:00																													
9月3日(金)	<p style="text-align: center;">* 【ワークショップⅢ】 授業実践 授業実践の反省 意見交換</p>																																		
				休憩	閉講式																														

* 【ワークショップ】は、4つのグループに分かれて実施する。

I 研修概要

研 修 名	特色ある教育課程を円滑にするための指導者の養成を目的とした研修 （「総合的な学習の時間(小学校英語活動)」研修講座）（中部）							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	平成14年度の学習指導要領改訂において「総合的な学習の時間」が創設されるなど、各学校において教育課程を適切に編成し、組織的・計画的に取り組むを行うことが重要である。 特に、小学校の「総合的な学習の時間」において、各学校が国際理解に関する学習の一環として英語活動を行う場合については、年間活動計画の作成等、小学校段階にふさわしい学習活動ができるよう支援する必要があるため、指導的な立場を担う小学校教員及び教育委員会の指導主事等に対して、基本的な知識や指導方法等習得させる。							
受 講 対 象	各都道府県において指導的立場にある小学校（盲学校、聾学校及び養護学校の小学部含む）の教員又は教育委員会、教育センター等の指導主事等							
開 催 期 日	平成16年 6月28日（月）～平成16年 7月 2日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	150	人	受講者数	195	人	参加率	130.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数(人)	割合(%)	128	78.5	33	20.2	1	0.6	1	0.6	15

2. 研修内容に関する主な意見

・英語活動を行う上での必要性、理論、留意点が明確になった。
 ・国の考えている方向性が推察できたことや、全国レベルにおける学校現場の取り組みの状況を知ることができたこと、そしてそれぞれ現場で担当されている先生方と情報交換ができたことやワークショップにおいて講師の先生から実践的なご指導を受けたことなど、貴重な経験をさせていただいた。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度

特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修
 (「総合的な学習の時間(小学校英語活動)」研修講座) (第1回) 日程(つくば市)

	9:30	12:30	13:00	14:00	14:10	15:30	15:40	17:00																																													
6月28日(月)			受付	開講式 【課題協議】 「総合的な学習の時間」と英語活動	休憩	【課題協議】 小学校英語活動の現状と展望 宮崎大学 教授 影浦 攻	休憩	【課題協議】 英語活動の基本的な理論 宮崎大学 教授 影浦 攻																																													
		11:40	13:00			14:30 14:50	16:20																																														
6月29日(火)	【課題協議】 年間活動計画の構想・授業の構成 宮崎大学 教授 影浦 攻	昼休み	【実践演習】 歌, チャット, クイズ, ゲームなどの実際 中部学院大学 客員教授 久埜 百合	休憩	【実践演習】 教材・教具の作成の実際 中部学院大学 客員教授 久埜 百合	【事前協議】 ワークショップ打合せ																																															
6月30日(水)	<p>* 【ワークショップⅠ】 研究協議 実践報告と実践例の紹介 授業の観察 具体的活動例の紹介と体験 意見交換</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3">グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都市総合教育センター</td> <td>指導主事</td> <td>直山 木綿子</td> </tr> <tr> <td>京都市教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Matthew Hirakawa</td> </tr> <tr> <td>佐賀県伊万里市立滝野小学校</td> <td>教諭</td> <td>宗 誠</td> </tr> <tr> <td>佐賀県伊万里市教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Clear Lee</td> </tr> <tr> <td>石川県金沢市立南小立野小学校</td> <td>教諭</td> <td>今井 京</td> </tr> <tr> <td>石川県金沢市教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Anna Wojtalewicz</td> </tr> <tr> <td>大阪府河内長野市立天野小学校</td> <td>教諭</td> <td>梅本 多</td> </tr> <tr> <td>大阪府河内長野市教育委員会</td> <td>NET</td> <td>Kim Takeda</td> </tr> <tr> <td>兵庫県朝来郡和田山町立竹田小学校</td> <td>教諭</td> <td>水田伊都美</td> </tr> <tr> <td>兵庫県朝来郡和田山町教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Sally Shepard</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県川内市立平佐西小学校</td> <td>教諭</td> <td>八巻 充憲</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県川内市教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Michael Kubick</td> </tr> <tr> <td>千葉県成田市立成田小学校</td> <td>教諭</td> <td>佐藤 広幸</td> </tr> <tr> <td>千葉県成田市教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Ruka Laladidi</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3日目以降における昼食は、概ね11:30~13:30の間に適宜70分程度設けることとする。</p>								グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)			京都市総合教育センター	指導主事	直山 木綿子	京都市教育委員会	ALT	Matthew Hirakawa	佐賀県伊万里市立滝野小学校	教諭	宗 誠	佐賀県伊万里市教育委員会	ALT	Clear Lee	石川県金沢市立南小立野小学校	教諭	今井 京	石川県金沢市教育委員会	ALT	Anna Wojtalewicz	大阪府河内長野市立天野小学校	教諭	梅本 多	大阪府河内長野市教育委員会	NET	Kim Takeda	兵庫県朝来郡和田山町立竹田小学校	教諭	水田伊都美	兵庫県朝来郡和田山町教育委員会	ALT	Sally Shepard	鹿児島県川内市立平佐西小学校	教諭	八巻 充憲	鹿児島県川内市教育委員会	ALT	Michael Kubick	千葉県成田市立成田小学校	教諭	佐藤 広幸	千葉県成田市教育委員会	ALT	Ruka Laladidi
グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)																																																					
京都市総合教育センター	指導主事	直山 木綿子																																																			
京都市教育委員会	ALT	Matthew Hirakawa																																																			
佐賀県伊万里市立滝野小学校	教諭	宗 誠																																																			
佐賀県伊万里市教育委員会	ALT	Clear Lee																																																			
石川県金沢市立南小立野小学校	教諭	今井 京																																																			
石川県金沢市教育委員会	ALT	Anna Wojtalewicz																																																			
大阪府河内長野市立天野小学校	教諭	梅本 多																																																			
大阪府河内長野市教育委員会	NET	Kim Takeda																																																			
兵庫県朝来郡和田山町立竹田小学校	教諭	水田伊都美																																																			
兵庫県朝来郡和田山町教育委員会	ALT	Sally Shepard																																																			
鹿児島県川内市立平佐西小学校	教諭	八巻 充憲																																																			
鹿児島県川内市教育委員会	ALT	Michael Kubick																																																			
千葉県成田市立成田小学校	教諭	佐藤 広幸																																																			
千葉県成田市教育委員会	ALT	Ruka Laladidi																																																			
7月1日(木)	<p>* 【ワークショップⅡ】 単元案の構想 時案の構想 授業実践の準備 意見交換</p>																																																				
					14:10 14:30	15:00																																															
7月2日(金)	* 【ワークショップⅢ】 授業実践 授業実践の反省 意見交換			休憩	閉講式																																																

*【ワークショップ】は、7つのグループに分かれて実施する。

I 研修概要

研 修 名	特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修 （「総合的な学習の時間（小学校英語活動）」研修講座）（西部）							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	平成14年度の学習指導要領改訂において「総合的な学習の時間」が創設されるなど、各学校において教育課程を適切に編成し、組織的・計画的に取り組むを行うことが重要である。 特に、小学校の「総合的な学習の時間」において、各学校が国際理解に関する学習の一環としての英語活動を行う場合については、年間活動計画の作成等、小学校段階にふさわしい学習活動ができるよう支援する必要があるため、指導的な立場を担う小学校教員及び教育委員会の指導主事等に対して、基本的な知識や指導方法を習得させる。							
受 講 対 象	各都道府県等内において指導的立場にある小学校（盲学校、聾学校及び養護学校の小学部を含む）の教員又は教育委員会、教育センター等の指導主事等。							
開 催 期 日	平成16年 9月13日（月）～平成16年 9月17日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	150	人	受講者数	146	人	参加率	97.3%
開 催 場 所	ルビノ京都堀川（京都府京都市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	104	19	0	0	8
		84.6	15.4	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・理論と実際両方学べて大変有意義だった。
- ・模擬授業作りで、様々な話し合いをしながら目当てが何かを再確認できた。
- ・自分自身が思っていた英語活動の考えをさらに深め、子どもに教育活動を高めることができいくような力を身につけることができた。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度
特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修
(「総合的な学習の時間(小学校英語活動)」研修講座) (第3回) 日程(京都市)

会場：ルビノ京都堀川

	9:30		12:30	13:00		14:00	14:10		15:30	15:40	17:00																																													
9月13日(月)			受 付	開 講 式 【課題協議】 小学校における「英語活動」について	休 憩	【課題協議】 小学校英語活動の 現状と展望 宮崎大学 教授 影浦 攻		休 憩	【課題協議】 英語活動の基本的な理論 宮崎大学 教授 影浦 攻																																															
		11:40		13:00			14:30 14:50			16:20																																														
9月14日(火)	【課題協議】 年間活動計画の構想・ 授業の構成 宮崎大学 教授 影浦 攻	昼 休 み	【実践演習】 歌、チャンツ、クイズ、ゲーム などの実際 中部学院大学 客員教授 久埜 百合		休 憩	【実践演習】 教材・教具の作成 の実際 中部学院大学 客員教授 久埜 百合		【事前協議】 ワークショ ップ打合せ																																																
9月15日(水)	<p style="text-align: center;">* 【ワークショップⅠ】 研究協議 実践報告と実践例の紹介 授業の観察 具体的活動例の紹介と体験 意見交換</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th colspan="3" style="text-align: center;">グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>兵庫県朝来郡和田山町立竹田小学校</td> <td>教諭</td> <td>水田 伊都美</td> </tr> <tr> <td>兵庫県朝来郡和田山町教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Christopher Murray</td> </tr> <tr> <td>宮城県角田市立藤尾小学校</td> <td>教諭</td> <td>横山 直起</td> </tr> <tr> <td>宮城県角田市教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Michael Mankin</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県川内市立平佐西小学校</td> <td>教諭</td> <td>八巻 充憲</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県川内市教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Michael Kubick</td> </tr> <tr> <td>京都市総合教育センター</td> <td>指導主事</td> <td>直山 木綿子</td> </tr> <tr> <td>京都市教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Daniel Donny Clark</td> </tr> <tr> <td>大阪府河内長野市立天野小学校</td> <td>教諭</td> <td>梅本 多</td> </tr> <tr> <td>大阪府河内長野市教育委員会</td> <td>NET</td> <td>Kim Takeda</td> </tr> <tr> <td>佐賀県伊万里市立滝野小学校</td> <td>教諭</td> <td>宗 誠</td> </tr> <tr> <td>佐賀県伊万里市教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Clear Lee</td> </tr> <tr> <td>石川県金沢市立南小立野小学校</td> <td>教諭</td> <td>今井 京</td> </tr> <tr> <td>石川県金沢市教育委員会</td> <td>ALT</td> <td>Cara Mills</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※第3日目以降における昼食は、概ね11:30～13:30の間に適宜70分程度設けることとする。</p>											グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)			兵庫県朝来郡和田山町立竹田小学校	教諭	水田 伊都美	兵庫県朝来郡和田山町教育委員会	ALT	Christopher Murray	宮城県角田市立藤尾小学校	教諭	横山 直起	宮城県角田市教育委員会	ALT	Michael Mankin	鹿児島県川内市立平佐西小学校	教諭	八巻 充憲	鹿児島県川内市教育委員会	ALT	Michael Kubick	京都市総合教育センター	指導主事	直山 木綿子	京都市教育委員会	ALT	Daniel Donny Clark	大阪府河内長野市立天野小学校	教諭	梅本 多	大阪府河内長野市教育委員会	NET	Kim Takeda	佐賀県伊万里市立滝野小学校	教諭	宗 誠	佐賀県伊万里市教育委員会	ALT	Clear Lee	石川県金沢市立南小立野小学校	教諭	今井 京	石川県金沢市教育委員会	ALT	Cara Mills
グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)																																																								
兵庫県朝来郡和田山町立竹田小学校	教諭	水田 伊都美																																																						
兵庫県朝来郡和田山町教育委員会	ALT	Christopher Murray																																																						
宮城県角田市立藤尾小学校	教諭	横山 直起																																																						
宮城県角田市教育委員会	ALT	Michael Mankin																																																						
鹿児島県川内市立平佐西小学校	教諭	八巻 充憲																																																						
鹿児島県川内市教育委員会	ALT	Michael Kubick																																																						
京都市総合教育センター	指導主事	直山 木綿子																																																						
京都市教育委員会	ALT	Daniel Donny Clark																																																						
大阪府河内長野市立天野小学校	教諭	梅本 多																																																						
大阪府河内長野市教育委員会	NET	Kim Takeda																																																						
佐賀県伊万里市立滝野小学校	教諭	宗 誠																																																						
佐賀県伊万里市教育委員会	ALT	Clear Lee																																																						
石川県金沢市立南小立野小学校	教諭	今井 京																																																						
石川県金沢市教育委員会	ALT	Cara Mills																																																						
9月16日(木)	<p style="text-align: center;">* 【ワークショップⅡ】 単元案の構想 時案の構想 授業実践の準備 意見交換</p>																																																							
						14:10	14:30	15:00																																																
9月17日(金)	<p style="text-align: center;">* 【ワークショップⅢ】 授業実践 授業実践の反省 意見交換</p>																																																							
					休 憩	閉 講 式																																																		

* 【ワークショップ】は、7つのグループに分かれて実施する。

I 研修概要

研 修 名	指導力不足教員に対応するための指導者の養成を目的とした研修 (東日本ブロック)							
担 当 課 係	研修事業第二課 国内短期研修係							
研 修 目 的	指導力不足教員の判断基準、指導力の回復・向上のための研修プログラム等について、必要な知識等を修得させ、各都道府県等において指導力不足教員に対して継続的な指導・研修を円滑に実施するため、担当者の資質の向上を図る。							
受 講 対 象	都道府県教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。							
開 催 期 日	平成17年 1月17日(月)～平成17年 1月19日(水)				3日間			
受 講 人 数	計画人数	139	人	受講者数	123	人	参加率	88.5%
開 催 場 所	フロラシオン青山(東京都港区)							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	34 37.8	50 55.6	6 6.7	0 0.0	11

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・指導力不足教員に対応する施策の実務にも精通した専門家による、一步踏み込んだ講義を期待する。特に法律問題・争訟問題への対応等。 ・指導力不足教員に対する対応だけではなく、その前に学校における指導力不足教員に対する対応として、組織マネジメント的な考え方や進め方についての講義等があると更によい。 ・コーチングスキルを活かした指導力不足教員への対処にかかる研究協議は、とても役立ったので、継続的に研修内容に加えてほしいと思う。 ・事例発表は大変参考になった。今後も是非取り入れてほしい。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度指導力不足教員に対応するための指導者の養成を目的とした研修(東日本地区)日程表

東日本地区(フロラシオン青山)

	9:00	9:30	10:30	11:00	12:00	13:30	14:45	15:00	17:30
1月17日(月)		受付	開講式	(研究協議1) 指導力不足教員指導上の課題 文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課 佐藤 弘毅 課長補佐	昼 休 み	(事例研究1) 個に応じた研修課題の設定と評価方法 京都府総合教育センター 木村 主税 企画教育部長 高知県教育センター 谷内 豪 チーフ 山中 靖 指導主事 国立教育政策研究所 教育研究情報センター 千一布 敏弥 主任研究官	休 憩	(研究協議2) 事例研究のグループ別協議・発表のまとめ 国立教育政策研究所 教育研究情報センター 千一布 敏弥 主任研究官	
1月18日(火)		(講義・協議) 指導力等に課題のある教員の処遇と法律問題・争訟問題等の対応 弁護士 俵 正市		昼 休 み	(研究協議3) 指導力不足教員の現状と課題 東京都教育庁 井出 隆安 人事担当部長	休 憩	(事例研究2) 指導力不足教員の認定基準の設定とその運用方法 広島県教育委員会管理部教職員課 沼崎 清司 小中学校人事係長 枝廣 泰知 管理主事 北九州市教育委員会学務部教職員課 小澤 周三 主幹 緒方 克也 事務吏員 文部科学省初等中等教育局 宮川 保之 視学官	す 事 例 研 究 疑 問 に 対 し て の 講 義 別 表 の 評 価	
1月19日(水)		(講義) 指導力不足教員とのコミュニケーションを改善するために [コーチングスキルを活かした指導力不足教員への対処にかか かる研究協議] PHP研究所経営開発事業本部 星 雄一 取締役	閉 講 式						

I 研修概要

研修名	指導力不足教員に対応するための指導者の養成を目的とした研修 (西日本ブロック)							
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係							
研修目的	指導力不足教員の判断基準、指導力の回復・向上のための研修プログラム等について、必要な知識等を修得させ、各都道府県等において指導力不足教員に対して継続的な指導・研修を円滑に実施するため、担当者の資質の向上を図る。							
受講対象	都道府県教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。							
開催期日	平成17年 1月24日(月)～平成17年 1月26日(水)				3日間			
受講人数	計画人数	136	人	受講者数	104	人	参加率	76.5%
開催場所	梅田スカイビル(大阪市)							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無回答
人数(人)	割合(%)	34 37.8	55 61.1	1 1.1	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・指導力不足教員への対応システムは、どの自治体も立ち上げ運用している段階に入ってきていると思うので、今後は、分限免職、職種変更等、研修終了後に行なう対応の講義があれば、大変参考になると思う。 ・研修担当者と人事担当者に分けて実施した方がより深い内容で研修ができると思われる。 ・大変、有意義な研修であったと思うが、他県の方との交流等の時間がもう少しとれればと思う。 ・特にコーチングの講義は、大変勉強になった。演習も大事であるが、講義も充実してほしい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度指導力不足教員に対応するための指導者の養成を目的とした研修(西日本地区)日程表

西日本地区(梅田スカイビル)

	9:00	9:30	10:30	11:00	12:00	13:30	14:45	15:00	17:30	
1月24日(月)		受付	開講式	(研究協議1) 指導力不足教員指導上の課題 文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課 佐藤 弘毅 課長補佐	昼 休 み	(事例研究1) 個に応じた研修課題の設定と評価方法 宮城県教育研修センター 佐藤 信男 副参事 愛知県総合教育センター 須賀 藤隆 所長 堀田 知人 研究指導主事 国立教育政策研究所 教育研究情報センター 千々布 敏弥 主任研究官	休 憩	(研究協議2) 事例研究のグループ別協議・発表のまとめ 国立教育政策研究所 教育研究情報センター 千々布 敏弥 主任研究官 文部科学省初等中等教育局 宮川 保之 視学官		
1月25日(火)		(講義・協議) 指導力等に課題のある教員の処遇と法律問題・争訟問題等の対応 弁護士 俵 正市		11:30	昼 休 み	(研究協議3) 指導力不足教員の現状と課題 東京都教育庁 井出 隆安 人事担当部長	14:30	14:45	15:00	17:15
							す 事 る 例 質 研 疑 究 応 1 答 に 対 発 グ 表 ル の の 講 プ 評 別	休 憩	(事例研究2) 指導力不足教員の認定基準の設定とその運用方法 富山県教育委員会教職員課 宮口 克志 管理主事 岐阜県教育委員会学校人事課 山本 譲 教育主管 文部科学省初等中等教育局 宮川 保之 視学官	
1月26日(水)		(講義) 指導力不足教員とのコミュニケーションを改善するために [コーチングスキルを活かした指導力不足教員への対処にかかる研究協議] PHP研究所経営開発事業本部 星 雄一 取締役	閉講式	12:00	12:15					

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修（外国語指導助手中間期研修会）							
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識を習得させる。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・招致期間中の全ての外国語指導助手 ・外国語指導助手と同数程度の中学校、高等学校等の担当教員 ・都道府県・指定都市・中核市及び市町村教育委員会の外国語担当指導主事等 							
開 催 期 日	平成16年10月中旬から平成17年1月下旬の間において、概ね3日間の日程で各都道府県教育委員会が定める期間とする。							
受 講 人 数	計画人数	10,000	人	受講者数	11,002	人	参加率	110.0%
開 催 場 所	各都道府県教育委員会において設定する。							

II アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

III 研修日程(プログラム)

各都道府県教育委員会の設定による。

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修（来日直後オリエンテーション）								
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係								
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。								
受 講 対 象	「語学指導等を行う外国青年招致事業」による新規の招致外国青年の中で語学指導に従事する者。及び、再契約する者のうち国際交流員から外国語指導助手への職種変更をする者。								
開 催 期 日	平成16年4月8日(木)						(4月期) 1日間		
	平成16年7月26日(月)～平成16年7月27日(火)						(A日程) 2日間		
	平成16年8月 2日(月)～平成16年8月 3日(火)						(B日程) 2日間		
	平成16年8月19日(木)						(第2次) 1日間		
受 講 人 数	(4月期)	計画人数	10	人	受講者数	11	人	参加率	110.0%
	(A日程)	計画人数	1300	人	受講者数	1458	人	参加率	112.2%
	(B日程)	計画人数	1300	人	受講者数	1173	人	参加率	90.2%
	(第2次)	計画人数	150	人	受講者数	62	人	参加率	41.3%
開 催 場 所	新宿京王プラザホテル ルポール麹町（4月期のみ）								

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった		おおむね有意義だった		あまり意義がなかった		全く無意義だった		無回答
人数(人)	割合(%)	141	37.1	208	54.7	27	7.1	4	1.1	79

2. 研修内容に関する主な意見

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させる
ことを目的とした研修（来日直後オリエンテーション：4月期）日程

月日	時 間	研 修 内 容 等	会 場	備 考
4 月 7 日 (水)		新規来日者 成田空港到着 バス移動 ホテル到着		
4 月 8 日 (木)	10:00~10:30	○開会式	ルポール麹町 (麹町会館) 「ロイヤルクリスタル」(2F)	
	10:30~12:00	文部科学省分科会 ○文部科学省担当官による講義 「日本の学校教育制度及び外国語教育の 現状等」 「外国語指導助手の役割とチーム・ティーチング の基本的な考え方」	同「ガーネット」 (3F)	C I R と は、分かれ て実施。
	13:15~14:00	(昼食) ○日本における中国語教育の現状について ○日本における韓国語教育の現状について		
	14:00~15:55	○先輩ALTからの指導助言等Ⅰ ○先輩ALTからの指導助言等Ⅱ ○質疑応答, 意見交換等 ○担当官によるまとめ		
		○事務連絡 ○取りまとめ団体別ミーティング ○夕食会	同「ロイヤルクリ スタル」(2F)	
4 月 9 日 (金)		取りまとめ団体別国内移動		

平成16年度外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした
研修(外国語指導助手来日直後オリエンテーション日程)

A 日程	B 日程	時 間	項 目		
7 月 26 日 (月)	8 月 2 日 (月)	10:30~11:00	県別オリエンテーション(出席確認・配置先確認, 取りまとめ団体別集会の案内)		
		11:00~11:15	開会式		
		11:15~11:40	JETプログラム概要説明(重要情報)		
		11:40~11:45	AJETプレゼンテーション		
		12:00~13:00	昼 食		
					A L T
		13:00~13:30	文部科学省講義 「外国語指導助手の役割及び チーム・ティーチングの基本的考え方」 “The ALT Role in Foreign Language Education and Basics in Team-Teaching”	13:00~15:00	ALTと別にCLAIRが実施
		13:30~14:00	ALTアドバイザーからの話		
		14:00~15:00	チーム・ティーチングに関するビデオ視聴 「ALTの学校での1日」 “An ALT's Day at School”		
		15:15~	1年目PA・カウンセリングシステムの説明・国籍グループ・ミーティング		
		15:15~	AJET分科会		
			A L T	時 間	C I R
7 月 27 日 (火)	8 月 3 日 (火)	9:00~10:20	ワークショップI 「チーム・ティーチングによる模擬授業と 効果的な授業計画」 “Team-teaching Demonstration and Effective Lesson Planning”	9:00~11:50	ALTと別にCLAIRが実施
		10:20~10:35	休 憩		
		10:35~11:25	ワークショップII 「教材の創造的活用法と言語活動の組み立て」 “Creative Use of Teaching Materials and Designing Language Activities”		
		11:25~11:50	質疑応答		
		12:00~13:00	昼 食 (AJETインフォメーションフェア)		
		13:15~14:00	CLAIRワークショップ1		
		14:15~15:00	CLAIRワークショップ2		
		15:15~16:00	CLAIRワークショップ3		
		16:15~17:00	CLAIRワークショップ4		

平成16年度外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修
(外国語指導助手来日直後オリエンテーション:2次)日程

第2次	時 間	内 容	備 考
8 月 18 日 (水)	終 日	JET参加者の来日	
8 月 19 日 (木)	9:45~10:00	受 付	
	10:00~10:15	開 会 式 ・開会挨拶 ・三省・CLAIR役員等紹介	
	10:20~11:00	CLAIRアナウンスメント	
	11:00~12:20	TOA(経験者インストラクター)プレゼンテーション	
	12:20~12:30	AJETインフォメーション	
	12:30~13:30	昼 食	
	13:30~14:00	文部科学省講義(文部科学省関係官) 「外国語指導助手の役割及びチーム・ティーチングの基本的考え方」 “The ALT Role in Foreign Language Education and Basics in Team-Teaching”	
	14:00~15:15	文部科学省デモンストレーション (文部科学省担当官・ALTアドバイザー) 「チーム・ティーチング についてのデモンストレーション」 文部科学省ALTアドバイザーからの説明 (文部科学省ALTアドバイザー) 「ティーチングプランについて」	
15:15~15:30	ALTアドバイザーとの質疑応答		
15:30~16:30	ビデオプレゼンテーション「An ALT's Day at School」		
16:40~17:10	取りまとめ団体別ミーティング		
18:30~20:00	夕食会		
8 月 20 日 (金)	終 日	取りまとめ団体別国内移動	

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修（外国語指導助手再契約予定者研修会）				
担 当 課 係	研修事業第三課 語学・道徳教育係				
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。				
受 講 対 象	平成16年度に再契約を予定しているALTのうち、再契約が一回目の者。なおA日程、B日程の参加区分については下記のとおりとする。 A日程：滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県・福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県 B日程：北海道・青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・新潟県・山梨県・長野県・静岡県・富山県・石川県・福井県・岐阜県・愛知県・三重県				
開 催 期 日	平成16年6月 2日(水)～平成16年6月 4日(金)			(A日程)	3日間
	平成16年6月14日(月)～平成16年6月16日(水)			(B日程)	3日間
受 講 人 数	計画人数	2,000人	受講者数	(A日程) 954人	参加率 96.4%
			受講者数	(B日程) 974人	
			計	1,928人	
開 催 場 所	A日程：神戸ポートピアホテル（兵庫県）				
	B日程：新宿京王プラザホテル（東京都）				

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

			大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
A日程	人数(人)	割合(%)	154	66.7	75	32.5	1	0.4	1	0.4	4
B日程	人数(人)	割合(%)	153	72.2	53	25.0	5	2.4	1	0.5	0

2. 研修内容に関する主な意見

--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を
修得させることを目的とした研修（再契約予定者研修会：A日程）

期日	時 間	内 容		備 考
6 / 2 (水)	14:00~14:15	開 会 式		
	14:15~14:45	日 程 説 明		
	14:45~16:15	ハ°ネテ°イカッション		
	16:30~17:45	分科会 I		
6 / 3 (木)	9:30~10:50	分科会 II	〔下記20程度のテーマから各自4テーマを選択〕	
	11:10~12:30	分科会 III	1) Audio-visual Aids	
	12:30~14:00	(昼 食)	2) CALL (Computer-assisted Language Learning)	
	14:00~15:20	分科会 IV	3) Classroom Management	
	15:40~17:00	分科会 V	4) Drama in the Classroom	
	18:00~21:00	AJET, 国別, 地域別ミ ーティング°	5) Elementary School Visits 6) Enhancing Students' Motivation 7) Extra-curricular Activities 8) Global Issues in the Foreign Language Classroom 9) Lesson Designing 10) Life as a Second-year ALT 11) Music in the Classroom 12) Phonics and the <i>Ichi Nen Sei</i> 13) Principles of Activity Design 14) Special Needs Education 15) Teaching Adult Classes 16) Teaching at Non-academic Schools 17) Teaching Conversation Strategies 18) Teaching Debate/ Discussion 19) TEFL/TESOL Basic Theory 20) Trading Places など	
6 / 4 (金)	9:15~10:25	CLAIRワークショップ° 1	〔設定する5テーマから各自2テーマを選択〕	
	10:40~11:50	CLAIRワークショップ° 2		
	11:50~12:00	諸注意/質疑応答/ 閉 会 式	(CLAIRによる質疑応答)	

平成16年度外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を
修得させることを目的とした研修（再契約予定者研修会：B日程）

期日	時間	内 容		備 考
6 / 14 (月)	14:00~14:15	開 会 式		ALT ・ CIR ・ SEA (合同)
	14:15~14:45	日 程 説 明		
	14:45~16:15	ハ ^o 初 ^o デ ^o イスカッション		
	16:30~17:45	分科会 I		
6 / 15 (火)	9:30~10:50	分科会 II	〔下記20程度のテーマから各自4テーマを選択〕	A L T
	11:10~12:30	分科会 III	1) Audio-visual Aids 2) CALL (Computer-assisted Language Learning) 3) Classroom Management 4) Drama in the Classroom 5) Education-centre based ALTs 6) Elementary School Visits 7) Enhancing Students' Motivation 8) Extra-curricular Activities 9) Global Issues in the Foreign Language Classroom	
	12:30~14:00	(昼 食)		
	14:00~15:20	分科会 IV		
	15:40~17:00	分科会 V	10) Lesson Designing 11) Life as a Second-year ALT 12) Music in the Classroom 13) Phonics and the <i>Ichi Nen Sei</i> 14) Principles of Activity Design 15) Special Needs Education 16) Teaching Adult Classes 17) Teaching Conversation Strategies 18) Teaching Debate/ Discussion 19) Trading Places 20) Teaching Second Foreign Languages	
	18:00~21:00	AJET, 国別, 地域別 ミーティング		など
6 / 16 (水)	9:15~10:25	CLAIRワークショップ ^o 1	〔設定する5テーマから各自2テーマを選択〕	ALT ・ CIR ・ SEA (合同)
	10:40~11:50	CLAIRワークショップ ^o 2		
	11:50~12:00	諸注意/質疑応答/ 閉 会 式	(CLAIRによる質疑応答)	

I 研修概要

研修名	外国人児童生徒等に対する日本語指導のための指導者の養成を目的とした研修							
担当課係	研修事業第三課 語学・道徳教育係							
研修目的	国際化の進展に伴い、外国人児童生徒の増加及び在留の長期化により帰国児童生徒においても日本語指導が必要な児童生徒が増加していることを踏まえ、学校全体での外国人児童生徒の受入れ、関係機関との連携等について、必要な知識等を修得させ、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 原則として外国人児童生徒等に対する日本語指導等について一定の知識と経験を有する者。							
開催期日	(1回目) 平成16年8月 3日(火)～平成16年8月 6日(金)				4日間			
	(2回目) 平成17年1月17日(月)～平成17年1月19日(水)				3日間			
受講人数	計画人数	155	人	受講者数	(1回目)97 (2回目)47	人	参加率	92.9%
開催場所	(1回目) フォーラムエイト (東京) (2回目) 独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

			大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答				
1回目	人数(人)	割合(%)	39	58.2	27	40.3	1	1.5	0	0.0	18
2回目	人数(人)	割合(%)	22	52.4	19	45.2	1	2.4	0	0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<p>(1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導についての概要がよくわかった。参考にしたい話がたくさん聞いた。 ・班別演習は聞きたいことを直接質問したりして、得るものも多かった。 ・内容が興味深く盛り沢山で、非常に勉強になったが聞き逃したところも多い。あらかじめ印刷した資料があったらもっとよかった。 ・模擬授業をしてみて、他の先生から色々な指摘されたのはよかった。 ・グループで指導案を作ったことにより、どのように授業作りしたらよいかつかめた。 <p>(2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JSLカリキュラムの考え方、手順、教材教具の工夫などが分かり易く解説され、授業イメージが実感できる内容であり大変勉強になった。 ・地域によって指導体制や形態が違うことを改めて認識した。子供の実態に合わせて、指導方法や内容等を弾力的に工夫改善しながら取り組んでいくことの大切さも学んだ。 ・具体的に子供をイメージできる指導案作りができ、とても充実感を感じることができた。 ・JSLができた背景や携わった方のご苦勞を多少なりとも理解することができて良かった。たくさんの実践を持っておられる先生方からの事例をもっとじっくり聞きたかった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導のための指導者の養成を目的とした研修 日 程 表

第1日目

8月3日 (火)	10:00	10:30	11:20	12:35	14:30	14:45	16:45
	受 付	開 講 式	昼 休 み	課題協議1 「外国人児童生徒の背景と日本語指導 -学校全体での受け入れ・指導体制作り、学校外の機関との連携を踏まえて-」 愛知淑徳大学非常勤講師、東海日本語 ネットワーク協議委員 松本一子 〔参考事例 多文化子ども支援ネット 代表 谷口理恵〕	休 憩	事例研究1 「学校全体での受け入れ-指導体制作り・ 学校外の機関との連携実践」 (集住) 大阪府吹田市教育委員会指導主事 西田智子 (財)吹田市国際交流協会主査 桜井圭子 (分散)三重県亀山市教育委員会指導主事 西 秀人 UBJ(きずな・フジシル・日本)会長 伊達エリンドラ幸江	

第2日目

8月4日 (水)	9:00	11:00	11:15	12:15	13:30	15:00	15:15	16:45
	班別演習1 「学校全体での受け入れ-指導体制 作り・学校外の機関との連携の 課題分析・整理、今後の取組み」 ・班別討議、まとめ 愛知淑徳大学非常勤講師 東海日本語ネットワーク協議委員 松本一子 横浜市教育委員会事務局教育課程開発課長 服部信雄	休 憩	班別演習2 「学校全体での受け入れ-指導体制 作り・学校外の機関との連携の 課題分析・整理、今後の取組み」 ・発表、質疑応答、講評 愛知淑徳大学非常勤講師 東海日本語ネットワーク協議委員 松本一子 横浜市教育委員会事務局教育課程開発課長 服部信雄	昼 休 み	課題協議2 「外国人児童生徒への日本語指導 について」 名古屋外国語大学外国語学部教授 日本語教育センター長 中島和子	休 憩	事例研究2 「外国人児童生徒への日本語指導 の実践」 (漢字圏) 大阪府大阪市立豊崎中学校教諭 田中 薫 (その他) 伊賀日本語の会代表・LEC東京 リーガルマインド日本語教師養 成講座専任講師 船見和秀	

第3日目

8月5日 (木)	9:00	10:30	10:45	12:15	13:30	15:00	15:15	16:45
	演習A 「日本語指導の実践(アクティビティ)」 <指導助言者>小・初級班 神奈川県横浜市立いちよう小学校教諭 金子正人 小・中上級班 (母語別コーディネーター) (国語) 千葉大学教育学部教授 寺井正憲 広島県広島市立東浄小学校非常勤講師 須藤とみ糸 (算数) 群馬県大泉町立東小学校教諭 市川昭彦 中・初級班、中・中上級班 (国語) (社)国際日本語普及協会(AJALT) 常務理事 関口明子 (社会) 埼玉県戸田市立戸田中学校教諭 石橋 裕 (数学) 中国帰国者定着促進センター 池上摩希子 (理科) 東京学芸大学附属大泉中学校教諭 赤羽寿夫	休 憩	休 憩	昼 休 み	課題協議3 「JSLカリキュラムについて」 東京学芸大学国際教育センター 助教授 高木光太郎	休 憩	事例研究3 (小学校) 「JSLカリキュラムの実践」 静岡県浜松市立大瀬小学校教諭 近田由紀子 (中学校) 「外国人児童生徒等に対する教科 指導の工夫」 兵庫県神戸市立神戸生田中学校 教諭 榎木一彦	

第4日目

8月6日 (金)	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30
	演習B 「JSLカリキュラムを活用した授業作りについて(アクティビティ)」 <指導助言者> 小学校・国語班: 広島県広島市立東浄小学校非常勤講師 須藤とみ糸 社会班: 神奈川県横浜市立いちよう小学校教諭 金子正人 算数班: 群馬県大泉町立東小学校教諭 市川昭彦 理科班: 江戸川区立瑞江小学校教頭 菅原 修 中学校・国語班: (社)国際日本語普及協会(AJALT) 常務理事 関口明子 社会班: 埼玉県戸田市立戸田中学校教諭 石橋 裕 数学班: 中国帰国者定着促進センター 池上摩希子 理科班: 東京学芸大学附属大泉中学校教諭 赤羽寿夫 アドバイザー: 高木光太郎	休 憩	休 憩	閉 講 式	

平成16年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導のための指導者の養成を目的とした研修
日 程 表

第1日目

1月17日 (月)	10:00 :45 11:00		12:00	13:30	15:00	15:15	17:00
	受 付	開 講 式	課題協議1 「日本語教育の現状と課題」 国立国語研究所 主任研究員 野山 広	昼 食	課題協議2 「日本語指導が必要な児童生徒 に対する日本語教育の指導法－初 期指導から学習活動への力を身に付け る－」 波多野ファミリースクール 大蔵 守久	休 憩	研究協議1 「各学校・地域における指導体制及び日本語指 導の充実のための実践」 【情報交換】 各班で討議 (7名×8班程度)

第2日目

1月18日 (火)	9:00		12:00	13:30	17:00
	演習A 「日本語指導の実践(アクティビティ)」 <指導助言者> JSL協力者から選定		昼 食	演習B-① 「JSLカリキュラムを活用した授業作りについて(アクティビティ)」 <指導助言者> JSL協力者から選定 ※演習Bが①と②になっており、多くの時間を割く理由 ①JSLカリキュラムは国の事業であり普及・啓発が重要である ②授業案を1つ作り、それを試し、改善する ③授業案を2つ作るなど複数個作成する ④授業案の作成の早い班は②、③の両方とも行う	

第3日目

1月19日 (水)	9:00		11:00	12:30	14:30	15:00
	演習B-② 「JSLカリキュラムを活用した授業づくりにつ いて(アクティビティ)」 JSL協力者から選定		昼 食	研究協議2 「JSLカリキュラムを活用した授業づくりにつ いて(アクティビティ)」に関する研究協議 【演習Bの報告】	閉 講 式	

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の心身の健康問題に対応するための指導者の養成を目的とした研修							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	各都道府県、指定都市及び中核市において児童生徒の心身の健康問題を担当する指導主事及び養護教諭等に対し、保健室登校、性の逸脱行動、薬物乱用等の課題への対応及び健康相談活動等について、必要な知識や技術の習得を図るとともに、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の養護教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修での講師等の活動を行う予定である者等							
開 催 期 日	平成16年11月9日(火)～平成16年11月12日(金)				4日間			
受 講 人 数	計画人数	275	人	受講者数	234	人	参加率	85.1%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	87	99	2	0	27
		46.3	52.7	1.1	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・今回の研修に参加し、多くのことを吸収できたのではないかと感じている。生徒との対応に追われる日々だが、生徒も養護教諭もゆとりをもち、良い方向に進んでいけるよう、研修で得たものを活用していきたいと思う。

・新しい知識や手法が聞けたのでよかった。普段は日常の学校と家だけの往復の生活だけで学習の場がほとんどない上に、問題の生徒はどんどん増えてくる。専門の方の講義を聴きながら具体的な生徒の顔が浮かんできて、学校へ戻ったら、この生徒にはこう対応してみよう、この生徒については教員とこんな検討をしてみようという具体的な方針が立ったものもあった。家庭とは切り離され、時間的ゆとりもあったため、改めて自分の仕事の意味や立場、直面する生徒の問題を整理する機会になった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 児童生徒の心身の健康問題に対応するための指導者の養成を目的とした研修 日程一覧

	9:30	10:00	10:15	11:45	12:45	13:40	13:50	15:10	15:20	16:40	17:00
11月9日 火	会場	受付	開講式	演習1 「健康教育の進め方と実際」 ～学校・家庭・地域との連携～ 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田 芳雄	昼食 休憩	演習2 「学校保健統計に見る 児童生徒の健康課題と その対応」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 専門官 岩崎 容子	休憩	演習3 「現代的健康課題へ の対応に向けた健康 教育の推進と 養護教諭の役割」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江	休憩	演習4 「学校環境衛生基準 の改訂と対応」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 鬼頭 英明	オリエンテーション

(Aコース) 総合研修

	9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	14:10	14:20	17:00
11月10日 水	会場	演習A-1 「非常災害時における 子どもの心のケアと 養護教諭の役割」 聖マリアンナ医学研究所 副所長 藤森 和美	休憩	演習A-2 「学校におけるアレルギー 疾患の管理と指導」 独立行政法人国立病院機構 福岡病院 病院長 西間 三馨	昼食 休憩	演習A-3 「心臓病・腎臓病・ 糖尿病等を有する 児童生徒の健康 管理のポイント」 東京大学大学院 教授 衛藤 隆	休憩	演習A-4 【課題別研究協議事例研究】 1:「保健指導・保健学習・総合的な学習の時間の実際」 講師:兵庫教育大学 教授 西岡 伸紀 2:「心身の保健管理の在り方」 講師:鈴鹿国際大学短期大学部 教授 辻 立世 文部科学省 健康教育調査官 鬼頭 英明 3:「学校保健委員会活性化のための組織及び運営の工夫」 講師:文部科学省 健康教育調査官 采女 智津江

	9:00	12:00	13:00	14:30	14:50	17:00
11月11日 木	会場	演習A-5 「保健学習の考え方・進め方の実際」 小学校部会 講師:筑波大学 助教授 野津 有司 中学校部会 講師:宇都宮大学 教授 和唐 正勝 高等学校部会 講師:千葉大学 教授 高橋 浩之	昼食 休憩	演習A-6 「学校における事件事故に おける危機管理」 －養護教諭の視点からの 対応の在り方、進め方－ 東京学芸大学 助教授 渡邊 正樹	休憩	演習A-7 「学校における性教育の課題と対応」 京都大学大学院 助教授 木原 雅子

	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:00	
11月12日 金	会場	演習A-8 「感染症の新たな課題への 対応」 －結核等を中心に－ 独立行政法人国立病院機構 東埼玉病院 医長 米丸 亮	休憩	演習A-9 「青少年における薬物乱用の 課題と対応」 国立精神・神経センター 精神保健研究所 薬物依存研究部長 和田 清	昼食 休憩	※ 研修講師となるために 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江	閉講式

※「研修講師となるために」はA B両コース共通で行います。

(Bコース) 健康相談活動研修

11月10日 水	9:00	12:00	13:00	14:10	14:30	17:00
	演習B-1 「学校教育におけるカウンセリングの活用」 十文字学園女子大学 助教授 綿井 雅 康	昼 食 休 憩	演習B-2 「健康相談活動の理解と実際」 文部科学省 健康教育調査官 采女 智津江	休 憩	演習B-3 「児童生徒の心の健康問題への対応」 京都大学 教授 十 一 元 三	会場

11月11日 木	9:00	12:00	13:00	17:00
	演習B-4 「児童生徒の心の発達と課題への対応」 東京福祉大学 教授 手 島 茂 樹	昼 食 休 憩	演習B-5 「健康相談活動の事例研究の進め方」 小学校部会 九州女子短期大学 教授 鈴木 美智子 中学校部会 宮城大学 特任助教授 門間 純子 高等学校部会 岩手看護短期大学 非常勤講師 松野 智子	会場

11月12日 金	9:00	12:00	13:00	14:00
	演習B-6 「健康相談活動演習」 第1班：世田谷区立砧南中学校 養護教諭 中村 泰子 第2班：川口市立南中学校 養護教諭 村木 久美江 第3班：千葉大学 助教授 塩田 瑠美 第4班：福島県立磐城桜が丘高等学校 養護教諭 笹原 和子	昼 食 休 憩	研修講師となるために [※] 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江	閉講式

※「研修講師となるために」はA B両コース共通で行います。

I 研修概要

研 修 名	健康教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 (健康教育指導者中央研修会)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	エイズ患者及び感染症の増加、喫煙・飲酒の低年齢化、アレルギー疾患の増加等課題となっている中で、児童生徒の健康に関する主要課題への理解と適切な対応が求められていることを踏まえ、学校での健康教育の全体計画の作成、各課題への適切な対応と指導等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成16年11月24日（水）～平成16年11月26日（金）			3日間				
受 講 人 数	計画人数	210	人	受講者数	172	人	参加率	81.9%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	26	103	13	1	23
		18.2	72.0	9.1	0.7	

2. 研修内容に関する主な意見

・講師のすばらしい話を聞いていく中で漠然としていた健康教育が見えてくるとともに、その必要性を改めて認識できた研修会だった。一教員として、保健主事として自分にはやるべき事がたくさんあることも気づきました。小中高それぞれの健康課題の違いも実感できた。先生方との意見交換では共通する悩みや今まで思いもつかなかった他県の取り組みを知ることが出来たことに大変満足している。

・今まで行ってきた健康教育について改めて見直す機会となった。健康教育を行う目的意識の向上や、ともすれば一方的な知識の伝達形式になりやすかった技法から演習を取り入れた活動方法によって対象者自身の自覚を高め、行動変容につなげていくなどとても参考になり、今後は是非実践したいと思った。今回の研修で健康教育を企画の段階からいろいろ工夫し、総括的視点から進めてみたいという勇気ももらいました。

・健康教育の大切さはわかっているが、普段からの取り組みをきちんとやっていたと反省した。時間的に健康教育への取り組みを重点的にやっていくことは厳しい面もあるが本研修で学んだことを校内、地域、他の先生方へ少しでも伝えて行ければと思っている。健康教育は、今の子ども達にとって重要な課題であるという認識が深まった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 健康教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 日程一覧

会場：教員研修センター

会場	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	15:00	15:10	17:00
11月24日(水)	第2研修棟2階	受付	開会式	演習1 「学校全体での指導の進め方」 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田 芳雄	昼食・休憩	演習2 「健康に影響する課題への対応と指導」 ～学校環境衛生とシックハウス 症候群の理解～ 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育企画室 健康教育調査官 鬼頭 英明	休憩	演習3 「健康に影響する課題への対応と指導」 ～心の健康問題～ 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育企画室 健康教育調査官 采女 智津江

会場	9:00	10:00	10:30	12:00	13:00	15:30	15:40	17:00	
11月25日(木)	第2研修棟2階	受付	演習4 「健康に影響する課題への対応と指導」 ～アレルギー疾患の理解～ 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 専門官 岩崎 容子	休憩	演習5 「健康に影響する課題への対応と指導」 ～MDMA等の薬物乱用防止～ 兵庫教育大学 教授 勝野 眞吾	昼食・休憩	演習6 「健康に影響する課題への対応と指導」 ～性教育・エイズ教育～ 京都大学 助教授 木原 雅子	休憩	演習7 「健康に影響する課題への対応と指導」 ～新たな感染症の理解～ 国立感染症研究所感染症情報センター 第三室長 多屋 馨子

会場	9:00	12:00	13:00	14:00	
11月26日(金)	受付	演習8 「健康に影響する課題への対応と指導」 ～低年齢からの喫煙、飲酒～ 【小学校部会】 神戸大学 教授 川畑 徹朗 【中学校・高等学校部会】 兵庫教育大学 教授 西岡 伸紀 ・会場 【小学校部会】プレゼンテーションルーム 【中・高校部会】第2研修棟2階	昼食・休憩	演習9 「健康行動の醸成、各課題への対処 能力の育成に関する効果的な指導の 普及に向けた研修プログラムづくり」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育企画室 健康教育調査官 鬼頭 英明 ・会場 講堂棟	閉会

I 研修概要

研 修 名	健康教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 (エイズ・薬物乱用防止教育研修会)						
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係						
研 修 目 的	エイズに関する正しい知識の普及を図り、エイズ教育の推進についての理解を促す。 また、学校における薬物乱用防止教育の一層の充実を図るため、薬物乱用防止教育についての理解を深めるための研修を行う。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修等を行う予定である者等						
開 催 期 日	平成16年 5月26日 (水) ~平成16年 5月27日 (木)				2日間		
受 講 人 数	計画人数	250	人	受講者数	224	参加率	89.6%
開 催 場 所	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	27	59	3	0	19
		30.3	66.3	3.4	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・薬物乱用防止教育において、知識の修得させるだけでなく、その「知識をどのように活用していくのか」の活用していく能力を身につけさせる事まで考えていくことの大切さを改めて感じた。
・国や都道府県の取り組みに接し、自分自身もしっかり考え、準備をして指導していかなければと再認識しました。また、性教育に対しての考え方、指導に新しい方向（学校としての性教育）が見えたように思った。伝え方についても違う面を知ることが出来た。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 健康教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 日程一覧
(エイズ・薬物乱用防止教育研修会)

	9:15	9:45	10:00	10:30	12:30	13:30	14:30	15:00	16:00	17:00
5月26日(水)	受付	開 会 式	課題協議 「エイズ教育・性教育を 取り巻く状況について」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課専門官 大竹輝臣 【衛星配信予定】	実践発表 「エイズ教育・性教育の模擬授業」 (発表者) ① 千葉県立四街道高等学校 教諭 赤澤 宏治 ② 愛媛県西条市立大町小学校 教諭 佐伯まなみ・鈴木弘美 (指導助言者) 田能村教育研究所 所長 田能村裕麒	昼 食	演習等1 「学校におけるエイズ教育の 改善とその実践上の問題点」 田能村教育問題研究所 所長 田能村 裕麒 【衛星配信予定】	休 憩	演習等2 「STDとしてのエイズを 教育の中でどう取扱うべきか」 国立国際医療センター 臨床研究開発部長 岡 慎一 【衛星配信予定】	意見・情報交換 セッション	
会場			独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際会議室							

	9:30	10:00	11:30	12:45	14:15	14:35	16:05	16:30
5月27日(木)	受付	演習等3 「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育について」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 鬼頭 英明 【衛星配信予定】	昼 食	演習等4 「喫煙防止にかかわる 意志決定と行動選択」 神戸大学 発達科学部 教授 川 畑 徹 朗 【衛星配信予定】	休 憩	演習等5 「未成年による飲酒と健康」 久里浜アルコール症センター 副院長 樋口 進 【衛星配信予定】	意見・情報交換 セッション	閉 会 式
会場		独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際会議室						

※ 課題協議及び演習等1～5は、平成16年7月7日(水)にエル・ネットを活用した衛星配信研修として配信する予定。
(各都道府県内における受信・再配信計画については、各都道府県教育委員会の本研修会担当課にご確認願います。)

I 研修概要

研 修 名	食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修 (学校栄養職員等研修会)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	栄養教諭制度の創設を踏まえ、各都道府県等における食に関する指導の体制の整備、食に関する指導の充実に資するように、各地域で学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。							
受 講 対 象	本研修の参加者は、今後、各地域において教育職員免許法附則第18項等に基づいて学校栄養職員が栄養教諭免許状を取得する際に必要な単位の修得の機会として開催される講習(栄養教育実習含む)の講師など、本研修受講後に各地域で小・中学校等の学校栄養職員を対象とした食に関する指導についての研修の企画立案・実施、当該研修での講師等の活動を行うことが予定される者で、下記のいずれかに該当する者とする。 ①都道府県、指定都市、中核市教育委員会の食に関する指導を担当する者(指導主事、学校栄養職員経験者等) ②都道府県、指定都市、中核市教育委員会の教育センターにおいて食に関する指導についての研修等を担当する指導主事等 ③学校栄養職員で各地域の食に関する指導についての研修の講師等の活動が予定されている者							
開 催 期 日	平成16年 9月27日(月)～平成16年10月 1日(金)			5日間				
受 講 人 数	計画人数	200	人	受講者数	174	人	参加率	87.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数(人)	割合(%)	52	35.9	87	60.0	6	4.1	0	0.0	14

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・学校栄養職員皆さんの栄養教諭に対する情熱、それを指導される方達の熱い思い入れを肌で感じとても感激した。食育が小中学校の中でいきづき、健康ですくすく育つため、給食の存在は大変重要であり、家庭も含めた健康作りと食文化の伝承に寄与していることを再認識した。研修の内容は演習が多く、すぐ実践できるように工夫されていたので身に付いた。5日間の長い研修と思っていましたが、むしろ時間が足りないと感じました。</p> <p>・今後、栄養教諭の課程認定の申請が通ったあかつきには、ぜひ、今回の演習内容や演習のやり方などを参考にしていきたいと思った。また、その前に自分にはやるべき課題がたくさんあることに気づかされ、とても良い勉強の機会となった。また、栄養士の使命を再認識した。栄養教諭として働く姿勢を持った学生の養成に努め、ひいては児童生徒の健康教育に寄与できるよう、頑張りたいと思った。</p> <p>・今年度から演習形式で行われると聞いて、不安がありましたが、小グループでの協議情報交換ということで各県の取り組みや状況についてより細かな部分まで質問ができ大変参考となった。栄養教諭となるために求められることは多く、問題は山積みですが、今研修の内容を他の栄養職員に伝え、ともに前進できたらと思いました。</p>
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修 日程一覧

	10:00	10:45	11:00	12:00	13:00	14:50	15:10	17:00
9月27日(月)	受付	開会式	演習 「栄養教諭の全体像 ～職務内容、使命、役割～」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育企画室長 宮内 健二	昼休 食憩	演習 「児童生徒の食の現状と実態把握・ 活用の方法」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課学校給食調査官 金田 雅代	休憩	演習 「生活科、総合的な学習の時間 における食に関する指導」 岐阜大学 教授 北 俊夫	
会場	教員研修センター(つくば)							

	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:10	17:00
9月28日(火)	受付	演習 「食物アレルギー、肥満傾向等の 個別指導の在り方①」 神奈川県立保健福祉大学 教授 中村 丁次 発表：岐阜県関市 学校給食センター 学校栄養職員 土屋ひろ子 岐阜県教育委員会スポーツ課 課長補佐 清水 俊光	休憩	演習 「食物アレルギー、肥満傾向等の 個別指導の在り方②」 神奈川県立保健福祉大学 教授 中村 丁次 発表：岐阜県関市 学校給食センター 学校栄養職員 土屋ひろ子 岐阜県教育委員会スポーツ課 課長補佐 清水 俊光	昼休 食憩	演習 「学校・家庭が連携した食に関する 指導」 発表：高知県教育委員会児童生徒支援課 指導主事 甲 藤 温子	休憩	演習 「学校・地域(保健所、保健セン ター、食生活改善推進委員会等) が連携した食に関する指導」 発表：高知県教育委員会児童生徒支援課 指導主事 甲 藤 温子
会場	教員研修センター(つくば)							

	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:10	17:00
9月29日(水)	受付	演習 「学校全体で取り組む食に関する 指導にかかる全体的な指導計画の 作成」 北海道教育庁スポーツ健康教育課 主査 田中 延子	休憩	演習 「給食の時間における 食に関する指導」 愛知県設楽町立設楽中学校 加藤和代 愛知県教育委員会健康学習課 主任主査 上原 正子	昼休 食憩	演習 「食生活学習教材・食に関する 指導参考資料を活用した食に 関する指導 ①」 三重県教育委員会 研修主事 岡山邦枝 三重県教育委員会 主査 吉川澄子 新潟県教育委員会保健体育課 主査 渡辺久美子	休憩	演習 「食生活学習教材・食に関する 指導参考資料を活用した食に 関する指導 ②」 三重県教育委員会 研修主事 岡山邦枝 三重県教育委員会 主査 吉川澄子 新潟県教育委員会保健体育課 主査 渡辺久美子
会場	教員研修センター(つくば)							

	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:10	17:00
9月30日(木)	受付	演習 「家庭科、技術・家庭科における 食に関する指導」 札幌市立北園小学校 学校栄養職員 向井ひとみ	休憩	演習 「体育科・保健体育科における 食に関する指導」 群馬県教育委員会スポーツ健康課 主幹 神戸 美恵子	昼休 食憩	演習 「日本の食文化と学校給食」 徳島大学 教授 山本 茂	休憩	演習 「道徳、特別活動における 食に関する指導」 日本体育大学 教授 成田 國英
会場	教員研修センター(つくば)							

	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	15:00	
10月1日(金)	受付	演習 「<食に関する指導> 各教科、道徳、特別活動、 総合的な学習の時間等 の模擬授業 ①」	休憩	演習 「<食に関する指導> 各教科、道徳、特別活動、 総合的な学習の時間等 の模擬授業 ②」	昼休 食憩	演習 「<食に関する指導> 各教科、道徳、特別活動、 総合的な学習の時間等 の模擬授業への総合批評」 -質問・意見-	閉会式
会場	教員研修センター(つくば)						

I 研修概要

研 修 名	食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修 (衛生管理研修会)					
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係					
研 修 目 的	近年、腸管出血性大腸菌O157等による大規模な食中毒が発生しており、学校給食において、その防止対策等について各学校給食実施校等まで確実に周知徹底を図ることが喫緊の課題である。このため、学校給食関係者を対象とした学校給食における衛生管理の推進に係る研修会を行う。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、中等教育学校(前期課程)の食の指導関係者であって、各地域で本研修を踏まえた研修等を行う予定である者等					
開 催 期 日	平成16年 5月14日 (金)				1 日間	
受 講 人 数	計画人数	110 人	受講者数	123 人	参加率	111.8%
開 催 場 所	財団法人日本青年館					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	57 60.6	36 38.3	1 1.1	0 0.0	6

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・食中毒があった県からの直接の説明は非常に良かった。調理員の健康管理の大切さも痛感した。 ・具体的な解説等があり、実際現場ですべきことを痛感しました。また、やるべきことと整えられないことを区別し、少しでも理想の給食を提供して行けたらと思います。 ・食中毒、感染症の事件事例を聞く度に胸が痛い。食品衛生は常に基本が重要だと痛感している。事例発表の説明が良かった。熱意が伝わりました。 ・実践発表は大変参考になりました。起こしてはならないことですが、その教訓を調理員に伝える必要性を感じました。報告書等で読む以上のインパクトが伝わってきました。研修会の中で事例として取り入れていきたいと考えています。 ・文部科学省の調査官から最新の課題についての対策の講義があり、その内容について県内の研修会等で周知徹底を図りたい。 ・県内の衛生管理指導をしていくにあたり何をポイントにするか、自分自身不安に感じていたことが今回の研修である程度つかめたように思う。今後は研修の方法等見直しも必要かなと感じた。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修 日程一覧
(衛生管理研修会)

		9:30	10:00	10:15	11:45	12:45	13:45	14:00	15:00	15:10	16:50	17:00	
5 月 14 日 (金)	受 付	開 会 式			昼 食	休 憩			休 憩	閉 会 式			
	会場	財団法人 日本青年館 中ホール											
		課題協議 1 「衛生管理の徹底を図るための 学校給食実施者の責務」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 金田雅代 【衛星配信予定】			課題協議 2 「定期、臨時及び日常の衛 生検査について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 鬼頭英明 【衛星配信予定】			実践発表 「ノロウイルス食中毒 発生の経緯と教訓」 ① 北海道教育庁スポーツ健康教育課 主査 田中延子 ② 鹿児島県教育庁保健体育課 技術主査 飛松佳子			研究協議 4グループに分かれて研究協議		

※ 課題協議については、平成16年7月12日(月)にエル・ネットを活用した衛星配信研修として配信する予定。
 (各都道府県内における受信については、各都道府県教育委員会の本研修会担当課にご確認願います。)

I 研修概要

研修名	各地域における学校安全の基盤となる指導者の養成を目的とした研修 (第1回)							
担当課係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研修目的	各学校における交通安全教育及び防災教育・災害時の心の健康に関する教員等の研修を行い、安全教育指導者の資質の向上を図り、もって学校安全の充実に資する。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修等を行う予定である者等							
開催期日	平成16年 6月 1日 (火) ~平成16年 6月 4日 (金)				4日間			
受講人数	計画人数	※215	人	受講者数	※358	人	参加率	166.5%
開催場所	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター、足立区立千寿小学校 他							

※計画人数及び受講者数は第1回、第2回合計した人数。なお、第1回における受講者数は358人中141人。

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無回答
人数 (人)	割合 (%)	45	86	2	0	3
		33.8	64.7	1.5	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・学校の安全管理、特に不審者等の侵入に対するマニュアル作成や訓練、事後の心のケアの問題等、より具体的な内容で講義、演習(実演)等をしていただき、大変わかりやすくありがたかった。今後の業務に大いに役立てていきたい。

・学校の実際の防犯訓練を見学することが出来て大変良かった。受け入れの学校は大変だと思うが、是非次年度もお願いしたい。

・学校安全については様々な事件・事故が起こっている現在では最重要課題であると再認識した。児童生徒の命に関わることなので十分指導していきたい。

・危険予測学習の進め方が大変良い勉強になった。事故事件を未然に防ぐ能力の育成法、安全教育の原点だと思われる。今回学んだことを先ずクラスの子ども達を通してその成果を見ていきたい。

・現場を離れ、学校安全についてのみ考えることが出来たこの4日間はとても意味のあるものだった。講義だけでなく演習実技などもあり、体験的活動を通して自らの課題と比較しながら意欲的に参加することができた。私達大人も子どもと同様に日々学ぶことが大切であると思った。また機会があれば是非参加したい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度第1回各地域における学校安全の基盤となる指導者の養成を目的とした研修(旧学校安全教育指導者研修会) 日程一覧

	会場	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:50	15:00	17:00
6月1日(火)	全体会	国際交流棟	国際会議室	受付	開会式	講義・演習 「学校における安全教育・安全管理の考え方、進め方と方法等」 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田芳雄 【衛星配信予定】	昼休憩 食	講義・演習 「学校への不審者侵入と子どもの犯罪被害防止の対応の方法」 関西福祉科学大学 教授 南哲 【衛星配信予定】	演習 「学校における危機管理マニュアルの作成と防犯避難訓練実施のポイント」 島根県三刀屋町立三刀屋小学校 校長 木次勝義 【衛星配信予定】

	会場	9:30	10:45	11:00	12:30	13:30	17:00	
6月2日(水)	全体会	足立区立千寿小学校	受付	講義・演習 「事件・事故時における子どもの心の健康」 いわたにクリニック 牛島定信	休憩	演習 「防犯避難訓練の計画と実施」 足立区立千寿小学校 校長 林正樹 千住警察署 生活安全課長 長島秋夫	昼休憩 食	講義・演習(実技) 「事件・事故時の応急手当 ～止血法・心肺蘇生法等～」 日本赤十字社 救急指導員(20名)

	部会	会場	9:30	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
6月3日(木)	幼小	センター棟 403	受付	講義・演習 <幼稚園・小学校部会> 「危険予測学習の進め方」 (財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石毛昭治 静岡県教育委員会青少年課 指導主事 桜井祥行	昼休憩 食	演習(実技) 「自転車の特性と実技指導の進め方」 (財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石毛昭治 (財)日本サイクリング協会 業務第一部長 竹之下守他 指導員7名		
	中	センター棟 409	受付	講義・演習 <中学校部会> 「危険予測学習の進め方」 広島国際大学 助教授 小川和久 神奈川県教育庁教育部保健体育課 指導主事 大石進		演習(実技) 「自転車の特性と安全指導」 日本大学 教授 岡野道治 (社)全国二輪車安全普及協会 指導員		
	高	明治公園 スズメ園七	受付	演習(実技) <高等学校部会> 「自転車の特性と安全指導」 日本大学 教授 岡野道治 (社)全国二輪車安全普及協会 指導員		演習 「自転車の実技指導の進め方」 (財)日本交通安全教育普及協会 主幹 小池敏男		

	部会	9:30	11:00	11:15	15:30	15:45		
6月4日(金)	幼小	国際交流棟	受付	講義・演習 「判例に見る学校事故の責任と補償」 千葉大学 教授 小賀野晶一	休憩 移動	研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での安全教育の進め方」 発表者 防犯・生活安全 福岡県学校法人高杉学園吉塚幼稚園 教頭 高杉洋史 指導 聖徳大学短期大学部 助教授 湯川秀樹 交通安全 東京都文京区立柳町幼稚園長 永井由利子 助言 東京都江東区立元加賀幼稚園長 原本憲子	閉会	
				会場 センター棟 415		研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での安全教育の進め方」 発表者 防犯・生活安全 神奈川県清川村立緑小学校 教頭 藤本弘 指導 東京学芸大学 助教授 渡邊正樹 交通安全 山形市立南沼原小学校 教諭 高野隆弘 助言 岡山県教育委員会保健体育課 坂根清貴		閉会
				会場 国際交流棟 第2ミーティングルーム		研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での安全教育の進め方」 発表者 防犯・生活安全 大阪府熊取町立熊取中学校長 周参見行雄 指導 順正短期大学 講師 中園伸二 同 教諭 吉田茂昭 助言 千葉県教育庁学校保健課 指導主事 大島千明		
				会場 国際交流棟 国際会議室		研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での安全教育の進め方」 発表者 防犯・生活安全 広島県立高宮高等学校 教諭 中丸和宜 指導 武蔵丘短期大学 教授 齋藤口能 交通安全 栃木県立佐野松岡高等学校 教諭 宮原てい 助言 茨城県立鹿島高等学校 教頭 仲澤進		閉会
高	会場 国際交流棟 国際会議室	会場 センター棟 513						

I 研修概要

研修名	各地域における学校安全の基盤となる指導者の養成を目的とした研修 (第2回)							
担当課係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研修目的	近年の学校や地域における地震・気象災害による被害、犯罪件数の増加にともなう凶悪犯の増加など、学校における子どもの安全が危機的な状況にあることを踏まえ、学校全体の安全活動の進め方、安全管理の在り方等について、必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開催期日	平成17年 1月20日(木)～平成17年 1月21日(金)				2日間			
受講人数	計画人数	※215	人	受講者数	※358	人	参加率	166.5%
開催場所	神戸国際会議場、人と防災未来センター 他							

※計画人数及び受講者数は第1回、第2回合計した人数。なお、第2回における受講者数は358人中217人。

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無回答
人数(人)	割合(%)	117	93	7	0	0
		53.9	42.9	3.2	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・特に子どもの側に立った、役立つ、楽しい防災訓練、安全教育という視点をいただき、今後自校に戻って校区や児童の実態にあった計画実践をしていきたいと思った。

・教員としての自然災害への取り組み意識が大きく変えられた。そして責任の大きさを様々な面で知らされることとなった(防災教育を日常に持ち込む、避難所経営、被害者の心のケア等、日常からの地域住民との関係強化)。少しずつでも今後に生かせるように努力していきたいと思った。

・防災教育＝避難訓練というイメージが強かったが、防災教育から人間を育成することにつながることを、未来を担う若者には防災教育が必要なこと、たくさんのことを学びとても有意義な研修だった。災害はいつでも誰にでもどこでも起こりえることを自覚し、生徒にも伝えていきたいと思った。

・教育復興担当教員として今後の取り組みと課題は何なのかを研修を受けることで明確にすることが出来た。今後、何時発生するか分からない災害(人的災害も含む)に対する「心のケア」の在り方、“教師として出来ること”“教師としてしなければならないこと”“教師でしかできないこと”がよく分かった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度 各地域における学校安全の基盤となる指導者の養成を目的とした研修 日程一覧

	9:30	9:50	10:10	11:00	11:05	12:35	13:40	15:10	15:30	17:00	
1月20日(木)	受付	開会式	講義・演習1	講義・演習2	昼食・休憩	講義・演習3	講義・演習4				
			「学校における防災教育の進め方」 文部科学省 スポーツ・青少年局 体育官 戸田 芳雄	「気象災害による災害の危険と安全確保の方法」 NHK放送用語委員会 専門委員 宮澤 清治		「地震による災害の危険と安全確保の方法」 京都大学 教授 林 春 男	「総合的な学習の時間における防災教育の進め方」 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘				
			・会場「神戸国際会議場」			・会場「神戸国際会議場」					

	9:30	10:00	12:00	13:30	15:00
1月21日(金)	受付	実践発表・研究協議	昼食・休憩	フィールドワーク	
		「家庭、地域社会と連携した学校における効果的な防災教育・安全活動の進め方」 ・幼稚園部会(会場：人と防災未来センター) 発表者 岡山県山陽町立双葉幼稚園長 岡本美枝 神戸市立東灘のぞみ幼稚園教諭 吉村乃子 指導助言者 聖徳大学短期大学部助教授 湯川秀樹 ・小学校部会(会場：JICA兵庫国際センター) 発表者 高知県高知市立浦戸小学校長 市川典子 兵庫県豊岡市立港東小学校教諭 古橋 衛 原田正己 指導助言者 東京学芸大学 教授 渡邊正樹 ・中学校部会(会場：ひょうご国際プラザ) 発表者 埼玉県八潮市立八潮中学校教諭 飯塚鉦二郎 神戸市立鶴台中学校教頭 濱田昇明 指導助言者 兵庫教育大学 教授 西岡伸紀		・高等学校部会(会場：JICA兵庫国際センター) 発表者 静岡県教育委員会指導主事 御宿正士 兵庫県立舞子高等学校教諭 諏訪清二 指導助言者 武蔵丘短期大学 教授 齋藤 能 ・心のケア部会(会場：兵庫県立美術館-芸術の館-) コーディネーター 近畿大学 名誉教授 花田雅憲 パネリスト 兵庫県臨床心理士会副会長 馬殿禮子 文部科学省スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女智津江 北海道新冠町立美宇小学校長 清水長男 兵庫県西宮市立広田小学校教諭 神田英幸	
・会場：各部会会場参照			・会場「人と防災未来センター」		

I 研修概要

研 修 名	産業教育、理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修（産業教育） （教職員派遣研修（産業教育））							
担 当 課 係	研修事業第二課 海外派遣研修係							
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、産業教育・理科教育に関して優れた自主的調査研究課題を有する者について、大学又は産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに盲学校、聾学校及び養護学校の産業教育、または理科教育を担当している教諭、助教諭及び実習助手並びに指導主事とする。							
開 催 期 日	別紙のとおり				3ヶ月～1年			
受 講 人 数	計画人数	100	人	受講者数	85	人	参加率	85.0%
開 催 場 所	大学、工場、農場、事務所、試験研究所その他産業教育に関する研修を行うにふさわしい施設							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	58	82.9	12	17.1	0	0.0	0	0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

- ・学校で独学では身につけることのできない専門的な知識・技能を習得できた。また、この研修で作った教材で大学と連携し授業実践を行うこととなった。
- ・民間企業と公設研究機関の両方で研修できたことは大変よかった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

産業教育、理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修（産業教育）一覧

No	都道府県	派遣人数	派遣元		派遣先		
			所 属	施設名	派遣時期	期間	
2	青森県	1	青森県立名久井農業高等学校	千葉大学	H16.9.1～H16.11.30	3か月	
3	岩手県	2	岩手県立盛岡商業高等学校	岩手大学	H16.5.6～H16.7.31	3か月	
			花巻市立花巻中学校	岩手大学	H16.9.1～H16.11.30	3か月	
4	宮城県	2	宮城県鷲沢工業高等学校	東北大学	H16.9.1 H17.2.28	6か月	
			宮城県柴田農林高等学校	東北大学	H16.9.1 H17.2.28	6か月	
5	秋田県	2	太田町立太田中学校	秋田大学	H16.5.1～H16.7.31	3か月	
			秋田県立大曲工業高等学校	秋田大学	H16.5.1～H16.7.31	3か月	
6	山形県	3	山形県立米沢工業高等学校	山形大学	H16.10.1～H17.3.31	6か月	
			山形県立新庄神室産業高等学校	県立産業技術短期大学校	H16.7.1～H16.9.30	3か月	
			山形県立南陽高等学校	佐藤紀昭税理士事務所	H16.4.1～H16.6.30	3か月	
			山形県立庄内農業高等学校	県立砂丘地農業試験場	H16.4.1～H16.9.30	6か月	
7	福島県	3	福島県立塙工業高等学校	東京工業大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月	
			福島県立岩瀬農業高等学校	東北大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月	
			福島県立相馬農業高等学校	宇都宮大学	H16.9.1～H17.2.28	6か月	
9	栃木県	5	栃木県立足利商業高等学校	大原簿記学校	H16.10.1～H17.3.31	6か月	
			栃木県立足利商業高等学校	大原簿記学校	H16.4.1～H16.9.30	6か月	
			栃木県立宇都宮白楊高等学校	専門学校国際スクールオブビジネス	H16.12.1～H17.2.28	3か月	
			栃木県立鹿沼商業高等学校	パンフィック・デザイン株式会社つくばオフィス	H16.4.1～H16.9.30	6か月	
			栃木県立真岡工業高等学校	社団法人コマツクレーン教習センター	H16.9.1～H16.11.30	3か月	
10	群馬県	1	桐生市立広沢中学校	群馬大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月	
			群馬県立富岡実業高等学校	群馬県農業技術センター株式会社 新進株式会社 荻野商店	H16.4.1 H16.6.31 H16.11.1 H16.7.1 H16.10.1 H16.9.30(3)	12か月	
11	埼玉県	1	埼玉県立鴻巣女子高等学校	東京家政大学	H16.10.1～H17.3.31	6か月	
13	東京都	1	青山学院高等部	東京農工大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月	
14	神奈川県	2	県立平塚工科高等学校	横浜国立大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月	
			県立小田原城東高等学校	横浜国立大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月	
15	新潟県	1	新潟県立高田農業高等学校	新潟大学	H16.10.1～H17.3.31	6か月	
16	富山県	2	富山県立富山北部高等学校	富山医科薬科大学	H16.9.1～H17.2.28	6か月	
			富山県立富山いずみ高等学校	富山医科薬科大学	H16.9.1～H16.11.30	3か月	
			富山県立富山商業高等学校	富山大原簿記法律専門学校	H16.8.1～H16.10.31	3か月	
17	石川県	1	石川県立羽咋工業高等学校	金沢大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月	
			石川県立七尾商業高等学校	石川職業能力開発短期大学校	H16.4.1～H17.3.31	12か月	
19	山梨県	1	甲府市立富竹中学校	山梨大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月	
20	長野県	1	丸子実業高等学校	東京農業大学	H16.10.1～H17.3.31	6か月	
21	岐阜県	2	岐阜県立三田高等学校	岐阜女子大学	H16.5.1～H16.7.31	3か月	
			岐阜県立高山高等学校	有権会社 ディック	H16.7.1～H16.9.30	3か月	
22	静岡県	3	静岡県立清水工業高等学校	東京工業大学	H16.4.1～H16.9.30	6か月	
			伊豆市立修善寺中学校	静岡大学	H16.4.1～H16.9.30	6か月	
			掛川市立桜が丘中学校	静岡大学	H16.10.1～H17.3.31	6か月	
23	愛知県	3	愛知県立碧南工業高等学校	株式会社トーエネック	H16.5.6～H16.7.30	3か月	
			愛知県立知立高等学校	南山大学	H16.6.1～H16.11.30	6か月	
			愛知県立一宮商業高等学校	株式会社名鉄百貨店	H16.9.1～H16.11.30	3か月	
24	三重県	1	三重県立四日市工業高等学校	大同工業大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月	
26	京都府	2	京都府立京都すばる高等学校	京都大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月	
			向日市立勝山中学校	京都大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月	

No	都道府県	派遣 人数	派遣元		派 遣 先		
			所 属	施設名	派 遣 時 期	期間	
30	和歌山県	1	和歌山県立箕島高等学校	和歌山大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
32	島根県	1	島根県立出雲商業高等学校	島根大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
		1	島根県立益田工業高等学校	島根職業能力開発短期大学校	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
33	岡山県	2	岡山県立笠岡工業高等学校	岡山大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
			岡山県立高松農業高等学校	岡山大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
34	広島県	5	広島県立西条農業高等学校	広島大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
			広島県立御調高等学校	広島酔心調理師専門学校	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
			広島県立竹原高等学校	産興株式会社	H16. 4. 1 ~ H16. 9. 30	6か月	
			広島県立宮島工業高等学校	広島ガス株式会社	H16. 4. 1 ~ H16. 9. 30	6か月	
			広島県立世羅高等学校	広島Y M C A健康福祉専門学校	H16. 4. 1 ~ H16. 9. 30	6か月	
			広島県立本郷工業高等学校	広島県立西部工業技術センター (生産技術アカデミー)	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
35	山口県	1	山口県立宇部商業高等学校	山口大学	H16. 10. 1 ~ H16. 12. 31	3か月	
		1	山口県立防府高等学校	山口県立大学	H16. 10. 1 ~ H16. 12. 31	3か月	
36	徳島県	1	徳島県立城西高等学校神山分校	森林林業研究所	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
37	香川県	2	香川県立小豆島高等学校	学校法人北川学園 キッズ調理技術専門学校	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
			香川県立坂出商業高等学校	大阪経済大学	H16. 10. 1 ~ H16. 12. 31	3か月	
38	愛媛県	2	愛媛県立新居浜商業高等学校	株式会社富士通愛媛情報システムズ	H16. 7. 1 ~ H16. 9. 30	3か月	
			愛媛県立東温高等学校	聖カタリナ大学	H16. 7. 1 ~ H16. 9. 30	3か月	
39	高知県	2	高知県立幡多農業高等学校	鳥取大学	H16. 4. 1 ~ H16. 9. 30	6か月	
			高知県立高知東高等学校	高知大学	H16. 10. 1 ~ H17. 3. 31	6か月	
		4	高知県立高知東高等学校	高知女子大学	H16. 4. 1 ~ H16. 9. 30	6か月	
			高知県立安芸桜ヶ丘高等学校	高知工科大学	H16. 10. 1 ~ H17. 3. 31	6か月	
			高知県立高知工業高等学校	高知県工業技術センター	H16. 10. 1 ~ H17. 3. 31	6か月	
			高知県立橋原高等学校	高知文化服飾専門学校	H16. 10. 1 ~ H17. 3. 31	6か月	
40	福岡県	1	福岡県立宇美商業高等学校	九州大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
41	佐賀県	4	佐賀県立佐賀工業高等学校	佐賀大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
			神埼町立神埼中学校	佐賀大学	H16. 10. 1 ~ H17. 3. 31	6か月	
			佐賀県立伊万里農林高等学校	佐賀大学	H16. 10. 1 ~ H17. 3. 31	6か月	
			武雄市立川登中学校	佐賀大学	H16. 10. 1 ~ H16. 12. 31	3か月	
		2	佐賀県立佐賀商業高等学校	麻生外語観光カレッジ	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
			佐賀県立伊万里商業高等学校	大原簿記情報専門学校	H16. 4. 1 ~ H16. 9. 30	6か月	
43	熊本県	3	熊本県立小川工業高等学校	九州工業大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
			熊本県立球磨工業高等学校	財団法人文化財建造物保存技術協会大阪支部	H16. 4. 1 ~ H16. 9. 30	6か月	
			熊本県立熊本工業高等学校	熊本県立技術短期大学校	H16. 4. 1 ~ H16. 9. 30	6か月	
			熊本県立熊本農業高等学校	熊本県農業研究センター果樹研究所	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
44	大分県	2	大分県立大分工業高等学校	大分大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
			大分県立竹田商業高等学校	大分大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月	
45	宮崎県	2	佐土原町立久峰中学校	宮崎大学	H16. 9. 24 ~ H16. 12. 24	4か月	
			宮崎県立宮崎工業高等学校	宮崎大学	H16. 9. 24 ~ H16. 12. 24	4か月	
46	鹿児島県	2	鹿児島県立鹿児島南高等学校	鹿児島ハイテク専門学校	H16. 6. 1 ~ H16. 8. 31	3か月	
			鹿児島県立山川高等学校	文化服装学院	H17. 1. 4 ~ H17. 3. 31	3か月	
合計		85					

I 研修概要

研 修 名	産業教育、理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修（理科教育） （教職員派遣研修（理科教育））							
担 当 課 係	研修事業第二課 海外派遣研修係							
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、産業教育・理科教育に関して優れた自主的調査研究課題を有する者について、大学又は産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに盲学校、聾学校及び養護学校の産業教育、または理科教育を担当している教諭、助教諭及び実習助手並びに指導主事とする。							
開 催 期 日	別紙のとおり				3ヶ月～1年			
受 講 人 数	計画人数	80	人	受講者数	72	人	参加率	90.0%
開 催 場 所	大学、工場、農場、事務所、試験研究所その他理科教育に関する研修を行うにふさわしい施設							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	37	12	0	0	0
		75.5	24.5	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・この研修への参加が、派遣先の大学と勤務校の高校との間で連携を取れるようになる機会となり、これからの指導や研究に役立つと考えられる。
・教材研究をする際の基本姿勢、教授方法等についての考察等、技術論だけではなく教育を行う上での心構えについて改めて考え直すことができた。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

産業教育、理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修（理科教育）一覧

No	都道府県	派遣人数	派遣元	派遣する国立大学		
			所属	施設名	派遣時期	期間
1	北海道	5	北海道旭川高等学校	北海道大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			北海道苫小牧工業高等学校	北海道大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			北海道札幌旭丘高等学校	北海道大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			北海道札幌清田高等学校	北海道大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			北海道札幌清田高等学校	北海道大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
4	宮城県	2	宮城県角田市立北角田中学校	東北大学	H16.9.1～H17.2.28	6か月
			宮城県桃生郡河北町立飯野川第二小学校	東北大学	H16.9.1～H17.2.28	6か月
5	秋田県	2	大館市立南中学校	秋田大学	H16.7.1～H16.12.31	6か月
			秋田県立大曲高等学校	秋田大学	H16.7.1～H16.12.31	6か月
6	山形県	1	新庄市立升形小学校	山形大学	H16.4.1～H16.9.30	6か月
7	福島県	4	福島県立岩瀬農業高等学校	福島大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月
			福島県立遠野高等学校	福島大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月
			福島県立会津高等学校	福島大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月
			郡山市立大槻中学校	福島大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月
9	栃木県	7	茂木町立中川中学校	宇都宮大学	H16.4.1～H16.9.30	6か月
			市貝町立小貝中央小学校	宇都宮大学	H16.10.1～H17.3.31	6か月
			藤岡町立赤麻小学校	宇都宮大学	H16.4.1～H16.9.30	6か月
			氏家町立熱田小学校	宇都宮大学	H16.10.1～H17.3.31	6か月
			西那須野町立南小学校	宇都宮大学	H16.10.1～H17.3.31	6か月
			栃木県立宇都宮中央女子高等学校	宇都宮大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月
			栃木県立栃木南高等学校	宇都宮大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月
14	神奈川県	2	藤嶺学園 藤沢翔陵高等学校	東京学芸大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			県立瀬谷西高等学校	横浜国立大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			県立希望ヶ丘高等学校	横浜国立大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
17	石川県	5	石川県立大聖寺高等学校	金沢大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月
			石川県立高浜高等学校	金沢大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月
			石川県立中島高等学校	金沢大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月
			金沢市立鳴和中学校	金沢大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月
			白峰村立白峰小学校	金沢大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月
19	山梨県	3	明野村立明野中学校	山梨大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月
			大月市立七保中学校	山梨大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月
			山梨県立甲府南高等学校	山梨大学	H16.4.1～H17.3.31	12か月
20	長野県	10	松本工業高等学校	信州大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			松本工業高等学校	信州大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			木曾高等学校	信州大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			松本筑摩高等学校	信州大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			長野工業高等学校	信州大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			松本市立寿小学校	信州大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			辰野町立辰野中学校	信州大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			木曾山林高等学校	信州大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			木祖村立木祖小学校	信州大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月
			上田市立川西小学校	信州大学	H16.5.1～H17.3.31	11か月

No	都道府県	派遣 人数	派遣元	派遣する国立大学		
			所 属	施設名	派遣時期	期間
23	愛知県	1	愛知県立津島北高等学校	愛知教育大学	H16. 8. 1 ~ H17. 1. 31	6か月
29	奈良県	2	奈良市立一条高等学校	奈良女子大学	H16. 6. 1 ~ H17. 3. 31	10か月
			下市町立下市中学校	奈良教育大学	H16. 6. 1 ~ H17. 3. 31	10か月
31	鳥取県	1	鳥取県立倉吉東高等学校	神戸大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月
35	山口県	2	山口県立下関南高等学校	山口大学	H16. 9. 1 ~ H16. 11. 30	3か月
			周南市立鼓南中学校	山口大学	H16. 10. 1 ~ H16. 12. 31	3か月
40	福岡県	1	福岡県立福岡工業高等学校	九州大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月
43	熊本県	3	宮原町及び八代市中学校組合立氷川中学校	熊本大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月
			高森町立草部中学校	熊本大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月
			熊本市立楡木小学校	熊本大学	H16. 10. 1 ~ H17. 3. 31	6か月
44	大分県	3	中津市立今津小学校	九州工業大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月
			大分県立別府青山高等学校	大分大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月
			大分県立大分豊府高等学校	熊本大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月
45	宮崎県	7	高千穂町立高千穂中学校	東京工業大学	H16. 10. 5 ~ H17. 3. 24	6か月
			宮崎市立宮崎中学校	筑波大学	H16. 10. 5 ~ H17. 3. 24	6か月
			高鍋町立高鍋東小学校	宮崎大学	H16. 10. 4 ~ H17. 3. 25	6か月
			高原町立広原小学校	宮崎大学	H16. 4. 5 ~ H16. 9. 28	6か月
			宮崎市立小松台小学校	宮崎大学	H16. 10. 4 ~ H17. 3. 25	6か月
			延岡市立岡富中学校	宮崎大学	H16. 4. 5 ~ H16. 9. 28	6か月
			日南市立飫肥中学校	宮崎大学	H16. 4. 5 ~ H16. 9. 28	6か月
6	横浜市	8	横浜市立中田中学校	横浜国立大学	H16. 5. 1 ~ H17. 3. 31	11か月
			横浜市立大綱中学校	横浜国立大学	H16. 5. 1 ~ H17. 3. 31	11か月
			横浜市立南瀬谷中学校	横浜国立大学	H16. 5. 1 ~ H17. 3. 31	11か月
			横浜市立中和田中学校	横浜国立大学	H16. 5. 1 ~ H17. 3. 31	11か月
			横浜市立金沢高等学校	横浜国立大学	H16. 5. 1 ~ H17. 3. 31	11か月
			横浜市立戸塚高等学校	横浜国立大学	H16. 5. 1 ~ H17. 3. 31	11か月
			横浜市立戸部小学校	横浜国立大学	H16. 5. 1 ~ H17. 3. 31	11か月
			横浜市立能美台南小学校	横浜国立大学	H16. 5. 1 ~ H17. 3. 31	11か月
15	東京学芸大学	1	世田谷小学校	科学技術館	H16. 7. 16 ~ H16. 8. 31	1.5か月
38	奈良女子大学	1	奈良女子大学附属中等教育学校	奈良女子大学	H16. 4. 1 ~ H17. 3. 31	12か月
計		72				

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (農業：A-1)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 8月 2日 (月)～平成16年 8月 6日 (金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	25	人	参加率	100.0%
開 催 場 所	日本獣医畜産大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	17	8	0	0	0
		68.0	32.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・DNA抽出、遺伝子組換え、ELISAの講義・実習について、多くの収穫を得ることができた。特に、この点において研修の目的の一つ、「新産業技術に関する知識と技術取得」が達成されたと思う。

・本校は昨年度から文部科学省のめざせスペシャリストの研究指定を受けており、より専門分野の知識をもったスペシャリストの育成を目指し、日々努力しているが、日常業務に追われ、研修の機会を持なかつた。今回の研修ではより授業内容を充実したものにできる知識、技術を習得したので、役立てていきたいと思った。

・初めて本当に「大変役に立った」と○をつけられる研修に参加できた事を心からありがたいと思っています。勉強することの楽しさ、新しい知識を身につけることのおもしろさを生徒に伝えられる教員を目指して、頑張ろうと思います。

・適切な構成でプログラムが組まれている為、短期間であったが内容は濃く、有意義な研修を過ごすことができた。また、講師の方々も丁寧であり、非常に解りやすかつた。これらのことを上手にまとめ上げ、現場に活かしていきたいと思った。

・今回の研修では微生物や遺伝子レベルでのバイオテクノロジーの講義を受け実験の手法を体験的に学ぶ事ができた。本校では植物バイオを中心とした指導をしているが、今後は今回の研修の成果を生かして専攻学習の中で取り組み定着させたい。今後も是非、このような研修を企画してほしい。

・今回の研修の講義・実験の経験を生かし、科学の重要性、必要性を理解させると共に、一人でも多くの生徒が科学的な物の見方、考え方が身に付き、更に興味関心を持ち科学の担い手が育つように努めたい。

・これまで興味はあるものの、実際に経験する機会のなかつたDNA抽出や遺伝子組換え、ELISAについて、実験・実習を通して学ぶことができ、大変良い研修ができたと思う。ここで学んだ事を今後の授業の中にどう組み入れ活用していくか、これから検討し実際にやってみてみたいと思っている。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(農業、A-1)

日時	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	備考
8月2日 (月)	受付 JBA 島津理化	開講式・基調講演 講演:文部科学省初等 中等教育局 参事官付教科調査官 添野 龍雄先生	リエンテーション・自己紹介 JBA 島津理化	昼休み	講義1 生命科学の重要性 その教育 東京学芸大学 小林 興 名誉教授	講義2 組換えDNA実験法制化 について 東京大学大学院農学生命科学 研究科 高橋 伸一郎先生	沖縄でのバイ オ産業の現状 と今後 (株)ディーエヌエー バンク 石川社長			
8月3日 (火)		講義3(DNA抽出法) 実験指導者: (株)ディーエヌエーバンク 石川社長 1.5h	実習1(DNA抽出実験) 実験指導者:同左 1h	昼休み	考察1 (DNA抽出実験) 実験指導者: :同左 1h	実習2(遺伝子組換え前処理) 実験指導者:同左 3h				
8月4日 (水)		講義4(遺伝子組換え技術) 実験指導者:(株)ディーエヌエー バンク 石川社長 1.5h	実習3(遺伝子組換え) 実験指導者:同左 1h	昼休み	実習3(遺伝子組換え) 実験指導者:同左 2h	考察2(遺伝 子組換え技術 実験指導者: :同左 1h	講義5(ELIZA) 1h			
8月5日 (木)		実習4(ELIZA) 実験指導者:(株)ディーエヌエーバンク 石川社長 2.5h	昼休み	実習4(ELIZA) 実験指導者:同左 2h	考察3(ELIZA) 実験指導者:同左 2h					
8月6日 (金)		情報交換会 現場での取組み状況(各教員)	昼休み	情報交換会	質疑応答 閉講式					

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (農業：A-2)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 8月 9日 (月) ~平成16年 8月13日 (金)				5 日間			
受 講 人 数	計画人数	35	人	受講者数	21	人	参加率	60.0%
開 催 場 所	横河電機株式会社							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	12	7	0	0	2
		63.2	36.8	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ これからの農業教育には環境制御についての研修は重要であり、大変勉強になった。また、多くの先生方と意見交換も出来、先生方の日頃の学校で頑張っていることを知り大変良かった。この研修で得たものを今後の学校現場で活かし、生徒に還元していきたい。 ・ 担当科目が果樹（前任校）、作物が主であり、環境制御に関連した指導に携ることがあまりなく、講義内容はどれも新鮮な知識や技術として受けとめることが出来た。今回の講習で得たものを生徒への教科指導や農場運営にいかん活かししていくかを考えながら勤務したい。 ・ 施設園芸については全く素人でしたが、今回の研修に参加し様々な知識を得ることができた。今後の教育活動においても十分活かすことができるものだと思った。今回得たものを生徒はもちろんのこと、先生方へも伝えたいと思います。 ・ 5日間の研修を通して、環境制御技術、栽培技術、施設設計について、幅広くかつ専門的知識を得る事ができました。今回の研修の成果を生徒の学習指導や県の栽培関係者へ伝えて活かしていきたい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(農業、A-2)

独立行政法人教員研修センター

日時	9	10	11	11:40	13:40	14	15	16	17	18
2004年 8/9 (月)	受付、集合(初日のみ8:45、以降は9:00始まり) 開講式 開会の挨拶 オリエンテーション 新学習指導要領における学習展開について			昼休み	横河電機の施設園芸分野での取り組み 温室環境制御システム(YEWFARM)の構成 昆虫の話 温調計シリーズ製品紹介 分析機器製品紹介<ポケットシリーズ> 気象計器紹介					
8/10 (火)	<パソコン実習> システム操作監視画面の説明と基本操作 ・制御工学と制御プログラム			昼休み	・気象的要素と作物の生長 ・温室内の物理環境(温度と湿度) 灌水チューブ 糖度計・選果機・個別包装 温室環境制御の歴史 二重膜温室の進化					
8/11 (水)	高校のシステム納入例 (鳥取湖陵高校・大垣農業高校) 農業教育では何をなすべきか！ 養液栽培装置(1)			昼休み	養液栽培装置(2) 土壌消毒・地中暖房 嫌気性バクテリアに関して 養液栽培装置(3) 高品質野菜生産について 温室の設計に関して フリーの懇親会					
8/12 (木)	農高の研究発表【プロジェクトX-1】 「もみ殻を使った育苗ポットの研究」 「ダリアの周年栽培」 海外の施設園芸の紹介			昼休み	農高の研究発表【プロジェクトX-2】 「エーデルワイスの増殖と保護に関する研究」 カメラ(画像)を中心とした遠隔監視制御 各都道府県における環境制御技術の指導について <各県先生による情報交換>					
8/13 (金)	温室を建てるにあたって 人工光・閉鎖型苗生産システム 葉菜類水耕栽培システム 太陽光発電・自動換気システム 大型温室に関して			昼休み	養液栽培の肥料 養液土耕 閉講式					

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (工業：B-1)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 8月23日 (月) ~平成16年 8月27日 (金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	33	人	参加率	82.5%
開 催 場 所	東京工業大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	15 46.9	17 53.1	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化・理科離れが進む中、エネルギー資源のない日本が技術立国として成り立っていくためには、工業高校の果たす役割として大きな責任があると感じている。この研修で、たくさんの示唆をもらった。また、大変興味深く受けることができた。帰ったら、機会あるごとに報告したいと思った。 ・ 全国の工業高校の先生と情報交換ができ、たいへん役立った。現在、次の専門高校のあり方（方策）を検討し、新しい事業に挑戦している。この事業等に自県のみで考えるだけでなく、他県・諸機関・大学・地域等、情報交換の重要性を強く感じた。今回の研修をもとに、将来の地域社会の担い手となる専門的職業人の育成に努めたい。 ・ 極低温物性研究の見学で液体Heを初めて見て感動しました。-273℃の世界は机上だけのもので、どこにも存在しないと思っていましたが、実際に体験できたことを幸せに思います。それ以外の見学や講義についても、それぞれ興味深く有意義な時間を過ごさせて頂きました。この貴重な体験を無駄にしないように自分の能力を少しでも高め、今の学校に還元したいと思います。 ・ 大変役に立つ研修でした。講義については専門性も高く、濃い内容が多かったです。また、施設見学は、ここでしか見られないものばかりであり、先端の技術も多く、大変参考になりました。是非、今後もこのような研修を続けて欲しいと思います。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

テーマ：エネルギー利用と環境保全技術に関する講義と施設見学
 期日：平成16年8月23日(月)～8月27日(金)
 会場：東京工業大学大岡山キャンパス
 東京工業大学すずかけ台キャンパス
 附属工業高等学校

(工業、B-1)

	9:30	10:00	10:30	12:30	13:30	15:00	15:10	17:00	17:30-19:00
第1日 8月23日(月) 大岡山キャンパス 西8E号館 10F 大会議室	受 付	開 講 式	講演 国立教育政策研究所 文部科学省 池守 滋 「21世紀の工業教育」	昼 食	講義 西原 明法 「教育工学開発センターに おける遠隔教育実践」	休 憩	施設見学 大岡山キャンパス 専門別研究室見学 (5分野を予定)	休 憩	懇 親 会
第2日 8月24日(火) 工学部附属 工業高等学校 キャンパスイノベーションセンター 1F 国際会議室	9:30 講義 竹内 守 門馬 進 「SSH研究開発」 ・平成15年度の実践とまとめ ・平成16年度の計画	10:30 講義 山口 正勝 森安 勝 「SSH研究開発」 ・先端科学技術入門 ・課題研究	11:30 昼 食	13:00 施設見学 杉原 了三 長谷川大和	14:00 情報交換 金子 善光 山口 正勝	15:00 検討会 竹内 守 門馬 進	17:00		
第3日 8月25日(水) すずかけ台キャンパス 大学院5号館G511講義室	9:30 講義 梅干野 晃 「都市・建築における環 境共生技術」	11:00 休	11:10 講義 原科 幸彦 「環境政策－今日の課題 と将来」	12:40 昼 食	13:40 講義 吉川 邦夫 「新エネルギーを活用し た新産業育成と地域振興」	15:10 休 憩	15:20 施設見学	17:00	
第4日 8月26日(木) 大岡山キャンパス 西8E号館 10F 大会議室	講義 花村 克悟 「地球環境とエネルギー 変換システム」	休	講義 七原 俊也 「分散型電源と電力シス テム」	食	講義 佐藤 勲 「熱エネルギー利用高度 化技術」	憩	施設見学 原子炉工学研究所 ・ 極低温物性研究センター		
第5日 8月27日(金) 大岡山キャンパス 西8E号館 10F 大会議室	講義 牟田 博光 「教育活動の評価」	憩	講義 吉澤 善男 「エネルギー消費の限界」	閉 講 式		13:40 15:10	15:20 17:00		
	9:30	11:00	11:10	12:40	13:10				

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (工業：B-2)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 8月23日 (月)～平成16年 8月26日 (木)				4日間			
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	24	人	参加率	120.0%
開 催 場 所	大宮工業高等学校							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	11 47.8	10 43.5	2 8.7	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

・ 今回の研修を通してこれまで学校で教えてきた内容について見直すことができ、また自分の勉強にもなり大変良かった。最新の工作機械を使い、最新の機械技術を学べたことは今後の教員生活に大いに役立つと思う。

・ 先月から本校にもマシニングセンタが入ってきたので丁度良い機会だった。私自身、専門が機械ではなく電気系なので不安な面があったが、初心者にも理解しやすい内容だったのでとても満足している。今後は、実習に取り入れたり、体験入学、開放講座等にも役立てるように力を入れたい。

・ NC工作機械については20年ほど前に研修を受けたものの、その後の経験がほとんどなく、今回初心者として受講したが、テクニカルセンターの指導者の方々から大変わかりやすく説明していただき、なんとか他校の先生方と共に研修を終えることができた。また内容についても役立つ内容ばかりで実りある研修であった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(マシニングセンタのプログラミングと生産の自動化)

(工業、B-2)

委託団体名 全国電子機械教育研究会

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月23日 (月)		受付	開講式 会社概要 説明見学	講義 自動7°ロウリングの実際 7°ロウリングの概要1 補充機能及び加工内容の動作1		講義 自動7°ロウリングの実際 7°ロウリングの概要1 補充機能及び加工内容の動作1	講義 自動7°ロウリングの実際 7°ロウリングの概要2 実習 加工内容の動作2		
8月24日 (火)	講義 これからの工業教育	講義 自動7°ロウリングの実際 実習 加工内容の動作3			実習 工具交換動作		講義 自動7°ロウリングの実際 加工内容1, 2 実習 段取り、テストピース切削		
8月25日 (水)	講義 自動7°ロウリングの実際 加工内容1, 2 実習 段取り、テストピース切削		実習 自動7°ロウリングの実際 加工実習、テストピース切削		実習 自動7°ロウリングの実際 加工実習、テストピース切削				
8月26日 (木)	講義 マシニングセンタ及び周辺機器における自動化技術① 実習 加工段取り、テストピース切削				講義 マシニングセンタ及び周辺機器における自動化技術②		閉校式		

大宮工業高等学校

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (商業：C-1)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 7月26日 (月) ~平成16年 7月30日 (金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	18	人	参加率	72.0%
開 催 場 所	千葉商科大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	9	8	0	0	0
		52.9	47.1	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・中央に出て来なければ学習できない内容のものばかりだったので、とても良い勉強になった。特に流通システムの革新に向けた取引制度改革や証券の基礎知識は、実際の授業の中で、大変参考になるものだった。また、商品に関する実験は、非常に楽しく講義を受けることができた。実習・実験は、楽しい授業を作り出すものだということがよくわかった。</p> <p>・流通全体に対する知識・見学・商品開発の取組、そして、商品の実習実験等に関して、大変勉強になりました。現在、商品と流通について研究しており、来年、発表することになっています。今回の研修でのことをいろいろな場面で実践していきたいと考えております。そして、生徒に考えさせる授業の実践を目指し、努力していきたいと思っております。</p>

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(商業、C-1)

受託団体名 全国商業高等学校長協会

月 日	午 前	午 後
(曜 日)	10:00 10:30 11:00 12:00	13:00 14:00 15:00 16:00 17:00
7月26日 (月)	受開 講 付 式 (講義) 「商業教育の課題と動向」	(講義) 「流通システムの革新に向けた 取引制度改革」 (大学内見学) 懇親会
7月27日 (火)	(講義) 「ショッピングモールの 開発・管理・運営の実務について」	(講義) 「商品開発のケーススタディ」 ①地域特産品開発 ②学生による大学キャラクター商品の開発
7月28日 (水)	(企業・マーケティング実務見学) (コレド日本橋・三井不動産) <見学と講義・質疑応答>	移動 東京証券 取引所内 見学 (講義) 「『株式ゲーム』に ついて」
7月29日 (木)	(講義) 「我が国の信託業務の現状と 信託銀行の役割」	(講義) 「証券の基礎知識」 (講義) 「損害保険の 基礎知識」
7月30日 (金)	(講義) 「生命保険の基礎知識」	(講義) 「商品に関する実験実習の利用法」 閉 講 式

実施場所 千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (商業：C-2)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 8月 2日 (月)～平成16年 8月 6日 (金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	55	人	受講者数	40	人	参加率	72.7%
開 催 場 所	一橋大学大学院商学研究科							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	28	12	0	0	0
		70.0	30.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・一橋大学という素晴らしい環境で大変有意義な時間を過ごすことができた。特にマーケティングのケースメソッドは早速現場で活用しようと思った。そして、IT教育と企業家教育に関連しての講義は、これからの商業高校の教育現場では、不可欠な内容であると、痛感した。受講した内容をぜひ、県内のより多くの先生方に知ってもらおうよう、情報の提供の機会を設けようと思っている。</p> <p>・今回の研修では幅広いテーマが設定されており、自分自身の知識がついていけるか心配であったが、講師の先生方の熱心かつ、わかりやすい説明で各テーマにおける最新の情報に触れることができたことは今後の授業に非常に有意義であった。また、現在、商業教育の必要性が問われているが、今回の研修で商業高校の新たな展望が見えてきたような気がする。他の先生方にいかに今回の研修内容を伝え授業を充実したものにしていくか、大きな課題を与えられたような気がする。</p> <p>・これからの教育は①自己教育力育成 ②個性を生かす教育 ③変化への対応が大切であるというお話を聞き、まずは教える側の教員が、「常に自己研鑽に努めなければならない」と改めて身の引き締まる思いがした。他県などでは、参加型地域連携や提供型地域連携、空き店舗経営や新商品開発など高校生が生き生きと学ぶ姿(取組)がある事を知り、私達の地元も何かアクションを起こさなければ…という焦燥感にかられた。大変有意義な講習でした。</p> <p>・これからの商業教育を考えるうえで非常に有効な講義であったと思います。今後生徒たちが自立し自ら学び考え創造していくための資料や課題が見えてきたように思う。また、参加型地域連携や新商品開発、空き店舗経営など積極的に取り入れ、生きた専門教育の拡大と充実を図っていきたいと感じた。そして将来、地域活性化だけではなく、もっとグローバルな視点を持てる人材の育成に貢献できればと感じました。</p>

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(商業, C-2)

一橋大学

日時	9:30	10:00	10:30	12:30	13:30	16:30
8/2(月)	受付	開講式	「商業教育の動向と課題」 文部科学省視学官 吉野 弘一	昼休み	講義Ⅰ 「改正商法等と会計」 一橋大学大学院商学研究科教授 安藤 英義	
8/3(火)	講義Ⅱ 「知的財産とイノベーション」 一橋大学イノベーション研究センター教授 長岡 貞男		講義Ⅲ 「マーケティングのケースメソッド」 一橋大学大学院商学研究科助教授 松井 剛			
8/4(水)	講義Ⅳ 「株式公開の理論と実際」 一橋大学大学院商学研究科助教授 小西 大		講義Ⅴ 「企業統治と経営者の役割」 一橋大学大学院商学研究科助教授 田中 一弘			
8/5(木)	講義Ⅵ 「情報技術の進展とビジネス環境」 一橋大学大学院商学研究科教授 山本 秀男		講義Ⅶ 「IT革命とeコマース経営」 一橋大学大学院商学研究科教授 八幡 和彦			
8/6(金)	講義Ⅷ 「現代の管理会計」 一橋大学大学院商学研究科教授 廣本 敏郎		12:00 閉講式			

一橋大学大学院商学研究科

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (水産：D-1)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 7月26日 (月)～平成16年 7月30日 (金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	※15	人	受講者数	※31	人	参加率	206.7%
開 催 場 所	ニチレイ研修センター							

※計画人数はD-1・D-2あわせて15名。本コースは19名が受講した。

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	17	2	0	0	0
		89.5	10.5	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・ HACCPについて大変、勉強になった。特に、HACCPの演習では、1～3日目までの講義内容をフィードバックしながら、自ら考えて、プログラムを作成することができ、HACCPを自分の学校でも、是非、実践していきたいと思いました。私の住む地域では、まだまだ、普及していないので、本校が中心となれたらと思います。</p> <p>・ 過去にHACCPに関連する保健所等の講習会に参加したが、なかなかとっつきづらい講習であったので、今回の研修も難解なものではないかと心配したが、講義の骨がしっかりしており、HACCPが身近なものに感じられて良かった。特に、演習することにより、HACCPについて、理解が深まったように感じる。</p>

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(水産 D-1)

全国水産高等学校長協会

月日	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7/26 (月)	受付 開講式 オリエンテーション 所管事項説明		水産加工品にお ける品質衛生管 理の意義	昼休み	養殖における危害の管理について				
7/27 (火)	HACCP講習 オリエンテーション 訓練過程とHACCPの紹介について 危害-生物的・化学的・物理的について			昼休み	HACCP講習 前もって必要な計画と準備段階について 商業規模の製造例：IQF加熱調理エビについて 危害分析について				
7/28 (水)	HACCP講習 重要管理点の決定について 重要基準の設定について 重要管理点のモニタリングについて			昼休み	HACCP講習 修正措置について 検証手順について 記録の付け方と保管の手順について HACCP計画作成に係る情報源・FDAガイドの活用				
7/29 (木)	演習-危害分析の実施			昼休み	演習-HACCP計画の作成 HACCP講習 わが国と世界におけるHACCP方式導入の状況について				
7/30 (金)	移動	工場見学-ニチレイ船橋工場		閉講式					

社団法人大日本水産会

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (水産：D-2)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 8月23日 (月)～平成16年 8月27日 (金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	※15	人	受講者数	※31	人	参加率	206.7%
開 催 場 所	近畿大学水産研究所							

※計画人数はD-1・D-2あわせて15名。本コースは12名が受講した。

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	10	1	0	0	1
		90.9	9.1	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・ 大学時代では行わなかった実学というものを体験でき、非常に役に立つ内容だった。本校では、養殖と言っても授業の片手間でやる程度で深く考え実践することがなかったのですが、今回の研修をきっかけとし、学校での実習を再検討したいと思います。

・ 栽培漁業、特に、クロマグロに関する講義内容は、関心を持って受講できた。大島でのクロマグロ養殖場見学は、大変良かった。栽培漁業の見学を近畿大学水産研究所で学ぶことができ、水産高校においても、このような学習を導入していき、産業に直結する教育、生徒の興味、関心を深めさせるよう取り組んでいきたい。

・ 自分の学校に小割がないので、近大の大規模な養殖場には、びっくりしました。いろいろな苦労を重ねて少しでも良い魚を生産するための努力・研究には、自分も見習うべきであると思いました。

・ 栽培漁業の基礎となる知識・技術だったので、大変素晴らしい研修になったと思います。また、このような内容を数年毎に実施して欲しいと思います。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(水産D-2)

全国水産高等学校長協会

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8/23 (月)	受付 開講式 ガイダンス 所管事項説明	講義 海産魚の種苗生産	昼休み	実習 養殖魚類管理実習					
8/24 (火)	日本の海産魚類養殖の現状 とクロマグロの完全養殖の 概要	魚類の摂餌とエネルギー 分配	昼休み	実習 養殖魚類管理実習					
8/25 (水)	移動	研究 クロマグロの養殖研究	昼休み	見学 クロマグロ養魚場見学				移動	
8/26 (木)	講義 海産養殖魚の疾病と対策	講義 養殖魚の健康管理と環境	昼休み	実習 養殖魚類管理実習					
8/27 (金)	講義 新海産養殖魚種の開発	講義 海産養殖魚の品種改良	閉講式						

近畿大学水産研究所

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (家庭：E-1)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 7月26日 (月)～平成16年 7月30日 (金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	45	人	受講者数	30	人	参加率	66.7%
開 催 場 所	全国高等学校家庭クラブ会館							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	22	7	0	0	0
		75.9	24.1	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・キャリアを積んで仕事に取り組んでいる産業界の厳しさ、仕事に対する自信、誇り、確かな技術に裏付けされた講義・見学等すべてが刺激的であり、今後の授業に大変参考となる内容でした。又、生徒達にも将来のスペシャリストとして学ぶことへの自信や誇りを持たせられるようにしていきたいと考えています。

・生活産業基礎を今年初めて担当し、どのように進めていったら良いのか悩んでいたが、今回の研修で多くのヒントをもらう事ができた。私自身、2学期からの生活産業の授業を楽しみながらやっていけそうな気がしている。また、普段なかなか聞く機会のない他県の実情や先生方の家庭科に対する思い入れを聞く事ができ、大きな刺激になった。私達が家庭科という教科を通して生徒達に何を伝えていくのか、家政科という学科の中で何を考え将来の目標をどこに持っていかせるのか、私自身がもう一度しっかりと考え、見つめ直す良い機会となりました。

・盛り沢山の内容で広く種々の分野に視野を向けることができた。また、普通では見られない専門的な場所も見学出来、今後の授業に活用出来そうです。文化服装学院のファッションショーは、丁度、文化祭で企画しようと考えていたので参考になった。来年も是非、行って欲しい。

・「生活産業基礎」という新科目を展開していく上では、苦勞と手探りの状態の毎日です。研修を受け、この科目がいかに大切か、そして、専門学科のみならず、今の高校生たちに家庭科を学ぶ事がどれだけ重要かという事を改めて感じた。この研修で得たことを生徒達へ還元していきたいと強く思いました。

・各業界の最先端の方々から講義を受ける事ができたこと大変うれしく思った。同時に教育現場の遅れを痛感した。教育の柔軟性がこれからの課題であると思った。教師も一歩外へ踏み出す勇気が必要だと感じました。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(教科名) 家庭 E-1

全国高等学校長協会 家庭部会

日時	9 (9:30) 10 (10:50)	11 (12:30)	12 (12:30)	13 (13:30)	14	15	16 (16:10)	17 (17:10)
7月26日 (月) 第1日目	(講義) 開講式 「生活産業基礎」 のねらいと指導 内容 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 望月 昌代	(講義) 「生活産業基礎」の 指導計画の作成と 指導方法の工夫 瑞陵高等学校教頭 元廣 益枝	昼休み	(講義・演習) 「生活産業基礎」の指導計画の 作成と指導方法の工夫 瑞陵高等学校教頭 元廣 益枝 上野忍岡高等学校教諭 坂本 志保(助)		(講義・見学) (講義デモンストレーション) ホテル出張サービス業務 ～家庭クラブ 鑑 ホテルメトロポリタンエドモント 遠藤課長		
7月27日 (火) 第2日目	(講義) 社会の変化と産業・職業 及び雇用の変化 千葉商科大学教授 鹿嶋 研之助	(講義) インターンシップと 進路・履修計画 千葉商科大学教授 鹿嶋 研之助	昼休み	(産業界等講義・見学) ①「住まいと暮らしの 体験」 東京ガス 新宿ショールーム	(産業界等講義・見学) (16:30) ① インテリアコーディネートラボ リビングデザインセンター OZONE 堀内優子 ② 室内環境ラボ リビングデザインセンター OZONE 稲田智子			
7月28日 (水) 第3日目	9:20 (講義) 文化服装学院 ファッションビジネス業界の仕組み 文化服装学院専任講師 澤谷 目童	(講義) 文化服装学院 アパレルメーカーの生産工場 ～業務内容と仕事の流れ～ 文化服装学院 専任教授 荒川 佳子 専任助手 高安 聡	昼休み	(実習・見学) 文化服装学院 アパレルメーカーと生産工場 ・工業用設備機器 ～特殊機器操作部分縫い実習～ 文化服装学院 専任教授 荒川 佳子 専任助手 高安 聡	(施設見学案内) (16:40) ファッションリソースセンター 文化服装学院教務課長 宇野 暁 〃 貴倉 孝, 関 正雄			
7月29日 (木) 第4日目	(講義) 『食のほころび』 ～味覚が及ぼす将来の危機 とその改善～ ホテル・ドゥ・ミニオーナー シェフ 三國 清三	(講義) 『外食産業の仕事 と調理システムの変 化』 フードサービスコンサルタント 本山 忠広	昼休み	産業界等の見学 ① (15名) (16:30) 【人材活用・品質管理(商品試験)・クレーム処理】 松坂屋百貨店上野店 水口 龍, 新澤妙子, 高井百合恵, 池崎千晶 産業界等の見学 ② (30名) 【ホテル客室清掃・正餐テーブルセッティング・他のヒューマンサービス】 ホテルメトロポリタンエドモント 茂木総支配人, 高橋副支配人, 関口班				
7月30日 (金) 第5日目	(講義) 児童家庭福祉と保育 にかかわる職業 上智大学教授 網野 武博	(講義) 老人福祉と介護に かわる職業 元全国社会福祉協議会青年福祉課長 山田 美和子	昼休み	(発表) 「生活産業基礎」の計画発表 国立教育政策研究所教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局参事官付 教科調査官 望月 昌代	16:00～ (16:30) 閉講式 (修了証書授与)			

実施場所 全国高等学校家庭クラブ会館, 文化服装学院ほか

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (家庭：E-2)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 8月 2日 (月) ～平成16年 8月 6日 (金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	32	人	参加率	128.0%
開 催 場 所	兵庫教育大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	25	3	0	0	2
		89.3	10.7	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・このような長期の研修に参加する機会がありませんでしたが、参加してみて、とても充実した5日間を過ごす事ができた。関東圏、関西圏と分けて、より多くの教員が研修できると良いと思った。ある程度の自己負担があっても研修したいと思っている方は、たくさんいると思います。</p> <p>・専門的講義とそれに関わる実習が上手く組み合わせられており、大変良かった。生徒を丸ごと受容することの大切さやじっくり話を聞く大切さを改めて思いました。又、生徒理解をした上で、保育園実習を計画していかなければならないこと、事前指導の大切さ、実習の重要性を知りました。教員が実際に保育園で実習することが生徒の実習の充実につながると知る良い機会になりました。</p>
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(家庭, E-2)

兵庫教育大学

時間	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:30	13:30	14:30	15:00	16:30
日付										
8月2日 (月)	受付	開講式 オリエンテーション	(講義)「軽度発達障害: ADHD, LD, 自閉症」 兵庫教育大学講師 井澤信三			記念写真	(講義)「家庭科の改訂の趣旨と保育に関する指導」 文部科学省初等中等教育局参事官 付教科調査官 望月昌代	(講義)「思春期14歳・17歳の危機: 親は、教師は何ができるか」 福島県立医科大学教授 香山雪彦		懇親会
8月3日 (火)	(講義)「ことばの発達」 兵庫教育大学助教授 宇野宏幸		(講義)「情緒・社会性の発達」 兵庫教育大学教授 松村京子			(講義)「認知・思考の発達」 兵庫教育大学助手 宮元博章		(講義)「児童虐待」 大阪教育大学教授 岡本正子		
8月4日 (水)	(講義)「乳幼児との交流学習の意義」 兵庫教育大学教授 松村京子		(演習)「保育学習の教材及び」 兵庫教育大学教授 松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士 院生2名 卒業生1名			乳幼児との交流方法 課程及び学校教育研究科修士課程		(講義)「幼児の生活と遊び」 神戸市立たまつ幼稚園園長 春 豊子		
8月5日 (木)	(実習)「乳幼児交流・観察実習」 参加型実習(交流実習)または非参加型実習(観察実習)を行う。 兵庫教育大学教授 松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程及び 兵庫教育大学学校教育研究科修士課程 院生3名 卒業生1名					(実習)「乳幼児交流・観察実習」の続き 乳幼児の保育所での1日の生活を観察する。				
8月6日 (金)	(演習)「実習分析のためのグループ演習」 保育所での観察結果についての分析と話し合いを行う。 兵庫教育大学教授 松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程及び 兵庫教育大学学校教育研究科修士課程 院生2名			(演習)「乳幼児理解 各自の学校での指導計 兵庫教育大学教授 京都府教育庁		のための学習指導計画 画を発表し、話し合う。 松村京子 松村千鶴		閉講式		

(注) ○付き数字は実施場所を示す。 ①: 講義室 ②: コンピュータ教室 ③: 神戸市立保育所

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (家庭：E-3)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 8月 3日 (火) ~平成16年 8月 6日 (金)				4日間			
受 講 人 数	計画人数	15	人	受講者数	8	人	参加率	53.3%
開 催 場 所	装道きもの学院							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	5	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・とても内容のある充実した研修で、今回、参加できたことを嬉しく思います。教本を見ながら、復習し、自分のものにしていきたいと思います。
・実技はとてもわかりやすく大変勉強になった。礼法も「なぜ」の部分がよくわかり、生徒に伝えるにも役立つと思います。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(家庭、E-3)

日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
8月3日 (火)		開 内 容 説 明 式 ※	(講義) 体型の補整と 下着の着け方	(着装) 下着の着け方と 外出着の着装	昼 食	(着装) 外出着の着装と帯結び			※①連絡事項
8月4日 (水)			(講義) きものの精神美学	昼 食	(着装) 礼装の着装 留袖の着装と帯結び (二重太鼓)				
8月5日 (木)			(礼法) 装道礼法の基本	昼 食	(着装) A 男子の礼装の着装 B 女袴の着装				
8月6日 (金)			(着装) 着装の総仕上げ	昼 食	(着装) 復習 着装の総仕上げ	記 念 撮 影	(講義) 家庭科教育 の動向	座談会	閉 講 式

装道きもの学院 お茶の水校

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (看護：F-1)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 8月17日(火)～平成16年 8月21日(土)			5日間				
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	18	人	参加率	90.0%
開 催 場 所	熊本大学医学部							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	13	4	0	0	0
		76.5	23.5	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・ 沢山の刺激を受けた。即、活用というところには至らないかもしれませんが、必ず、伝達講習を行い、共通のものにしていきたいと思います。又、研究協議も多くの学校の現状を聞くことができ良かった。5年一貫がスタートして3年目、現場ではこれから教員を増やしていかなければならない状態であるが講習会は今年で終わりかもしれないような話も聞こえてきます。是非、続けて欲しいと思います。</p> <p>・ 他校の先生方から多くの意見を聞くことができ、また、各学校の状況も知ることができ、大変参考になった。各テーマ、講義内容についても実践に役立つものがほとんどで、今回の学習について出来るだけ周囲に還元していきたいと思います。</p>
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

- 1 講習会日程 8月17日(火)～8月21日(土)
- 2 講習時間 午前の部 9:30～12:30
 午後の部 13:30～16:30
 (但し、17日は9:15に熊本大学医学部保健学科に集合)

日 程 表

日 程	午 前 の 部			午 後 の 部	
8月17日(火)	受 開 講 付 式	研究協議：高等教育及び看護 教育の現状と課題Ⅰ 講 師：木原 信市 教授	講 義：先端医療の現状 講 師：木原 信市 教授		
8月18日(水)	講 義：看護教育技法 講 師：花田 妙子 教 授		講 義：臨地実習のインシデン ト・アクシデント対策 講 師：上田 公代 教 授		
8月19日(木)	講 義：基礎看護学の授業展開 講 師：森田 敏子 教 授		講 義：臨地実習の評価法につ いて 講 師：宇佐美しおり 教 授		
8月20日(金)	演 習：臨地実習の教育技法Ⅰ 指導助言：谷口まり子 助教授 東 清巳 助教授 木子 莉瑛 講 師 梅木 彰子 助 手		演 習：臨地実習の教育技法Ⅱ 指導助言：谷口まり子 助教授 東 清巳 助教授 木子 莉瑛 講 師 梅木 彰子 助 手		
8月21日(土)	講 義：変動する現代社会におけ る看護職の役割 講 師：宮里 邦子 教 授		研究協議：高等教育及び看護 教育の現状と課題Ⅱ 文部科学省：大橋泰久 先生 指導助言：木原信市 教授	閉 校 式	

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (看護：F-2-2)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 8月 2日 (月) ~平成16年 8月 7日 (土)			6日間				
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	12	人	参加率	48.0%
開 催 場 所	東京都老人医療センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	10	1	0	0	1
		90.9	9.1	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・看護過程をより具体的に教えていただき、大変参考になった。
- ・看護教育の重要性を再認識できた研修でした。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

看護 (F-2-2)

1 期 日 平成16年8月2日(月) 9:00 開講式
 ~8月7日(土) 13:00 終了

2 会 場 東京都老人医療センター
 東京都老人総合研究所
 〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2
 TEL 03-3964-1141

3 講習内容

	午 前 (8:30~12:00)		午 後 (13:00~17:00)
8月2日 (月)	開 講 式	オリエンテーション 東京都老人医療センター) 見学 東京都老人総合研究所	(講義) 「老人看護の現場からみた看護の問題と課題」 東京都老人総合研究所 研究員 大竹 登志子
8月3日 (火)	(実習) 「各病棟実習」 東京都老人医療センター 各病棟看護師		(講義) 「老人看護研究について ~医療センターの取り組み~」 東京都老人医療センター看護部 科長 長久 秀子 (講義) 「看護教育と看護研究：研修生への課題」 東京都老人総合研究所 研究員 大竹 登志子
8月4日 (水)	(実習) 「各病棟実習」 東京都老人医療センター 各病棟看護師		(講義) 「老人看護で一番大事なこと」 「看護技術について」 「エビデンスに基づいた看護①寝たきり予防」 東京都老人総合研究所 研究員 大竹 登志子 「看護教員に望むこと」 「看護教員に期待すること」 東京都老人医療センター看護部 看護師
8月5日 (木)	(実習) 「各病棟実習」 東京都老人医療センター 各病棟看護師		(講義) 「エビデンスに基づいた看護②口腔ケア」 「老人看護で一番大事なこと」 「看護技術について」 東京都老人総合研究所 研究員 大竹 登志子 (研究協議) 「看護教員に望むこと」 「看護教員に期待すること」
8月6日 (金)	(実習) 「各病棟実習」 東京都老人医療センター 各病棟看護師		(研究協議) 「医療センター実習経験から考えたこと」 東京都老人総合研究所 研究員 大竹 登志子
8月7日 (土)	(課題協議) 「研究成果発表」 東京都老人総合研究所 研究員 大竹 登志子 文部科学省初中局 教科調査官 大橋 泰久	閉 講 式	

4 持参するもの (1) 印鑑、ネームバッジ
 (2) 病院での実習用具 (各所属校のユニフォーム・シューズ等で可。)
 (3) 「看護に関する学科における教育の現状と課題」について、各自の所属校の状況をA4用紙1枚程度にまとめ、20部持参すること。

5 その他 (1) 初日は老人医療センター会議室で9時から開講式を行います。
 (2) 2日目以降の実習は8時30分より開始します。
 (3) 会場案内を添付します。
 (4) 宿泊は各自で手配してください。

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (看護：F-2-1(1)(2))							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	(1)平成16年 8月 2日 (月)～平成16年 8月 6日 (金)				各5日間			
受 講 人 数	計画人数	15	人	受講者数	7	人	参加率	46.7%
開 催 場 所	群馬県立精神医療センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	7	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・精神病院のイメージが変わった。また、「統合失調症の疾患」「触法精神障害」に関して、「人権」に関する講義等わかりやすく貴重な内容を学ぶことが出来ました。さらに、各病棟・訪問看護では、スタッフの方からの貴重な経験談や精神科医療・看護に関する思いが伝わってきました。病院スタッフの皆様には接するごとに人間性の豊かさを感じ、心温まる思いをし、のびのびと研修をすることができました。</p> <p>・どの研修も、担当者がとても熱心でありがたかった。現場での貴重な話がとても心に残りました。現場ならではのジレンマや悩み、苦しみ、悲しみ、そして喜びなど、けして、教科書では学べない内容を体験的に学ばせて頂いた。“精神科看護”というより、人間の生き方そのものまでも考えさせられ、また日々の自分の生き方や生徒との関わりを振り返る良いきっかけとなった。今後、学校に帰り、この実習で感じた事を生徒達に私なりに伝えていきたいと思えます。</p>
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

看護 F-2-1(1)(2)

精神医療センター

曜日	9	10	11	12	13:30	14:30	15:30	16:30	17
月	開講式	(講義)精神科医療の動向・現状と問題点・今後の展望	(講義)精神科看護の動向・看護の実際・精神保健福祉法と看護	昼休み	(実習)リハビリ病棟・A				
火	(実習)リハビリ病棟群・B			昼休み	(実習)リハビリ病棟・C				
水	(講義/見学) 援護寮:はばたき		(講義)精神疾患各論	昼休み	(実習)訪問看護			(講義)学校と病院の連携について	
木	(実習)救急治療病棟・E			昼休み	(実習)急性期治療病棟・G				
金	(実習)急性期治療病棟・F		終了時ミーティング		閉校式				

研修日程 1グループ 8月2日～8月6日
 2グループ 8月23日～8月27日
 (いずれも上記の日程で研修を行います)

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（福祉：L-1）						
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係						
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。						
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事						
開 催 期 日	平成16年 7月21日（水）～平成16年 7月29日（木）				8日間		
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	16	参加率	80.0%
開 催 場 所	日本福祉教育専門学校						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	9	7	0	0	0
		56.3	43.8	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・日頃、疑問に思っていた介護技術を理解することができ大変役に立った。また、教材、資料等、専門学校で使っているものを紹介して頂き、教材研究にも大変役に立ちました。講師の先生方はとても丁寧に教えて下さり、8日間、研修を受けて良かったと実感出来ました。今後の授業に還元できるよう頑張ります。 ・レポート用紙30枚以上に及ぶ大切な資料が出来た。まだ、未消化な部分ばかりではあるが、今後少しずつ理解を深めて行き、出来るだけわかりやすい授業をめざしていきたいと思います。誰でも一度は経験するであろう高齢社会のこの介護問題に、明るく向かって行ける生徒たちを育てられたらと考えます。 ・本校では、今年度より基礎介護を始め、講師の先生に授業をやってもらっているのですが、いずれは私が少しでも受け持てたらということに参加しました。全ての講義・演習・実習とも大いに役立つものばかりで参加して良かったと思う。 ・生徒に教える際のコツを掴むことができました。先生方の講義もわかりやすく、実習や授業に関する教材の例なども示して頂き、今後、自分なりに理解を深め、肉付けし、授業に生かしていきたいです。また、それが地域の福祉教育の向上に貢献していくことにつながればいいなと思います。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(教科名：福祉 講習番号：L-1)

委託団体名：全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月21日 (水)		開校式	自己紹介 講義「在宅介護の現状」		昼休み	講義「介護概論」			
22日 (木)		講義「高齢者・障害者（児）の傷害・疾病の理解」			昼休み	講義と演習「コミュニケーションと観察」			
23日 (金)		講義と実習「運動・移動における介護の原則」			昼休み	講義と実習「生活環境整備・ベッドメイキング」			
24日 (土)		講義と実習「移動の技法・歩行の介助」			昼休み	講義と実習「移動の技法・車椅子」			
26日 (月)		講義と実習「食事と口腔ケア」			昼休み	講義と実習「排泄の介助」			
27日 (火)		講義と実習「清潔・着脱の実際」			昼休み	講義と実習「入浴の介助」			
28日 (水)		講義と演習「介護課程とケアプラン・問題解決法」			昼休み	講義と演習「介護課程とケアプラン・問題解決法」			
29日 (木)		講義と演習「健康のバロメーター・バイタルサイン」			昼休み	講義と演習「福祉用具」	講義・文部科学省	閉校式	

実施場所：日本福祉教育専門学校

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（福祉：L-2）							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 7月26日（月）～平成16年 7月30日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	27	人	参加率	108.0%
開 催 場 所	日本福祉教育専門学校							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	8	16	0	1	2
		32.0	64.0	0.0	4.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・講師の先生方から知識・技術だけでなく、生きる姿勢も学ぶ事ができました。今後もこのような研修を継続的に実施して頂きたいと強く願っています。</p> <p>・「社会福祉援助技術」は、学校で担当していながら、その指導が上手いかず、悩んでいたところでしたので、この研修に参加させていただき、とてもうれしく思いました。内容については、理論、体系、実践など幅広く所々深く掘り下げて教えてくださり、今後の授業において重点を置く所が少しわかった気がします。</p> <p>・家庭科については、県内でも年間に様々な研修がありますが、福祉科には、まだ、研修がないので、今回、研修の機会を与えて頂き、大変勉強になりました。福祉現場でのご経験を話して頂いたのも良かったと思います。</p> <p>・今回の講習内容である「社会福祉援助技術」が一番理解しにくく、生徒に教える事に少々不安を感じていましたが、研修の前半の先生方のお話の中から、福祉の考え方や他の教科や他の分野との関連が良くわかりました。また、授業のポイントや導入の仕方が大変勉強になりました。頭の中での整頓が出来たようです。</p>
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(教科名：福祉 講習番号：L-2)

委託団体名：全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月26日 (月)		開講式	講義 「社会福祉援助技術の概要」		昼 休 み	講義 「社会福祉援助技術の方法と実際Ⅰ」 個別的な援助			
27日 (火)		講義 「社会福祉援助技術の方法と実際Ⅱ」 集団及び家族への援助				講義 「社会福祉援助技術の方法と実際Ⅲ」 地域を基盤とした援助			
28日 (水)		講義と演習 「援助過程と援助技法」				講義 「社会福祉援助技術の方法と実際Ⅳ」 様々な援助技術			
29日 (木)		講義 「ケアマネジメントの実際」				演習 「ケアプランの作成」			
30日 (金)		講義と実習 「レクリエーション」 レクリエーション活動の考え方と実際				講義と演習 「コミュニケーション」 コミュニケーションの捉え方と 技法	講義「高校 教育及び福 祉科教育の 動向」文科省	閉 講 式	

実施場所：日本福祉教育専門学校

I 研修概要

研修名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（技術：G-1-1）							
担当課係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研修目的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受講対象	中学校及び中等教育学校で産業教育（技術・家庭）を担当する教員並びに都道府県教育委員会等の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開催期日	平成16年 8月16日（月）～平成16年 8月20日（金）				5日間			
受講人数	計画人数	30	人	受講者数	25	人	参加率	83.3%
開催場所	茨城大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	21 91.3	2 8.7	0 0.0	0 0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・内容の濃い研修となり今後の授業に活かしていきたいと思った。また、講師の先生方のわかりやすい資料や話し方など、自分自身の授業を反省する点も多く参考となるものばかりでした。特にかんな身の研磨など十数年やっていなかった事、現在では替刃式に頼ってしまい、価格の安いかなでもかな台やかな身などの調整による薄削りは感動しました。ぜひ、地区でも他の先生方に見せたいと思いました。</p> <p>・実習が多く、資料もたくさん頂きうれしく思っています。現場ですぐに役立つ内容ばかりで大変勉強になりました。学校に帰ったら、教材作りに励みたいと思います。又、地区の先生方に資料を差し上げようと思います。</p> <p>・この研修を通して、原点に戻ることができた。工具の整備によって見違えるほどのものになる。大切に管理していきたいと思います。すべての内容にこれからの授業に対してのヒントがあり、とても役に立っています。自分のアイデアを生かしながら、さらに発展させる事でおもしろみのある授業が展開できると思った。</p> <p>・道具・工具の管理、保守について改めてその大切さをかなの調整で実感することが出来た。また、メディアの活用もわかりやすく、我々がこれらの事を校内に広め中心となって実践していけると良いと思った。MARCOの製作もプラスチックの加工法と合わせて新しい発見があった。特にプラスチックの性質実験や加工法はすぐ実践が出来そうで自分自身、楽しみながら受講が出来た。全体的に今までの実践を見直す良い機会となり、今後の授業に大いに役立つ5日間となった。</p>
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 16 年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(技術, G-1-1)

委託団体名 茨城大学

日 時	9	9:30	10	11	12	13	14	15	16	17
8月16日 (月)	受付	開講式	講義(上野) これからの技術・ 家庭科の教育	講義(佐藤) 木工具の調整法	昼休み	講義(佐藤) かんな刃口の機 能と調整法	実習(佐藤)、助手(安田) かんな刃口の調整(埋め木溝加工と接着)			
8月17日 (火)	講義(堀田) ものづくりにおけるメデ ィアの活用			講義(村松) ロボットと技術教育	昼休み	講義(佐藤) かんな身・裏金 の研磨法	実習(佐藤)、助手(稲葉) 刃口の仕上げ、かんな身・裏金の研磨、かんな削り実 践			懇 親 会
8月18日 (水)	講義(稲葉) 新しい栽培の展開について			講義(小室) エネルギー変換 教材の製作法	昼休み	実習(小室)、助手(榊) エネルギー変換教材の製作				
8月19日 (木)	実習(小室) エネルギー変換 教材の製作	講義(小室) エネルギー変換 教材の活用		講義(野崎) プラスチックの 性質について	昼休み	実習(野崎)、助手(竹野) プラスチックの性質実験		講義(竹野) プラスチックの加工法		
8月20日 (金)	講義(安田) ボール紙による立 体模型製作技術	実習(安田)、助手(竹野) ボール紙による立体模型の製作			昼休み	講義(榊) CR回路の基礎	実習(榊)、助手(野崎) Cの充電、放電実験 時間制御回路への応用		閉講式	

実施場所：茨城大学教育学部

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（技術：G-1-2）							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	中学校及び中等教育学校で産業教育（技術・家庭）を担当する教員並びに都道府県教育委員会等の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年8月23日（月）～平成16年8月27日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	20	人	参加率	100.0%
開 催 場 所	島根大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	18	1	0	0	1
		94.7	5.3	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・日本の国のためにこの研修を続けていただきたい。自己負担しても参加させていただきたい研修です。

・技術科の教員として自分の知識、技能の低さを痛感しております。しかし、今回の研修を通して自信がついた内容が多くありました。同時に物作りの大切さと技術科の基礎基本を再確認しました。これを現場と多くの教師へ伝えていくことが私の仕事だと考えております。この研修は、日本の国をどのようにしていくのかを問題にしているような内容です。子供たちのために研修で得たものを生かしていきます。

・基本的な部分やそれについての技術等1日1日が勉強の連続で大変良かったと思います。また各県の先生方から様々な実践例を聞くことができ、自分の授業でも取り入れたいと思った。

・5日間の研修はとても有意義なものでした。前半の木材加工における工具や機械の実習は技術科教員としての原点を思い出したように感じました。また、後半のプラスチック加工も今後の技術科の方向についてひとつの新しい選択をいただきました。新しい実習室についての提案もすばらしく、どれも今後の教科指導や教科経営に役立てそうです。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(教科名, 研修番号) 技術, G-1-2

委託団体名: 国立大学法人 島根大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16
8/23 (月)	受付	開講式 及び カ イ グ ス (講義) *本講座の 活用法	(講義) *学習指導要領をふまえた 指導法	昼休み	(講義・実習) *かんな身と裏金, おいれのみの裏出しと裏押し, 刃先研磨 *かんな, おいれのみの基本的な使用法			(まとめ) 質疑応答
8/24 (火)	(講義・実習) *かんなけずり (平面, 木端, 木口けずり)	(講義・実習) *木工具使用の指導法	昼休み	(講義・実習) *木工技能の診断と観点別絶対評価 法	(講義・実習) *小型木工機械 (小型帯のこ 盤, ベルトサンダー, ディスクサンダー, ス ピンドルサンダー, 糸のこ盤, 手押 しかんな盤) の整備, 点検			(まとめ) 質疑応答
8/25 (水)	(講義) *新技術室の設備, 備品 と授業での使用法と管理 法	(講義・実習) *小型木工機械の安全な 使用法と指導法	昼休み	(講義・実習) *小型木工機械を使用した製作実習				(まとめ) 質疑応答
8/26 (木)	(講義) *プラスチックの性質と加工	(講義・実習) *プラスチック製の木材切断用 治具製作 *プラスチックの鋸断加工 (1)	昼休み	(講義・実習) *プラスチックの鋸断加工 (2)	(講義・実習) *プラスチックの面接着加工 (1)			(まとめ) 質疑応答
8/27 (金)	(講義・実習) *プラスチックの面接 着加工 (2)	(講義・実習) *プラスチックの端面研削・研磨加工 (1)	昼休み	(講義・実習) *プラスチックの端面 研削・研磨加工 (2)	(講義・実習) *プラスチックの穴開け加工, ねじ切り 加工, 組み立て			閉講式

実施場所: 教育学部木材加工実習室

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（技術：G-2-1）							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	中学校及び中等教育学校で産業教育（技術・家庭）を担当する教員並びに都道府県教育委員会等の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成17年 2月28日（月）～平成17年 3月 4日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	12	人	参加率	40.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	10 83.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・サーバの管理についてはうまく繋がらず残念でしたが、考え方や基本操作については勉強になった。今回の研修では初めて体験した事が多く、大変役立った。自分が経験を積む事で、生徒に返していけるのだという事を再確認した。</p> <p>・実習が多く、すぐに生かすことのできる内容だった。また、理解という点に重点を置いていただけた事が大変役立つと思います。サーバの管理についての知識が深まり、自分で操作する自信ができました。今後の授業設計、年計の見直しを図る必要性を強く感じました。</p> <p>・コンピュータの組み立てを経験できた事はとても有意義であった。生徒に情報とコンピュータを指導する上で、教員のアイデンティティーの核になるように思った。コンピュータの組み立てから広がっていく研修内容であれば、より理解しやすいように思える。「原理を理解できると、そこをもとに類推する授業が展開でき、生徒たちも力がついてくる」ので、そのために教師がしっかりと原理を理解しておく必要がある話はとても納得できた。その姿勢を持って指導、助言にあたっていこうと思った。</p>

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 16 年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(技術, G-2-1)

日 時	9	9:30	10	11	12	13	14	15	16	17
2月 28 日 (月)	受付	開講式	講義 (竹野) 教育の情報化と 技術・家庭科	演習 (竹野) 実践報告 (受講 者)	昼休み	講義 (村松) 情報通信技術の 理解としくみ	演習 (村松) 情報通信技術の実験と指導法	講義 (村松) 制御プログラミ ングの理解		
3月 1 日 (火)	演習 (村松) 制御プログラミングの実際と指導 法			講義 (大辻) コンピュータの 機能の理解	昼休み	演習 (大辻) コンピュータ構成部品の理解と自作教材資料の作成				
3月 2 日 (水)	演習 (大辻) コンピュータの組立, OS インスト ール, 及び組立手順資料の作成			講義 (関) インターネット と WEB サーバ	昼休み	演習 (関) WEB サーバの理解と構築・管理のしかた			講義 (上野) これからの技 術・家庭科教育	
3月 3 日 (木)	講義 (工藤) モータ制御の基 礎知識	実習 (工藤) ステッピング・モータ制御の理解と インタフェースの製作			昼休み	講義 (工藤) 自動制御とプログラミン グの理解	実習 (工藤) P I C (周辺機器接続制御用 I C) によるラ イントレーサ制御の理解と製作			
3月 4 日 (金)	講義 (野崎) ネットワークと ファイルサーバ	演習 (野崎) ファイルサーバの理解と構築・管理 のしかた			昼休み	講義 (渡邊) 技術・家庭科教育の意義と展望		閉 講 式		

実施場所：独立行政法人教員研修センター

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（技術：G-2-2）							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	中学校及び中等教育学校で産業教育（技術・家庭）を担当する教員並びに都道府県教育委員会等の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成17年 2月28日（月）～平成17年 3月 4日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	27	人	参加率	135.0%
開 催 場 所	宮城教育大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	18 66.7	9 33.3	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

・毎日使っているコンピュータに関する知識がいかに足らなかったか感じました。知れば知るほど何でも出来そうな気がした。
 ・技術教師が必要とする知識、技能をこの様な研修で学べることを非常に嬉しく思った。難しい内容が多く、全てを消化できたわけではないが、今後の授業に参考となるものがたくさんあった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(技術, G-2-2)

委託団体名 宮城教育大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
2月28日 (月)		開 講 式	(講義(実習含)) コンピュータ の基礎1(ソフ トウェア活用 環境の整備)	(講義(実習含)) コンピュータ の基礎2(周 辺装置の活 用)	昼 休 み	(講義) コンピュータの 構造1(ワンチップ マイコンから学ぶコ ンピュータの仕組み)	(実習) コンピュータの構造2(ワン チップマイコンから学ぶコ ンピュータの仕組み)		
3月1日 (火)	(講義) コンピュータデザ イン1		(実習) コンピュータデザ イン2		昼 休 み	(講義) マルチメディアコ ンテンツの作成1 (もの作り支援とし てのデジタルコン テンツの活用)	(実習) マルチメディアコンテンツの 作成2(もの作り支援としての デジタルコンテンツの活用)		
3月2日 (水)	(講義) LANによる情報活用 1(ネットワークの しくみ)		(実習) LANによる情報活用 2(情報の配信)		昼 休 み	(講義) 著作権の基礎	(講義) 教育現場における情報モラル		
3月3日 (木)	(講義(実習含)) LANによる情報活用3(ネ ットワークを使った授業 の活用)			(講義) サイバー犯 罪の現状と 対策	昼 休 み	(講義(実習含)) インターネットの 活用1(ネットワ ークセキュリティ)	(講義(実習含)) コンピュータ制御1(コンピ ュータ技術とロボット制御)		
3月4日 (金)	(講義・実習) コンピュータ制御 2(ロボットとセ ンサ)		(講義(実習含)) コンピュータ制御 3(オリジナルロ ボットの製作とそ の授業での活用)		昼 休 み	(講義(実習含)) インターネ ットの活用 2(新しい 情報発信の 方法)	(講義・協 議) 中学校に おける情 報教育の 位置づけ	閉 講 式	

実施場所 宮城教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（技術：G-2-3）							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	中学校及び中等教育学校で産業教育（技術・家庭）を担当する教員並びに都道府県教育委員会等の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成17年 2月28日（月）～平成17年 3月 4日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	15	人	参加率	50.0%
開 催 場 所	滋賀大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	13	2	0	0	0
		86.7	13.3	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・これまで情報教育について整理できてなかった事等、見つめ直す良い機会にすることができた。講義で学んだ事はまだ自分のものに出来てないので、これから早い段階で見直しを行い、実際の学校活動に使っていきたいと考えている。特に一面的な手慣れた指導方法や教材等より離れ、他視点より見つめ、目の前の生徒にとってより良いものを選択、創造する意志を持つか否かが問われている事が身にしみた。</p> <p>・研修により情報の指導者としての本質的な考え方がつかめてきたように思う、大変満足している。先生方の情熱を持って取り組まれている姿を拝見し、これから自分自身も情報教育を深く勉強していきたいと思った。</p>
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(技術, G-2-3)

委託団体名：国立大学法人 滋賀大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16
2/28 (月)	(受付)	(開講式) 本講座 の概要	(講義) 学習指導要領をふまえた 指導法	昼休み	(講義・実習) 総合実習1		(講義・実習) 総合実習2	(まとめ) 質疑応答1
3/1 (火)	(講義・実習) ネットワーク1		(講義・実習) ネットワーク2	昼休み	(講義・実習) ネットワーク3		(講義・実習) ネットワーク4	(まとめ) 質疑応答2
3/2 (水)	(講義・実習) マルチメディア1		(講義・実習) マルチメディア2	昼休み	(講義・実習) 計測と制御1		(講義・実習) 計測と制御2	(まとめ) 質疑応答3
3/3 (木)	(講義) 高度情報通信社会におけ る情報技術教育		(講義・実習) 情報モラルおよび個人情 報保護とその指導	昼休み	(講義・実習) 支援システムの利用と情 報モラルの指導(1)		(講義・実習) 支援システムの利用と情 報モラルの指導(2)	(まとめ) 質疑応答4
3/4 (金)	(講義・演習) 小学校から中学校への効 果的な接続1		(講義・演習) 小学校から中学校への効 果的な接続2	昼休み	(講義) 中学校から高等学校への 効果的な接続		(研究協議) 小学校・中学校・高等学 校の円滑な接続に向けて	(開講式)

実施場所：教育学部 第2情報演習室, 第3情報演習室, 第6講義室

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（技術：G-2-4）							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	中学校及び中等教育学校で産業教育（技術・家庭）を担当する教員並びに都道府県教育委員会等の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成17年 2月14日（月）～平成17年 2月18日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	13	人	参加率	65.0%
開 催 場 所	鳴門教育大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	5 38.5	8 61.5	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・ 全ての内容について、充実して満足しています。とても難しい内容が多く、十分に理解できていないが、日常の中ではもちろん、県の教育センター等の研修では得られない内容だったので、ある程度、定期的に受講したいと思った。</p> <p>・ 講義の内容は、興味深いものばかりでしたが、聞けば聞くほど、考えれば考えるほど、理想と現実（やりたい事と要求されること）のギャップを感じた。生徒や学校の現状の中で、いかに本来の（本質的な）技術を教えていくのか、常に研究していかなければいけないと痛感しました。</p> <p>・ この研修に参加させていただけたことで、「情報とコンピュータ」での指導すべき事柄の方向性が見えてきた気がする。今までの自分自身が狭い視野でしか技術科を見てなかったことに反省しました。10年先、20年先、更にはその先をも見越した上で、日々、研究されている大学の先生方と出会えたことを感謝するとともに、これからも私達に教えていただけたら幸いです。</p> <p>・ 私自身、「情報とコンピュータ」について、勉強不足で参加しましたが、今後の「情報とコンピュータ」を進める上で、方向が見えてきました。特に、「コンピュータシステムとネットワーク」を勉強し、学校の環境を整えていきたいと思ひます。授業においては、時数が少なくなっており、どのように進めていくべきか、将来をみすえて、授業を改めていきたいと思ひます。</p>
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(技術, G-2-4)

委託団体名 鳴門教育大学

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
平成17年 2月14日(月)		開 講 式	技術「情報 とコンピ ュータ」概説	高度情報社 会と情報モ ラル	昼食	計算機器の変遷	計算具教材の開発		
2月15日(火)	マルチメディアと 情報技術教育		マルチメディア と情報技術教育		昼食	Web環境とソフトウ ェア利用	Web環境とソフトウ ェア利用		
2月16日(水)	コンピュータシ ステムとネット ワーク	コンピュータシ ステムとネット ワーク		昼食	コンピュータシステ ムとネットワーク	コンピュータシステ ムとネットワーク			
	計測と制御	計測と制御			計測と制御	計測と制御			
2月17日(木)	計測と制御	計測と制御		昼食	計測と制御	計測と制御			
	コンピュータシ ステムとネット ワーク	コンピュータシ ステムとネット ワーク			コンピュータシステ ムとネットワーク	コンピュータシステ ムとネットワーク			
2月18日(金)	情報技術教育の 捕らえ方		「情報とコンピ ュータ」ディス カッション		昼食	「情報とコンピ ュータ」ディスカ ッション	閉 講 式		

実施場所 情報処理センター他

(注) 別紙記入例を参考に、なるべくワープロにより記入くださるようお願いします。

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（家庭：H-1）							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	中学校及び中等教育学校で産業教育（技術・家庭）を担当する教員並びに都道府県教育委員会等の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 7月26日（月）～平成16年 7月30日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	50	人	受講者数	39	人	参加率	78.0%
開 催 場 所	東京学芸大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	19	14	1	0	2
		55.9	41.2	2.9	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・日頃の教育現場の多忙さから新しい情報を得る機会が少なく私自身もっと勉強しなければと思っていた時、今回の研修を受ける事が出来、とてもうれしく思います。いろんな分野から幼児理解について研修する事が出来、大変勉強になりました。2日間の保育観察を通して、これまでの体験学習の反省点や課題も見つけることができました。これからの授業実践に生かしていきたいと思えます。

・幼児理解についての研修会は、今までなかったので、最近の幼児の情報などが聞けて授業に生かされます。また、他地域の中学校の取り組みなどもわかり参考になりました。家庭科の授業に役立つ内容であったとともに、中学生の生徒理解にも大変役立つ内容でありました。心の悩みを抱える生徒が増えてきていて、その子達と話すとき、幼稚園、保育園の先生のような接し方も一つの方法であると感じました。

・保育園の先生方から、保育に関する現場の声が多数聞かせて頂いたことも、大変参考になりました。幼児の問題が、そのまま、今、教えている生徒達の現状にあてはまることもあり（人間関係を上手く作れない子、感情のコントロールが出来ない子など）、そういった点でも、今後の教育活動に生かしていきたいと思えます。日頃、不安に思いながら実践してきたことに力強い裏付けを頂きました。

・「保育」領域について今までどちらかというと関心や研究が不十分で教えにくい領域の1つでした。中学生に興味関心を持たせるにはやはり自分自身のしっかりした課題意識の基、何を伝えたいかをはっきりさせる必要があると実感しました。題材の設定や指導の工夫に今回の経験を生かし、良い授業作りをしたいと思えます。

・保育の専門家からの助言を沢山もらい、他県の先生方の工夫や苦勞している点について共感出来たことなど大変有意義な研修でした。おもちゃ作りの視点など現場で子供達に返してあげたいことが沢山あり、大切に活用したいと思えます。保育園、幼稚園訪問の意義を確認できたことや夏休みなどの活用等や諦めかけていた実施に向けて頑張ってみようと思える研修となり感謝しています。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

時 間	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:00	14:30	15:00	16:00
7月26日 (月)		受付	開講式 がダンス	(講義) 「技術・家庭科の指導と評価」 (担当) 岡 陽子 (文部科学省初 等中等教育局教科書調査官) (会場) 総合教育科学系研究棟3号 館		(講義) 幼児理解 I 家族の中での乳幼児の発達 (担当) 倉持清美(東京学芸大学助教授) (会場) 総合教育科学系研究棟3号館	(講義) 「家庭科における保育学習 I:中 生の実態をふまえて」 (担当) 大竹美登利(東京学芸大 学教授) 会場) 総合教育科学系研究棟3号館			
7月27日 (火)		(講義) 「幼児理解 II」 保育場面の子供の遊びなどについて発達の側面から説明 (担当) 倉持清美(東京学芸大学助教授) (会場) 総合教育科学系研究棟3号館				(オリエーション) 「保育理解 I」 保育園観察のオリエンテー ションを行う (担当) 倉持清美 (東京学芸大学助教授) 他 (会場) 総合教育科学系研究 棟3号館	(講義) 「子どもの遊び空間」 (担当) 小澤紀美子(東京学芸大学教授) (会場) 総合教育科学系研究棟3号館			
7月28日 (水)		(実習) 「保育観察 I」: 保育所で観察を行う (担当) 倉持 清美(東京学芸大学助教授) 待井ナオミ(元東京学芸大学附属幼稚園教諭) 福田きよみ(東京学芸大学非常勤講師) 東京学芸大学大学院生 4名 (会場) 小金井, 国分寺地区保育園 (13園)				(講義) 「保育理解II: 保育園の現状と課題」 (担当) 荅 清美(元愛の園保育園園長) (会場) 総合教育科学系研究棟3号館	(講義) 「家庭科における保育学習 II: 日 本における保育学習の変遷と、米 国・アジアの現状」 担当) 池崎喜美恵(東京学芸大学教授) (会場) 総合教育科学系研究棟3 号館			
7月29日 (木)		(実習) 「保育観察 II」: 保育所で観察を行う (担当) 倉持 清美(東京学芸大学助教授) 村石理恵子(東京学芸大学附属幼稚園教員) 待井ナオミ(元東京学芸大学附属幼稚園教諭) 福田きよみ(東京学芸大学非常勤講師) 東京学芸大学大学院生 4名 (会場) 小金井, 国分寺地区保育園 (13園)				(演習) 「保育体験学習指導法」 グループディスカッション (担当) 伊藤良子(東京学芸大学教授) 荅清美(元愛の園保育園園長) 待井ナオミ(元東 京学芸大学附属幼稚園教諭) 福田きよみ(東京学 芸大学非常勤講師) 村石理恵子(東京学芸大学附 属幼稚園教諭) 井口眞美(東京学芸大学附属幼稚園 教諭) 倉持 清美(東京学芸大学助教授) (会場) 総合教育科学系研究棟3号館	(演習) 「保育体験学習の展開」 パネルディスカッション 担当) 倉持 清美(東京学芸大学助教授) 大竹美登利(東京学芸大学教授) パネラー) 井口眞美(東京学芸大学附属 幼稚園教諭) 金子京子(さいたま市立中 学校教諭) 望月一枝(私立茗溪中学校教諭) 会場) 総合教育科学系研究棟3号館 15時から18時まで			
7月30日 (金)		(講義) 「保育の現代的問題」 現代社会における保育の問題を扱う (担当) 田村 毅(東京学芸大学助教授) (会場) 総合教育科学系研究棟3号館			閉講式					

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (工業情報：I-1)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年11月 8日 (月) ～平成16年11月19日 (金)				10日間			
受 講 人 数	計画人数	13	人	受講者数	15	人	参加率	115.4%
開 催 場 所	NTT東日本研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	6 40.0	9 60.0	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・短い期間であったが、充実した研修であった。今後、この研修で習った事をもとに、生徒の指導にあたりたいと思う。 ・大変参考になった。現場にいたのでは、これほど集中して研修できない。もう少し日数が長期の方が良いと思った。工業分野の研修は、本県ではほとんどやられていないので今後も必要と思いました。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程（新産業技術等指導者養成講習）

（情報技術コース 工業・情報，I-1）

委託団体名：株式会社東大総研

日 時	10	11	12	13	14	15	16	17
11月8日(月)	開講式／ガイダンス (講義) Linuxとコンピュータネットワークの動向	(講義) 「情報技術教育」 について<仮題>	昼休み	(実習) OSインストール、LAN構築実習		休憩	(実習) OSインストール、LAN構築実習	
11月9日(火)	(講義) Linuxの操作～C言語、UDPソケットを主体として		昼休み	(講義) Linuxの操作～C言語、UDPソケットを主体として		休憩	(講義) Linuxの操作～C言語、UDPソケットを主体として	
11月10日(水)	(講義) Linuxの操作～C言語、UDPソケットを主体として		昼休み	(講義) H8マイコン制御プログラミング		休憩	(講義) H8マイコン制御プログラミング	
11月11日(木)	(講義) H8マイコン制御プログラミング		昼休み	(講義) H8マイコン制御プログラミング		休憩	(講義) H8マイコン制御プログラミング	
11月12日(金)	(講義) H8マイコン制御プログラミングと課題研究に向けた指導		昼休み	(講義) H8マイコン制御プログラミングと課題研究に向けた指導		休憩	(講義) H8マイコン制御プログラミングと課題研究に向けた指導	
11月15日(月)	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施		昼休み	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施		休憩	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施	
11月16日(火)	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施		昼休み	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施		休憩	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施	
11月17日(水)	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施		昼休み	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施		休憩	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施	
11月18日(木)	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施		昼休み	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施		休憩	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施	
11月19日(金)	(発表準備) 課題研究成果発表準備		昼休み	(発表) 課題研究発表		休憩	(発表) 課題研究成果発表・閉講式	

*土、日曜日はお休み

実施場所：NTT東日本研修センタ

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (工業情報：I-2)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年8月16日（月）～平成16年8月27日（金）				10日間			
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	19	人	参加率	76.0%
開 催 場 所	株式会社内田洋行							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	13	4	0	0	2
		76.5	23.5	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・講義は大変充実したものとなりました。特に経験に基づいた数々のテクニックや考え方で教えていただき良かった。また、何と云っても全国の先生たちと色々な話ができて、考え方も広がったのは、このような機会をおいて他にないものであり、良い機会に恵まれたものと感謝しています。</p> <p>・ここで学んだ事を少しでも生徒に還元できるようにこれからも頑張りたいと思います。</p> <p>・大変有意義な研修で勉強になりました。CG関係の知らない世界のことも理解できましたし、現在のこの世界の動きも理解できたように思います。本校では、これらのソフトに対応できるようなスペックのマシンがないので、子供達に伝達できないのが残念です。しかし、次の更新時には、必ず、検討をしたいと思います。</p>
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

月日	曜日	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8月16日	月				受付	開講式	(講義) 文部科学省	(講義) デジタル化技術の現状と今後 オートデスク、 アドビシステムズ			
8月17日	火		(実習) 2次元データの作成 [Auto CAD Mechanical , AutoCAD Revit]		昼休み		(実習) 2次元データの作成 基礎 [Auto CAD Mechanical , AutoCAD Revit]				
8月18日	水		(実習) 3次元データの作成 [Inventor]		昼休み		(実習) 3次元データの作成 基礎 [Inventor]				
8月19日	木		(実習) 3次元データの作成 [Inventor]		昼休み		(実習) 3次元データの作成 応用 [Inventor]				
8月20日	金		(実習) レンダリング・モデリング・アニメーションの作成 [Viz]		昼休み		(実習) レンダリング・モデリング・アニメーションの作成 応用 [Viz]				
8月21日	土										
8月22日	日										
8月23日	月		(実習) デジタル画像の編集、グラフィックの作成		昼休み		(実習) デジタル画像の編集、グラフィックの作成 [PhotoShop、Illustrator]				
8月24日	火		(実習) デジタルビデオデータの編集		昼休み		(実習) デジタルビデオデータの編集 [After Effects、Premiere、Encore DVD]				
8月25日	水		(見学) 最新施設見学		昼休み		(見学) 最新施設見学				
8月26日	木		(実習) 課題研究 プレゼンテーション準備		昼休み		(実習) 課題研究、プレゼンテーション準備 DVDオーサリングツールによるDVD作成 [After Effects、Premiere、Encore DVD]				
8月27日	金		(研究協議) 課題発表		昼休み	閉講式					

実施場所: 株式会社 内田洋行 潮見オフィス 〒135-8730 東京都江東区潮見2-9-15 TEL: 03-56734-6397 FAX: 03-5634-4088

※上記内容につきましては、変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (商業情報：J-1)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 7月26日 (月)～平成16年 8月 6日 (金)				10日間			
受 講 人 数	計画人数	12	人	受講者数	9	人	参加率	75.0%
開 催 場 所	千葉商科大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	6 66.7	2 22.2	1 11.1	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 10日間という期間で中身の濃い講習を受講でき、とても良かった。これをきっかけに、プログラミングや情報処理教育に積極的に取り組みたいと思いましたし、少しでも周りの教員に伝える事ができればと思った。 ・ 今まで、独学で頑張ってきたソフトウェアに関する内容について、より理解度が深まったと思う。このことを生かしてどのように生徒に還元するかを考えたいと思いました。 ・ 以前から、断片的にしか理解していなかった事柄について、じっくりと自分自身、時間をかけて学ぶことができた。今後、また、校務に追われる日々を迎えるが、「学ぶ時間」「学ぶ機会」というのを、意識して確保していけるようにしたい。
--

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修

① マルチメディアの活用とプログラミングに関する講義と実習 研修日程

(商業・情報 J-1)

全国商業高等学校長協会
実施 千葉商科大学

月 日	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	14:00	15:00	16:30
7月26日 (月)	受付	諸連絡・開講式	商業教育の課題と動向 (講義)	昼休み	「プログラミングの指導」 Visual Basic.net-1 (講義と実習)			
7月27日 (火)	「プログラミングの指導」 Visual Basic.net-2 (講義と実習)				「プログラミングの指導」 Visual Basic.net-3 (講義と実習)			
7月28日 (水)	「プログラミングの指導」 Excel-VBAプログラミング-1 (講義と実習)				「プログラミングの指導」 Excel-VBAプログラミング-2 (講義と実習)			
7月29日 (木)	「プログラミングの指導」 Excel-VBAプログラミング-3 (講義と実習)				「プログラミングの指導」 システム開発とデータベースソフト-1 (講義と実習)			
7月30日 (金)	「プログラミングの指導」 システム開発とデータベースソフト-2 (講義と実習)				「プログラミングの指導」 システム開発とデータベースソフト-3 (講義と実習)			
8月2日 (月)	「システム開発演習」 課題研究-1 (実習)				「システム開発演習」 課題研究-2 (実習)			
8月3日 (火)	「システム開発演習」 課題研究-3 (実習)				「システム開発演習」 課題研究-4 (実習)			
8月4日 (水)	「システム開発演習」 課題研究-5 (実習)				「システム開発演習」 課題研究-6 (実習)			
8月5日 (木)	「システム開発演習」 課題研究開発システムの発表-1 (実習と協議)				「システム開発演習」 課題研究開発システムの発表-2 (実習と協議)			
8月6日 (金)	経営情報教育の指導 (講義)	本校の経営情報教育 (講義)			経営情報教育の指導 各校のカリキュラム (研究協議)		閉講式	

午前中は
J-2と共通

午前・午後共に
J-2と共通

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (商業情報：J-2)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年 7月26日 (月)～平成16年 8月 6日 (金)				10日間			
受 講 人 数	計画人数	24	人	受講者数	14	人	参加率	58.3%
開 催 場 所	千葉商科大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	8; 57.1	6; 42.9	0; 0.0	0; 0.0	0;

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・今回、このような機会に参加でき、勉強することが出来たことを感謝している。現場はとても多忙だが、今回のようにゆったり色々なソフトについて研修することができ良かった。又、今回の研修で、他府県の先生から得た指導方法なども授業にいかしていきたい。</p> <p>・情報教育全般について、学ぶことが出来て良かった。自分でやっていく中で間違っていなかった点や確認ができた部分があり、とても勉強になった。特に、ネットワークの基礎は、学校では、出来にくい内容であり、IPの割り当てを行う所まで、よく理解する事ができた。全国の商業科教師の集まりで、刺激があり、充実した研修となった。</p> <p>・幅広い内容で多くのことを学ぶことができた。担当していない分野については研究したいという思いはあっても、なかなか、取り組む事が出来ないのが現状であったが、研究を進める良いきっかけとなったと思う。今回学んだ事を持ち帰り研究を進めたいと思う。</p>

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修

②ソフトウェアの活用とプログラミングに関する講義と実習 研修日程

(商業・情報 J-2)

全国商業高等学校長協会
実施 千葉商科大学

月 日	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	14:00	15:00	16:30
7月26日 (月)	受付 諸連絡・開講式		商業教育の課題と動向 (講義)		昼休み	「ビジネス情報の指導」 表計算ソフトの活用とVBA-1 (講義と実習)		午前中は J-1と共通
7月27日 (火)	「ビジネス情報の指導」 表計算ソフトの活用とVBA-2 (講義と実習)					「ビジネス情報の指導」 表計算ソフトの活用とVBA-3 (講義と実習)		
7月28日 (水)	「ビジネス情報の指導」 データベースソフトの活用-1 (講義と実習)					「ビジネス情報の指導」 データベースソフトの活用-2 (講義と実習)		
7月29日 (木)	「ビジネス情報の指導」 データベースソフトの活用-3 (講義と実習)					「文書デザインの指導」 マルチメディアの活用-1 (講義と実習)		
7月30日 (金)	「ビジネス情報の指導」 ネットワークの基礎-1 (講義と実習)					「ビジネス情報の指導」 ネットワークの基礎-2 (講義と実習)		
8月2日 (月)	「文書デザインの指導」 プレゼンテーションとその指導-1 (講義と実習)					「文書デザインの指導」 プレゼンテーションとその指導-1 (講義と実習)		午前・午後共に J-1と共通
8月3日 (火)	「文書デザインの指導」 Webデザインと情報発信-1 (講義と実習)					「文書デザインの指導」 Webデザインと情報発信-2 (講義と実習)		
8月4日 (水)	「文書デザインの指導」 Webデザインと情報発信-3 (講義と実習)					「総合実践の指導」 簿記教育とコンピュータ活用-1 (講義と実習)		
8月5日 (木)	「総合実践の指導」 マーケティング教育とコンピュータ活用-1 (講義と実習)					「総合実践の指導」 マーケティング教育とコンピュータ活用-2 (講義と実習)		
8月6日 (金)	経営情報教育の指導 (講義)		本校の経営情報教育 (講義)			経営情報教育の指導 各校のカリキュラム (研究協議)		
							閉講式	

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (先端技術体験プログラム)							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校及び中等教育学校の産業教育担当教員並びに教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事							
開 催 期 日	平成16年8月10日（火）～平成16年8月13日（金）				4日間			
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	24	人	参加率	80.0%
開 催 場 所	富士ソフトABC株式会社							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	12	11	1	0	0
		50.0	45.8	4.2	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・現場で使用されている先端技術の一端に触れ、大変勉強になりました。ものづくりへのアプローチは、以前より大きく変化したと実感しましたが、工業高校として、卒業生へどのように教育すべきかも改めて深く考える良い機会となりました。

・最先端の技術を体験し、大変勉強になりました。ただ、これらの技術をどのように活用したら授業で使えるのだろうかという課題もあります。P S p i c eは、電子回路エミュレータということで、早速、2学期の課題研究に取り入れて活用していきたいと思います。

・最先端の技術に触れることで、自分の視野が広がった。しかし、自分の知識不足もかなり認識できたので、今後、自分なりに知識も増やして、今回の研修を生かせたら良いと思った。

・講義と実習のバランスが良かったと思います。改めて、CAEの重要性が実感できる内容であり、新しい教育内容を考えカリキュラム開発をするにあたり様々なヒントが得られたような気がします。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(先端技術体験プログラム、K-1)

富士ソフトABC株式会社

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月10日(火)			開講式	昼休	(講義) CAE概論	(講義、実習) 数式処理ソフトウェア Maple入門/実習			(見学) FSIABC
8月11日(水)	(講義、実習) 回路シミュレーションソフトウェア PSpice入門/実習			昼休	(講義、実習) 回路シミュレーションソフトウェア PSpice入門/実習				
8月12日(木)	(講義、実習) 制御・通信設計ソフトウェア MATLAB入門/実習			昼休	(講義、実習) 制御・通信設計ソフトウェア MATLAB入門/実習				
8月13日(金)	(講義、実習) 設計者向けFEM解析ソフトウェア DesignSpace入門/実習			文部科学省 池守調査官 講演	閉講式				

実施場所:富士ソフトABC東京オフィス 2Fプレゼンルーム

(注)別紙記入礼を参考に、なるべくワープロにより記入くださるようお願いいたします。

I 研修概要

研修名	産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修（高等学校産業教育実習助手講習）-農業-							
担当課係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研修目的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する実習助手に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受講対象	高等学校の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者。							
開催期日	平成16年 7月28日（水）～平成16年 8月 5日（金）			8日間				
受講人数	計画人数	30	人	受講者数	31	人	参加率	103.3%
開催場所	東京農工大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	13 41.9	17 54.8	1 3.2	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

・どの講義の中からも農業と環境問題の内容があり、これからの農業教育には、環境教育と食の教育の必要性を感じました。職場に戻り、今回の講義を生かし生徒達に少しでも還元していきたいと思えます。

・話題の最先端を拝聴出来て大変満足しております。夢中で過ごしました。課題、レポートを通して“反すう”し、自分のものに出来ればと思えます。

・各教授の皆さんが工夫して1時間もしくは2時間の講義をして下さったのでとても勉強になりました。8日間、初めて知ることたくさんありこの分野の広さを改めて実感しました。

・大変バラエティーあふれる内容で、講師の先生によっても全く違うので、充実していたように思えます。特に環境問題等については高校で生徒達に授業を通して伝えられたらと思いました。

・農業における最先端技術、研究内容等の実践例や改善点など今後農業実習等に役立つ内容であった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修日程

(教科名, 農業 講習番号)

委託団体名 国立大学法人 東京農工大学

日時	9	10	11	12	13	14	15	16
平成16年 7月28日(水)			開講式 オリエンテーション	昼休み	(実習) 2-⑨ フリーストール乳牛舎の 運用	休憩	(実習) 2-⑩ ブルーベリー栽培の実 際	
7月29日(木)	(講義) 1-① 農業の教育力	休憩	(講義) 2-⑦ 群での家畜感染症対策	昼休み	(講義) 1-⑦ 「農業教育法Ⅰ 課題と方 法」	休憩	(講義) 3-⑧ 森林資源の形成と環境 法	
7月30日(金)	(講義) 1-② 農業高校教育の課題	休憩	(講義) 2-⑧ 感染症検査原理と実際	昼休み	(講義) 1-⑤ 農業とバイオエネルギー 1	休憩	(講義) 1-⑥ 農業とバイオエネルギー 2	
7月31日(土)	(講義) 3-⑤ 紙のリサイクル	休憩	(講義) 1-③ 農場実習の実際	昼休み	(講義) 1-④ 農場実習の課題	休憩	(講義) 3-⑥ 環境・資源と分光分析	
8月 1日(日)								
8月 2日(月)	(講義) 1-⑧ 「農業教育法Ⅱ 政策動 向」	休憩	(講義) 3-① 人間と環境	昼休み	(講義) 2-① 作物の多収の科学	休憩	(講義) 2-② 有用微生物の農業利用	
8月 3日(火)	(講義) 3-④ 環境汚染物質の化学	休憩	(講義) 3-② 重金属の植物への影響	昼休み	(講義) 2-⑤ 大動物繁殖学の進歩1	休憩	(講義) 2-⑥ 大動物繁殖学の進歩2	
8月 4日(水)	(講義) 3-⑦ 珪素と植物と地球環境	休憩	(講義) 3-③ 植物と環境ストレス	昼休み	(講義) 2-③ 植物のバイオテクノロ ジー	休憩	(講義) 2-④ 作物の鮮度保持	
8月 5日(木)			(講義) 特別講義 「21世紀型農 業の機械化技術－農業用ロ ボットから精密農法へ」	昼休み	閉講式			

I 研修概要

研 修 名	産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修（高等学校産業教育実習助手講習）-工業-							
担 当 課 係	研修事業第三課 体育・産業教育係							
研 修 目 的	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高年齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する実習助手に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。							
受 講 対 象	高等学校の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者。							
開 催 期 日	平成16年 8月18日（水）～平成16年 8月27日（金）			8日間				
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	23	人	参加率	76.7%
開 催 場 所	群馬大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有 意義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	15	8	0	0	0
		65.2	34.8	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・参加する前は、8日間もあり不安であったが、終わってみれば短く感じ、もう少し勉強したい気持ちになりました。参加されていた他校の先生方も非常に勉強熱心であり、また、環境の良い場所を提供していただいた事もあり、集中して勉強することができた。同じ実習助手という事で、学校で抱える疑問や不安など理解し合えた事も大きかったです。</p> <p>・今回参加できて大変うれしく思っています。普段の生活の中での視点の向け方や考え方、知識の使い方、現在の状況における対応など、いろいろ学ぶことができました。この研修を生かして生徒へどのように伝えていくか、考えていき、授業などに生かしていきたいです。</p> <p>・同じ職種の全国の仲間と交流ができ、又、現在、大学で研究されている最先端の技術にも触れることができ、非常に有意義でした。来年度から派遣者負担となるようですが、私自身は参加したいと思っています。</p> <p>・8日間を通して、最新の技術や国の政策を聞くことができ、大変勉強になりました。特に電気電子工学は、自身の一番勉強したかった内容を知ることができ、更に、高校の教科書では学び得ない内容まで深く学習が出来ました。自身で、更に、学習を進めていきたいと思えます。</p> <p>・工業化学では、大変興味深くわかりやすく教えて頂きました。電気電子工学では、それぞれの専門分野と最先端の技術について教えてもらうことができた。工業科教育法では、教員としての今後のあり方について学ぶものがあり大変参考になった。</p>

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成16年度産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修日程

群馬大学工学部

(会場：総合研究棟5階：502講義室)

日 程	第 1 時 限 8 : 5 0 ~ 1 0 : 2 0	休 憩	第 2 時 限 1 0 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0	昼 食 (60)	第 3 時 限 1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0	休 憩	第 4 時 限 1 4 : 4 0 ~ 1 6 : 1 0
8月18日(水)	[受付・開講式・オリエンテーション]				工業科教育法(池守 滋)		工業科教育法(池守 滋)
8月19日(木)	工業科教育法(池守 滋)		工業科教育法(池守 滋)		工業科教育法(池守 滋)		工業科教育法(池守 滋)
8月20日(金)	工業科教育法(池守 滋)		工業科教育法(池守 滋)		工業科教育法(池守 滋)		物理化学1(奥津哲夫)
8月21日(土)							
8月22日(日)							
8月23日(月)	物理化学2(奥津哲夫)		物理化学3(奥津哲夫)		無機化学1(尾崎純一)		無機化学2(尾崎純一)
8月24日(火)	無機化学3(尾崎純一)		有機化学1(佐野 寛)		有機化学2(佐野 寛)		有機化学3(佐野 寛)
8月25日(水)	電子回路の考え方(宮崎卓幸)		アナログ集積回路設計(小林春夫)		半導体とトランジスタ(佐々木・ 義智)		画像再構成アルゴリズムを用いた 計測とその応用(伊藤直史)
8月26日(木)	光から電子, それから場の顕微 鏡へ(保坂純男)		ベイズ推定とその応用(稲村 實)		レーザーとホログラフィ(山口 一郎)		エネルギー危機とその対策(近藤 義臣)
8月27日(金)	電気自動車(石川赴夫)		閉 講 式				

9月10日(金)	報告書(レポート)提出期限
----------	---------------